

齒科医師国家試験出題基準

令和9年版

厚生労働省医政局齒科保健課

目次

令和9年版歯科医師国家試験出題基準改定の概要

歯科医師国家試験出題基準の利用法

ブループリント（歯科医師国家試験設計表）

必修の基本的事項・・ 1
 基準値を理解すべき検査項目（基準値を明記しない検査項目）

歯科医学総論

総論Ⅰ 保健・医療と健康増進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化・・・・・・・・・・・・ 15
 総論Ⅲ 病因、病態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
 総論Ⅳ 主要症候・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
 総論Ⅴ 診察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
 総論Ⅵ 検査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
 総論Ⅶ 治療・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
 総論Ⅷ 歯科材料と歯科医療機器・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

歯科医学各論

各論Ⅰ 成長・発育に関連した疾患・病態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
 各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
 各論Ⅴ 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した
 疾患・病態・予防ならびに歯科診療・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47

主な検査項目の表記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51

索引・・ 59

参考

歯科医師国家試験制度改善検討部会報告書（令和7年3月31日）

令和9年版歯科医師国家試験出題基準改定の概要

1. 歯科医師国家試験出題基準改定の経緯

歯科医師国家試験出題基準は、昭和60年に策定されて以来、歯科医療・歯学教育の変化に合わせて4年毎に改定し、内容の見直しを継続的に行っている。今回の改定は、令和7年3月に取りまとめられた「歯科医師国家試験制度改善検討部会報告書」の提言を踏まえて行った。

2. 歯科医師国家試験出題基準改定部会

令和7年9月30日に「歯科医師国家試験出題基準改定部会」を設置し、計4回の会議を開催して、現行（令和5年版）の歯科医師国家試験出題基準について議論のうえ改定作業を行った。

3. 改定の基本的な考え方

- (1) 令和9年版歯科医師国家試験出題基準の改定にあたっては、令和7年3月に取りまとめられた「歯科医師国家試験制度改善検討部会報告書」（以下、「報告書」という。）の提言を踏まえる。
- (2) 令和5年版歯科医師国家試験出題基準は令和3年3月に公表されたことから、用語や社会情勢の変化などを踏まえた必要最小限の改定を行う。
- (3) 報告書の提言を踏まえ、以下2項目について充実を図る。
 - ・情報倫理及びデータ保護に関する原則に関する内容
 - ・病院歯科等の役割に関する内容

4. 採用時期と問題の出題

今回、改定した出題基準は、第120回歯科医師国家試験（令和9年）から採用するが、改定当初は特に、出題基準の改定による受験者の混乱がないよう、現在の歯学部における授業内容等を考慮し、歯科医師試験委員会で問題の内容等について十分に議論を行ったうえで出題する。

5. おわりに

本出題基準が正しく理解され、歯科医師試験委員によって活用されることにより、歯科医師国家試験が妥当な範囲と適切な水準で行われることを期待する。

歯科医師国家試験出題基準改定部会 委員名簿

部会長	林 孝文	新潟大学大学院医歯学総合研究科教授
	池邊 哲郎	福岡歯科大学口腔歯学部教授
	井上 誠	新潟大学大学院医歯学総合研究科教授
	上田 貴之	東京歯科大学教授
	鵜澤 成一	大阪大学大学院歯学研究科教授
	柿本 直也	広島大学大学院医系科学研究科教授
	柏崎 晴彦	九州大学大学院歯学研究院教授
	加藤 隆史	大阪大学大学院歯学研究科教授
	上岡 寛	岡山大学医歯薬学総合研究科教授
	久山 佳代	日本大学松戸歯学部教授
	小林 真之	日本大学歯学部教授
	小松澤 均	広島大学大学院医系科学研究科教授
	斎藤 隆史	北海道医療大学歯学部教授
	佐藤 聡	日本歯科大学新潟生命歯学部教授
	柴 秀樹	広島大学大学院医系科学研究科教授
	自見 英治郎	九州大学大学院歯学研究院教授
	須田 直人	明海大学歯学部教授
	武部 純	愛知学院大学歯学部教授
	玉置 幸雄	福岡歯科大学口腔歯学部教授
	玉置 幸道	朝日大学歯学部教授
	内藤 真理子	広島大学大学院医系科学研究科教授
	仲野 和彦	大阪大学大学院歯学研究科教授

西村 正宏	大阪大学大学院歯学研究科教授
馬場 麻人	徳島大学大学院医歯薬学研究部教授
船津 敬弘	昭和医科大学歯学部教授
三浦 宏子	北海道医療大学歯学部特任教授
水田 健太郎	東北大学歯学研究科教授
村田 比呂司	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授
森川 和政	九州歯科大学歯学部教授
山口 秀紀	日本大学松戸歯学部教授
山本 龍生	神奈川歯科大学教授

オブザーバー	栗田 浩	全国病院歯科医協会
	奈良 信雄	一般社団法人日本医学教育評価機構

(五十音順、敬称略)

歯科医師国家試験出題基準の利用法

はじめに

歯科医師国家試験は、歯科医師法第9条に基づいて、「临床上必要な歯科医学および口くう衛生に関して、歯科医師として具有すべき知識および技能について」行われる。第9条にいう「知能と技能」とは、臨床研修歯科医師として歯科医療に第一歩を踏み出し、指導歯科医の下でその任務を果たすのに必要な基本的知識及び技能であると考えられる。

その内容を具体的な項目によって示したのが、歯科医師国家試験出題基準（以下「出題基準」という。）である。歯科医師国家試験の妥当な内容、範囲及びレベルを確保するため、歯科医師試験委員（以下「試験委員」という。）は、この出題基準を踏まえて出題する。ただし、出題内容に関する最終的な判断は、試験委員会が行うものとする。

したがって、出題基準は歯学部卒前の歯学教育で扱われる内容の全てを網羅するものでなく、これらの教育のあり方を拘束するものでもない。

利用方法

1. 「必修の基本的事項」、「歯科医学総論」および「歯科医学各論」の関係性

「必修の基本的事項」は「歯科医師として必ず具有すべき基本的最低限度の知識」であることから、歯科医師として必要な基本的知識（土台となる知識）とする。「歯科医学総論」と「歯科医学各論」は、「必修の基本的事項」を土台として構成される、歯科医師として必要な専門的・臨床的知識とする。このような関係性を基本とする。

2. 大・中・小項目、備考

- (1) 大項目は、中項目を束ねる見出しを示している。
- (2) 中項目は、疾患や事項等の包括的な概念等、又は、小項目を束ねる見出しである。

出題範囲という観点から配列されているため、必ずしも学問的な分類体系と一致するものではない。

- (3) 小項目は、疾患や事項等中項目より詳細な内容である。ただし、必ずしも中項目を限定するものではない。

また、小項目の記載がない場合は、中項目について標準的な学生用教科書に記載されている程度の内容が出題範囲となる。また、教科書等

に記載がない場合においても、臨床現場で必要とされる新しい情報等については、試験委員会の判断で出題できるものとする。

- (4) 備考は、小項目に関する内容のうち、基本的臨床能力の観点から特に重要な事項や補足的な説明とする。なお、補足的な事項は語頭に※を付記している。ただし、出題範囲を限定するものではない。

3. 出題範囲の考え方について

歯科医師国家試験の妥当な内容、範囲及びレベルを確保するため、試験委員は、この出題基準を踏まえて出題する。ただし、出題内容に関する最終的な判断は、試験委員会が行うものとする。

4. ブループリント（歯科医師国家試験設計表）

(1) 必修の基本的事項

「必修の基本的事項」では、各大項目に出題割合を記載している。これは、「必修の基本的事項」における全問題のうち、当該大項目に関する出題割合を示している。

(2) 歯科医学総論、歯科医学各論

「歯科医学総論」と「歯科医学各論」では、各章に出題割合を記載している。これは、「歯科医学総論」または「歯科医学各論」における全問題のうち、当該章に関する出題割合を示している。

5. その他

- (1) 括弧は以下のルールに基づいている。試験委員会の判断で、括弧内・外の語を適宜使用できる。

() 直前の語の説明 例；SOAP（主観的所見、客観的所見、評価、計画）

< > 直前の語の同義語 例；国際生活機能分類〈ICF〉

[] () や < > の中に () や < > がある場合の大きな括り

例；薬剤耐性[antimicrobial resistance 〈AMR〉]

{ } 省略しても意味または分類の変わらない語

例；Blandin-Nuhn {腺} 嚢胞

【例】 「主な検査項目の表記」における表示の例示

例；Gram 染色【例】喀痰のGram 染色標本

- (2) 人名を含む語の表記は、原則、原文表記を行う。

ブループリント（歯科医師国家試験設計表）

（出題割合は概数なので必ずしも合計が 100%にならない場合がある。）

「必修の基本的事項」（約 22%）

- | | | |
|----|-----------------------|-------|
| 1 | 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム | 約 2% |
| 2 | 社会と歯科医療 | 約 13% |
| 3 | 予防と健康管理・増進 | 約 5% |
| 4 | 人体の正常構造・機能 | 約 15% |
| 5 | 人体の発生・成長・発達・加齢変化 | 約 5% |
| 6 | 主要な疾患と障害の病因・病態 | 約 12% |
| 7 | 主要症候 | 約 10% |
| 8 | 診察の基本 | 約 7% |
| 9 | 検査・臨床判断の基本 | 約 11% |
| 10 | 初期救急 | 約 4% |
| 11 | 治療の基礎・基本手技 | 約 14% |
| 12 | 一般教養的事項 | 約 3% |

「歯科医学総論」（約 28%）

- | | | |
|-----|-----------------------|-------|
| 総論Ⅰ | 保健・医療と健康増進 | 約 19% |
| 総論Ⅱ | 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 | 約 15% |
| 総論Ⅲ | 病因、病態 | 約 8% |
| 総論Ⅳ | 主要症候 | 約 4% |
| 総論Ⅴ | 診察 | 約 8% |
| 総論Ⅵ | 検査 | 約 14% |
| 総論Ⅶ | 治療 | 約 19% |
| 総論Ⅷ | 歯科材料と歯科医療機器 | 約 13% |

「歯科医学各論」（約 50%）

- | | | |
|-----|---|-------|
| 各論Ⅰ | 成長・発育に関連した疾患・病態 | 約 19% |
| 各論Ⅱ | 歯・歯髄・歯周組織の疾患 | 約 24% |
| 各論Ⅲ | 顎・口腔領域の疾患 | 約 23% |
| 各論Ⅳ | 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 | 約 24% |
| 各論Ⅴ | 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した
疾患・病態・予防ならびに歯科診療 | 約 10% |

※ 歯科医学各論において、出題割合の約 6%を歯科疾患の予防・管理に関する項目から出題する。

必修の基本的事項

基準値を理解すべき検査項目 (基準値を明記しない検査項目)

○ 血液学検査

分類	項目
血球検査	赤血球
	ヘモグロビン (Hb)
	ヘマトクリット (Ht)
	白血球
	白血球分画
	血小板
血小板機能検査 凝固・線溶・	プロトロンビン時間 (PT) (PT-INR を含む)

○ 生化学検査

分類	項目
タンパク分画	総タンパク (TP)
	アルブミン (Alb)
生体色素	総ビリルビン
	直接ビリルビン
酵素、アイソザイム	AST
	ALT
成分	尿素窒素 (BUN)
	クレアチニン (Cr)
糖代謝関連	{随時} 血糖
	空腹時血糖 (FBS)
	HbA1c

分類	項目
脂質代謝 関連	総コレステロール (TC)
	トリグリセリド (TG)
電解質・ 酸塩基平衡	Na
	K
微量元素 重金属、	Fe

○ 免疫血清学検査

分類	項目
炎症 マーカー	C反応性タンパク (CRP)

○ 生体機能検査

分類	項目
動脈血 ガス分析	pH
	PaCO ₂
	PaO ₂
呼吸機能	経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO ₂)
腎機能	推算糸球体濾過量 (eGFR)

大項目	中項目	小項目
1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナルリズム 約2%	ア 医の倫理	a 患者の人権と医療
		b 医療者の倫理（ニュルンベルグ綱領、ジュネーブ宣言など）
	イ 歯科医師と患者・家族との関係	a 患者中心の歯科医療（インフォームド・コンセント、セカンドオピニオンなど）
		b 患者の権利
2 社会と歯科医療 約13%	ア 患者・障害者のもつ心理社会的問題と背景	a 疾病・障害の概念・構造（社会的関わり）
		b リハビリテーションの理念
		c ノーマライゼーションの理念
		d 国際生活機能分類〈ICF〉
		e 健康格差、健康の社会的決定要因
	イ 保健・医療・福祉・介護の制度と医療経済	a 歯科医師法、歯科衛生士法、歯科技工士法
		b 医療法
		c 介護保険法
		d 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律
		e 保健・医療・福祉・介護の各制度と職種
		f 地域包括ケアシステム
		g 国民医療費
	ウ チーム医療	a チーム医療の意義（多職種連携、医科歯科連携、病診連携を含む）
		b 医療チームの構成員と役割
		c チーム医療における歯科の役割（かかりつけ歯科医、在宅医療、訪問診療）
		d 情報提供
	エ 臨床試験・治験と倫理	a 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針
		b 医薬品の臨床試験の実施の基準〈GCP〉
	オ 医療の質の確保	a 患者満足度
		b 患者説明文書、同意書
		c クリニカルパス
	カ 医療事故の防止	a 医療事故と医療過誤
		b 医療事故の発生要因
		c 患者の安全管理（誤飲、誤嚥、誤薬、出血、外傷、感染、被曝、目の保護）
		d 医療者の安全管理
		e アクシデント、インシデント（ヒヤリハット）、医療事故報告書、インシデントレポート、医療事故の発生要因分析
		f 医療安全対策
		g 医療事故調査制度
	キ 院内感染対策	a 標準予防策〈standard precautions〉、感染経路別予防策
		b 個人用防護具〈PPE〉
		c 薬剤耐性〔antimicrobial resistance〈AMR〉〕と抗菌薬の適正使用〔antimicrobial stewardship〈AMS〉〕
d 医療廃棄物処理		
e 感染対策委員会、感染制御〈対策〉チーム〈ICT〉		

大項目	中項目	小項目
	ク 医療裁判	a 医事紛争、賠償 b 医療訴訟（刑事裁判、民事裁判）
	ケ 医薬品・医療機器による健康被害	a 副作用・有害事象への対応（報告義務、治療、補償）
	コ 血液・血液製剤の安全性	a 保管、管理
	サ 診療録、診療情報の記録と管理	a 診療に関する記録（診療録、処方箋、検査所見記録、画像記録、手術記録、入院診療計画書、退院時要約、歯科技工指示書、模型）の管理・保存
		b SOAP（主観的情報、客観的情報、評価、計画）
		c 個人情報の保護、情報倫理およびデータ保護に関する原則
		d 診療情報の開示
3 予防と健康管理・増進 約5%	ア 健康増進と疾病予防	a プライマリヘルスケア
		b ヘルスプロモーション
		c 行動変容
		d 国民健康づくり対策
		e メタボリックシンドローム対策
		f 歯科口腔保健の推進に関する基本的事項
	イ 地域保健にかかる法規と制度	a 地域保健法、健康増進法、歯科口腔保健の推進に関する法律
		b 母子保健
		c 学校保健
		d 産業保健
		e 成人・高齢者保健
		f 障害児・障害者保健
		g 精神保健
		h 健康危機管理
	ウ 予防手段	a フッ化物応用
		b 保健指導
		c 口腔清掃（歯磨剤を含む）
エ 口腔健康管理	a 口腔衛生管理	
	b 口腔機能管理	
4 人体の正常構造・機能 約15%	ア 全身・口腔の構造と機能	a 生体構成成分
		b ゲノム、遺伝子、染色体
		c 細胞・細胞小器官の構造・機能
		d 組織 [上皮組織、結合（支持）組織（血液を含む）、筋組織、神経組織]
		e 器官系 [骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系]
		f 代謝系（代謝、栄養）
		g 免疫系（免疫系担当細胞・臓器、自然免疫、体液性免疫、細胞性免疫）
		イ 全身・口腔の生態系
	a 微生物の構造・一般性状	
	b 常在微生物叢	
c ブラーク（口腔バイオフィルム）		

大項目	中項目	小項目
5 人体の発生・成長・発達・加齢変化 約5%	ア 人体の発生	a 配偶子形成、排卵、受精、着床、胚子期（二層性胚盤、三層性胚盤、胚盤胞）、胎児期
	イ 人体の発育	a 発育区分(胎生期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期)
		b 成長・発達(形態的・生理的変化)の特徴(身体成長、原始反射、運動の発達、社会性の発達、言語の発達、情動の発達)
		c 小児の生理的特徴
	ウ 口腔・顎顔面の成長・発育	a 歯・歯列・咬合の発育(発育時期、萌出時期・順序、歯の脱落・交換時期、歯齢)
		b 頭蓋骨(顔面骨を含む)の成長の特徴(成長の時期、骨形成様式)
		c 口腔機能の発達
	エ 人体の加齢変化(老化)	a 細胞・組織・器官の形態的変化(口腔および顎骨を含む)
		b 高齢期の生理的特徴・精神的特徴
	6 主要な疾患と障害の病因・病態 約12%	ア 疾病の概念
b 先天異常・発育異常		
c 細胞・組織の損傷と修復		
d 炎症		
e 感染症		
f 免疫異常、アレルギー		
g 腫瘍・腫瘍類似疾患		
h 循環障害		
i 精神・神経疾患		
j 薬物・放射線の影響		
イ 口腔・顎顔面領域の疾患と障害の概念		a 歯の硬組織疾患
		b 歯髄疾患、根尖性歯周疾患
		c 歯周疾患
		d 不正咬合
		e 歯の喪失に伴う咀嚼障害
		f 摂食嚥下障害
		g 言語障害
		h 先天異常・発育異常
		i 外傷
		j 歯性感染症
k 嚢胞、腫瘍、腫瘍類似疾患		
l 顎関節疾患		
m 口腔粘膜疾患		
n 唾液腺疾患		
o 神経疾患		
p 口腔・顎顔面領域に症状を伴う全身疾患		
q 薬物・放射線による有害事象		
r 精神・心身医学的疾患		

大項目	中項目	小項目
7 主要症候 約10%	ア 全身の症候	a 発熱、発汗、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、喘鳴、頻脈、徐脈、不整脈、血圧異常、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、摂食嚥下障害、誤嚥、悪心、嘔吐、下痢
	イ 口腔・顎顔面領域の症候	a 基本的症候 [疼痛 (自発痛、打診痛など)、腫脹、腫瘍、潰瘍、色調、出血、瘻、触診の異常 (硬さ、熱感を含む)、機能障害 (開口・閉口障害を含む)]
		b 歯の硬組織の症候 (齶蝕、歯の損耗、着色・変色、亀裂、破折)
		c 歯髄・根尖歯周組織の症候
		d 歯周組織の症候
		e 歯列・咬合の症候 (不正咬合)
		f 口腔粘膜の症候
		g 舌の症候
		h 顎骨の症候 (形態の異常、偏位)
		i 顎関節の症候 (関節痛、関節雑音、運動障害)
		j 筋の症候 (筋痛、圧痛、運動麻痺、関連痛)
		k リンパ節の症候
		l 唾液腺の症候
		m 感覚異常 (味覚、体性感覚)
	ウ 全身的疾患に関連する口腔・顎顔面領域の症候	a 貧血に伴う症候 (平滑舌、舌炎など)
		b 出血性素因に伴う症候 (歯肉出血、抜歯後出血など)
		c 急性白血病に伴う症候 (歯肉出血など)
		d ヒト免疫不全ウイルス (HIV) 感染症・後天性免疫不全症候群 (AIDS) に伴う症候 [Kaposi (カポジ) 肉腫、カンジダ症、歯周疾患、毛状 (様) 白板症など]
		e ウイルス感染に伴う症候 (水疱など)
		f 結核・梅毒に伴う症候 (粘膜斑、潰瘍など)
g 金属アレルギーに伴う症候		
h 糖尿病に伴う症候 (口腔乾燥、歯周疾患など)		
i 臓器・造血幹細胞移植に伴う症候 [歯肉出血、移植片対宿主病 (GVHD) など]		
j 脳血管・神経・筋疾患に伴う症候 (摂食嚥下障害など)		
k 他臓器癌に伴う症候 (遠隔転移など)		
l 認知症患者、要介護高齢者にみられる症候 (カンジダ症、口腔乾燥、摂食嚥下障害など)		
m 口腔疾患に由来する全身の症候 (掌蹠膿疱症など)		
エ 薬物に関連する口腔・顎顔面領域の症候	a 歯の変色、歯の形成不全、歯肉肥大 (歯肉増殖)、多形 {滲出性} 紅斑、口腔粘膜炎・口腔粘膜潰瘍、菌交代症に伴う症候、顎骨壊死、唾液分泌量減少・増加、感覚異常	
8 診察の基本 約7%	ア 診察のあり方	a 安全と感染への配慮
		b 心理・社会面への配慮 (プライバシー、尊厳)、苦痛への配慮
	イ 基本手技	a 視診、触診、打診、聴診
		b 患者の体位 (立位、座位、半坐位、仰臥位、側臥位)
c 術者の姿勢・位置		

大項目	中項目	小項目
	ウ 医療面接	a 意義、目的（医療情報の収集・提供、患者歯科医師関係の確立、患者の指導、動機付け、治療への参加）
		b 自己紹介、患者の確認
		c マナー（身だしなみ、挨拶、態度、会話のマナー、コミュニケーションの進め方、プライバシーの保護、感情面への対応）
		d 聴取事項（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、患者・家族の考え方・希望）
		e 患者への説明・声かけ・例示
	エ 全身の診察	a 機能的な評価（姿勢、歩行）
		b 意識状態、精神状態、栄養状態、認知機能
		c バイタルサイン（呼吸、脈拍、血圧、体温）
		d 身体的な評価〔身長、体重、体格指数（BMI）〕
	オ 口腔・顎顔面の診察	a 顔貌、顔色、皮膚
		b 口腔粘膜
		c 舌
		d 顎骨
		e 唾液腺
		f 顎関節
		g 筋
		h 所属リンパ節（領域リンパ節）
	カ 歯列・咬合の診察	a 歯列弓
		b 咬合状態、咬合支持域、顎堤の対向関係
		c 歯の萌出・数
キ 歯・歯周組織の診察	a 歯と歯冠修復物・補綴装置	
	b 歯髄・根尖歯周組織	
	c 歯周組織	
9 検査・臨床判断の基本 約11%	ア 意義と目標	a 診断
		b 治療効果の判定、治療経過の評価
		c スクリーニング、医療情報の収集
	イ 検査の安全性	a 実施の説明（合併症、リスクを含む）
		b 患者・検体の確認
	ウ 基準値と結果の解釈	a 基準範囲の概念
		b 生理的変動、異常値と原因
		c 性差、年齢差
		d 症候、病歴（既往歴、薬物）との関連
	エ 検体検査の種類	a 一般臨床検査
		b 血液学検査
		c 生化学検査
		d 免疫血清学検査
		e 微生物学検査
		f 遺伝子検査

大項目	中項目	小項目	
	オ 口腔・顎顔面の検査	a 歯の検査	
		b 歯周組織の検査	
		c 舌・口腔粘膜の検査	
		d 顎関節の検査	
		e 筋の検査	
		f 唾液腺の検査	
		g 顎骨の検査	
		h 口腔機能の検査	
		i 口腔衛生状態（補綴装置の衛生状態を含む）の検査	
		j 口臭の検査	
		k 感覚の検査	
	カ 画像検査	a 放射線の性質と作用	
		b エックス線撮影装置、検出器、撮影補助器材	
		c 放射線の防護・管理	
		d エックス線撮影（口内法エックス線撮影、パノラマエックス線撮影）	
		e CT（単純、造影）、歯科用コーンビームCT	
		f MRI（単純、造影）	
		g 超音波検査	
	キ 病理学検査	a 細胞診	
		b 組織診	
	ク 根拠に基づいた医療（EBM）	a 患者への適用	
		b システマティックレビュー、メタ分析（メタアナリシス）	
		c 診療ガイドライン	
		d 臨床疫学的指標（アウトカム指標、相対危険度、寄与危険度、オッズ比）	
		e 費用対効果分析	
	10 初期救急 約4%	ア 救急患者の診察	a 救急処置を要する症状および病態（心停止、失神、ショック、けいれん、頭痛、運動麻痺、呼吸困難、胸痛、アレルギー症状、誤飲、誤嚥）
			b 全身状態の評価と疾患・病態の鑑別
		イ 救急処置	a 一次救命処置（BLS）
			b 静脈路確保、酸素療法、救急医薬品
	11 治療の基礎・基本手技 約14%	ア 治療の基本	a 意義と目標（アウトカム）
b 種類と特性（原因療法、対症療法、保存療法、根治療法、緩和療法、支持療法）			
c 治療の場〔外来、入院、在宅医療（歯科訪問診療を含む）〕			
イ 小児・高齢者・妊産婦・障害者・要介護者の治療		a 治療環境	
		b 患者の体位	
		c コミュニケーション	
ウ 器械の安全な取扱法	a 歯科用ユニット		
	b 治療に用いる基本的器材		

大項目	中項目	小項目
	エ 消毒・滅菌と感染対策	a 消毒・滅菌法
		b 手術野の防湿・消毒、清潔操作
		c 手術室
		d 標準予防策〈standard precautions〉、感染経路別予防策
	オ 注射法の種類	a 皮内
		b 皮下
		c 筋肉内
		d 静脈内
	カ 麻酔法	a 局所麻酔
		b 全身麻酔
		c 精神鎮静法
	キ 創傷の処置	a 洗浄、消毒
		b 止血
		c 縫合
	ク 膿瘍の処置	a 穿刺、切開、ドレナージ
	ケ 歯・歯周組織に対する基本的処置	a 抜歯
		b 歯の硬組織疾患の治療
		c 歯内療法
		d 歯周治療
		e 歯の欠如・欠損の治療
		f 不正咬合の治療
	コ 薬物療法	a 薬理作用（薬力学、主作用および副作用を含む）
		b 薬物動態
		c 薬物投与（連用と併用を含む）
	サ 栄養療法	a 経腸栄養〔経口栄養、経鼻経管栄養、胃瘻（PEG）、腸瘻〕、経静脈栄養
	シ 口腔機能のリハビリテーション	a 咀嚼機能、摂食嚥下機能、言語機能
	ス 患者管理の基本	a 口腔環境の評価（口腔清掃状態、補綴装置の清掃状態、残存歯の状態、口腔粘膜の状態、咬合状態、補綴装置の適合状態、顎堤の状態・対向関係、舌、唾液、味覚）
b 全身管理に留意すべき疾患・対象（皮膚・粘膜疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、血液・造血器疾患、腎・泌尿器・生殖器疾患、精神疾患、神経・運動器疾患、内分泌・代謝・栄養疾患、免疫・アレルギー性疾患、感染症、小児疾患など）		
c 日常生活動作〈ADL〉、手段的日常生活動作〈IADL〉、Quality of Life〈QOL〉の評価		

大項目	中項目	小項目
	セ 歯科材料・機器	a 基本的性質 b 診療用器械・器具、切削・研削工具、研磨材 c 印象用材料・機器 d 模型用材料、ワックス e 成形修復・予防填塞・歯内療法用材料 f 歯冠修復・義歯用材料 g 成形技術・機器 h 装着用材料、接着処理 i 歯科矯正用材料・機器 j 口腔インプラント・口腔外科・歯周治療用材料
12 一般教養的事項 約3%	ア 医学史、歯科医学史	
	イ 医学・医療に関する 人文・科学・芸術・ 時事問題などに関連 する一般教養的知識 や考え方	
	ウ 外国人患者の歯科診 療に必要な基本的な 英語	

齒科医学総論

総論 I 保健・医療と健康増進〔約 19%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 健康の保持・増進と社会保障	ア 健康・疾病・障害の概念	a 健康に関わる要因	
		b 社会環境の変化	健康の社会的決定要因
		c 疾病の自然史	疾病予防の3相5段階
		d ノーマライゼーション	バリアフリー、ユニバーサルデザイン
	イ 口腔と全身の健康増進	a 健康診断、口腔の診察・検査	歯科疾患のリスク評価
		b 健康教育・学習、保健指導、健康相談	
		c 禁煙支援	
	ウ 社会保障制度	a 社会保障の概要	
		b 医療保険	
		c 介護保険	
		d 公的扶助と公費医療	
	エ 保健・医療・福祉・介護の法規と仕組み	a 医事衛生法規	
		b 保健衛生法規	
		c 医療保障・社会福祉・介護保険関連法規	
		d 予防衛生法規	
		e 薬事衛生法規	
		f 地域保健関連機関	
		g 福祉施設、介護施設	
		h 医療施設	
		i 医療連携・チーム医療とその関係職種	※病院歯科の役割
		j 保健・医療・福祉・介護の連携とその関係職種	
	オ 地域の保健・医療	a 公衆衛生活動、地域保健活動	※医療政策
		b 医療計画、健康増進計画	
		c ヘルスプロモーション	
		d プライマリヘルスケア	
		e 地域保健活動の進め方	※地域診断
		f 地域保健における都道府県、市町村、保健所の役割	
		g かかりつけ歯科医機能	
		h 救急・災害時等の歯科保健医療	
		i へき地医療	
		j 在宅医療	※歯科訪問診療
	カ 地域包括ケアシステム	a 医療と介護の連携	
		b 介護予防、生活支援	
c 地域包括支援センター			

大項目	中項目	小項目	備考
2 ライフステージ別にみた保健・福祉	ア 母子保健、母子歯科保健と児童福祉	a 現状、動向	健やか親子21
		b 母性保健	
		c 母子歯科保健の意義	
		d 妊産婦の歯科保健	
		e 乳幼児の歯科保健と健康診査	母子健康手帳
		f 児童福祉制度	
		g 児童虐待への対応	
	イ 学校保健、学校歯科保健と学校安全	a 現状、動向	
		b 学校保健の領域・内容	
		c 学校保健関係者	
		d 学校歯科保健教育	
		e 学校歯科保健管理	
		f 組織活動	
		g 学校安全対策	
	ウ 産業保健、産業歯科保健	a 現状、動向	
		b 労働衛生の3管理	
		c 作業関連疾患、職業性歯科疾患	
		d 健康診断、事後措置	
		e 産業歯科保健の意義	
		f 産業歯科保健活動	
		g 職域での健康増進対策	トータルヘルスプロモーションプラン〈THP〉、メンタルヘルス対策
	エ 成人保健、成人歯科保健	a 現状、動向	
		b 特定健康診査、特定保健指導	
		c 健康増進法に基づく保健事業	
		d 成人歯科保健活動	
	オ 高齢者保健、高齢者歯科保健	a 現状、動向	
		b 高齢者の特性	
c 高齢者歯科保健・高齢者の口腔管理			
d 高齢者の日常生活支援、介護予防、高齢者の保健事業、認知症対策		※フレイル対策、認知症施策推進大綱	
カ 障害児・障害者の保健・福祉	a 現状、動向		
	b 障害児・障害者の健康保持・増進		
	c 障害の種類と支援	身体障害、知的障害、精神障害 ※発達障害	
	d 自立支援と福祉の制度		
	e 障害児・障害者の歯科保健医療		
3 歯科法医学	ア 死因の究明	a 死体解剖と死因究明制度	
		b 死後変化	
		c 個人識別、身元確認	
4 医療経済	ア 医療経済	a 社会保障費と国民医療費	
		b 医療費負担と給付	

大項目	中項目	小項目	備考
5 国際保健	ア 国際保健	a 持続可能な開発目標〈SDGs〉	ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ〈UHC〉
		b 非感染性疾患〈NCDs〉	
		c パンデミック	
		d 国際協力	国際保健医療協力機関、口腔保健における国際保健協力
6 疫学と調査	ア 疫学とその応用	a 疫学の概念	
		b スクリーニング検査	
		c 統計解析	※代表値、ばらつき、検定
		d 因果関係の成立	※バイアス
		e 観察研究、介入研究	
		f 臨床疫学	
	イ 疫学指標	a 頻度・関連を表す疫学指標	有病率、罹患率、相対危険度、寄与危険度、オッズ比
		b 歯科における疫学指標	
	ウ 保健医療統計調査	a 人口統計、保健医療統計	
		b 歯科領域における保健医療統計・疫学調査	
	エ 齲蝕・歯周疾患の疫学要因	a 齲蝕の疫学要因	
		b 歯周疾患の疫学要因	
7 感染症対策	ア 感染症対策と疫学	a 主な感染症の疫学と流行状況	
		b 感染症の予防	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律〈感染症法〉、検疫法、予防接種法
		c 院内感染対策	感染対策委員会、感染制御〈対策〉チーム〈ICT〉 ※手術部位感染〈SSI〉
8 食生活と健康	ア 国民栄養の現状と対策	a 国民栄養の現状	
		b 食事摂取基準	
		c 食生活指針	食事バランスガイド
	イ 食品保健と食事指導	a 食の安全性と機能性	※食品衛生法、食品表示法
		b 食育基本法	
		c 食生活と口腔保健	
9 環境保健	ア 環境保健対策	a 地球環境の変化と健康影響	
		b 公害による健康被害と対策	
		c 環境汚染の評価と対策	環境基準、汚染の指標、環境影響評価
		d 廃棄物処理	
		e 生活環境と健康	水、大気、換気、温熱、放射線、騒音、振動

総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化〔約15%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 細胞・組織・器官の構造と機能	ア 皮膚・粘膜系	a 表皮・粘膜上皮、真皮・粘膜固有層、皮下組織・粘膜下組織	口腔粘膜を除く
		b 付属器	
	イ 運動・骨格系	a 骨・軟骨（骨の連結を含む）	頭頸部を除く
		b 筋	
	ウ 循環器系	a 心臓、血管系、リンパ管系	
		b 循環調節	
	エ 呼吸器系	a 気道、肺・呼吸筋	※呼吸運動
		b ガス交換	
		c 呼吸調節	
	オ 消化器系	a 消化管	※消化管ホルモン
		b 肝臓・胆道・膵臓	
	カ 造血器系	a 骨髄、造血幹細胞	
	キ 泌尿器・生殖器系	a 腎臓、尿路	
		b 体液・電解質調節	
		c 生殖器	
	ク 神経系	a ニューロン、グリア	※神経伝達物質の合成・分泌・作用
		b 感覚機能	
		c 運動機能	
		d 自律機能	
e 高次脳機能		※記憶、学習、睡眠、情動	
ケ 内分泌系	a 内分泌器官		
	b ホルモンの合成・分泌・作用		
コ 代謝系	a 糖質・脂質・タンパク質・アミノ酸・核酸・ポルフィリン代謝系		
	b 栄養素		
2 全身・口腔の生態系	ア 常在微生物叢	a 皮膚、腸管、泌尿器、生殖器	
		b 頬・舌粘膜、歯肉溝	
	イ プラーク〈口腔バイオフィルム〉	a 歯肉縁上プラーク	
		b 歯肉縁下プラーク	
3 免疫	ア 免疫担当細胞		
	イ 免疫系臓器	a 一次（中枢）リンパ組織	
		b 二次（末梢）リンパ組織	
	ウ 抗原処理と抗原提示		※免疫寛容
	エ 自然免疫	a 微生物の認識機構	
		b 微生物の排除機構	
	オ 獲得免疫	a 体液性免疫	
b 細胞性免疫			

大項目	中項目	小項目	備考
4 頭頸部の構造	ア 頭頸部の部位	a 頭蓋の全容	
		b 頭蓋骨（関節、靭帯を含む）	※舌骨、耳小骨
		c 頸椎	
	ウ 頭頸部の筋系	a 顔面筋（表情筋）	
		b 咀嚼筋	
		c 浅頸筋	胸鎖乳突筋、広頸筋、舌骨上筋群、舌骨下筋群
		d 頸筋膜（浅葉、気管前葉、椎前葉、頸動脈鞘）	
	エ 頭頸部の脈管系	a 動脈系	
		b 静脈系	
		c リンパ系	
	オ 頭頸部の内臓系	a 口腔	口唇、口腔前庭、固有口腔、口蓋、口（腔）底、頬、口峽
		b 唾液腺	
		c 舌、扁桃	
		d 咽頭、喉頭	
	カ 頭頸部の神経系	a 脳神経	
		b 脊髄神経	頭頸部に分布するものに限る
キ 頭頸部の局所解剖	a 画像解剖		
	b 組織隙（筋膜隙）		
5 歯と歯周組織の構造	ア 歯の形態	a 基本事項	生物学的特性、生歯、歯式、方向用語、歯の外形、歯髓腔の形態、歯根の形態、三歯徴（三表徴）
		b 乳歯	
		c 永久歯	
		d 特殊な形態	
	イ 組織と性状	a エナメル質、象牙質、歯髓	
	b 歯周組織		
6 口腔・顎顔面の機能	ア 感覚	a 顔面皮膚、舌、口腔粘膜、口唇	
		b 味覚、嗅覚	
		c 象牙質、歯髓、歯根膜	
		d 咀嚼筋筋紡錘、顎関節受容器	
	イ 運動	a 下顎位、咬合接触、咬合様式、下顎運動	
		b 顎反射	
		c 舌・口唇・頬・顔面運動	
		d 吸啜、嘔吐、咳嗽、咽頭絞扼反射	
	ウ 咀嚼	a 咀嚼能力	
		b 咀嚼運動の調節	

大項目	中項目	小項目	備考
	エ 嚥下	a 摂食嚥下の5期、プロセスモデル	
		b 嚥下の神経機構	
	オ 発声、構音	a 発声器官	
		b 構音器官	
	カ 唾液分泌	a 唾液の性状と機能	
		b 唾液の分泌機構	
7 人体の成長・発達・加齢変化	ア 小児の機能	a 運動・感覚機能	
		b 認知・言語機能	
		c 情緒、社会性	
	イ 発育区分における成長・発達の評価	a 身体成長の評価法	Kaup指数、Rohrer指数、BMI
		b 年齢による成長評価法	暦年齢、生理的年齢
		c 精神発達の評価法	精神年齢、発達スクリーニング検査
	ウ 口腔・顎の機能の発達	a 摂食嚥下機能	
		b 唾液分泌機能	
		c 味覚	
		d 口腔機能の評価法	
エ 口腔・顎顔面の加齢変化（老化）	a 器質的変化		
	b 機能的変化		
8 口腔・顎顔面の発生・成長・発育	ア 頭頸部の形成	a 鰓弓（咽頭弓）	
		b 顎顔面（口蓋、顎関節を含む）	※形成異常
		c 舌、唾液腺	
	イ 歯・歯周組織の形成と歯の萌出	a 歯胚の形成	歯堤、歯胚
		b 歯の硬組織形成	※歯髄
		c 歯周組織形成	
		d 歯の萌出	※歯根形成
	ウ 骨組織代謝	a 軟骨内骨化、膜内（膜性）骨化	
		b 形成、吸収、改造（リモデリング）	※細胞間情報伝達
		c 石灰化機構	
エ 頭部の成長・発育	a 頭蓋		
	b 歯列、咬合		

総論Ⅲ 病因、病態〔約8%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 病因・病態	ア 内因・外因		
	イ 細胞・組織の損傷	a 代謝障害 (変性)	
		b 細胞死	
	ウ 修復と再生	a 再生	
		b 創傷治癒	
		c 異物処理	
	エ 細胞・組織の適応	a 肥大	
		b 過形成	
		c 萎縮	
		d 化生	
	オ 循環障害	a 全身の循環障害	
		b 局所の循環障害	
	カ 炎症	a 病因	
		b 分類と病態	
	キ 感染症	a 病原微生物	
		b 感染症	
	ク 免疫異常	a 免疫不全	
		b 自己免疫疾患	
		c アレルギー (過敏症)	
	ケ 嚢胞	a 病因	
		b 分類と病態	
		c 組織学的構造	
	コ 腫瘍	a 病因	
		b 分類と病態	
		c 組織学的構造	
		d 口腔潜在的悪性疾患	※前癌状態、前癌病変
		e 腫瘍と宿主の関係	
サ 疼痛	a 侵害受容性疼痛		
	b 神経障害性疼痛		
	c 口腔・顔面領域の疼痛		
	d その他の疼痛		
シ 中毒、放射線障害	a 中毒の発生要因・病態生理		
	b 放射線の影響		
ス 医原病	a 検査・診断に伴う医原病		
	b 治療に伴う医原病		
2 口腔・顎顔面領域の疾患の病因・病態	ア 主な病因・病態	a 先天異常・発育異常	
		b 歯・歯髄・歯周組織の疾患	
		c 口腔粘膜の疾患	
		d 軟組織の疾患	
		e 顎骨・顎関節の疾患	
		f 唾液腺の疾患	
		g 口腔・顎顔面領域に症状を伴う全身疾患	

大項目	中項目	小項目	備考
	イ 歯の喪失に伴う変化・障害	a 口腔・顎顔面領域の変化・障害	
		b 全身への影響	
3 個体の死	ア 概念		
	イ 判定		

総論Ⅳ 主要症候〔約4%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 全身の症候	ア 代表的な症候		発熱、発汗、全身倦怠感、食思〈欲〉不振、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、けいれん、めまい、脱水、浮腫
	イ 皮膚・粘膜		水疱、膿疱、蕁麻疹、湿疹、紅潮
	ウ 呼吸・循環器		呼吸困難、息切れ、喘鳴、チアノーゼ、胸痛、動悸、頻脈・徐脈、不整脈、血圧異常、心不全、睡眠時無呼吸
	エ 消化器		悪心、嘔吐、下痢、便秘、腹痛、黄疸、腹水
	オ 血液・造血器、免疫		貧血、出血傾向、血栓傾向
	カ 腎・泌尿器・生殖器		乏尿、無尿、多尿、頻尿
	キ 心理、精神機能		認知機能低下、睡眠障害、知的能力障害、失見当識
	ク 神経系、運動器		頭痛、高次脳機能障害、運動麻痺、不随意運動
	ケ 内分泌・代謝・栄養		低血糖、高血糖、色素沈着
2 口腔・顎顔面の症候	ア 歯、歯髄・根尖歯周組織		
	イ 歯周組織		
	ウ 歯列、咬合		※不正咬合
	エ 口腔粘膜		※舌
	オ 顎骨		
	カ 顎関節		
	キ 軟組織、唾液腺		筋、リンパ節
	ク 口腔・顎顔面の機能		開口・閉口障害、咀嚼障害、哺乳障害、摂食嚥下障害、言語障害〈言語機能障害〉、感覚障害、口腔乾燥、口腔機能発達不全、口腔機能低下

総論 V 診察 [約 8 %]

大項目	中項目	小項目	備考	
1 診察総論	ア 医療面接			
	イ 診察の基本			
	ウ 全身の診察			
	エ 救急時の診察			
	オ 根拠に基づいた医療 (EBM)		※診療ガイドライン	
	カ 評価の基本	a バイタルサイン		
		b 意識レベル		Japan Coma Scale (JCS)
c 重症度と緊急度				
d 既往歴・合併症				
2 小児への対応	ア 身体的特徴			
	イ 心理・社会的特徴			
	ウ 診察の基本			
	エ 年齢に応じた対応			
	オ 発達障害のある小児への対応	a 自閉スペクトラム症 [自閉症スペクトラム障害 (ASD)]		
		b 注意欠如・多動症 [注意欠陥多動性障害 (ADHD)]		
c 限局性学習症 [学習障害 (LD)]				
3 障害者への対応	ア 障害の概念			
	イ 障害の分類	a 身体障害		
		b 知的障害		
		c 精神障害		
		d 発達障害		
	ウ 行動調整			
	エ 診察の基本			
	オ 歯科治療上留意すべき事項			
カ 健康支援、患者管理				
4 妊婦・授乳婦への対応	ア 身体的特徴			
	イ 心理・社会的特徴			
	ウ 診察の基本			
	エ 歯科治療上留意すべき事項		※投薬上の注意	

大項目	中項目	小項目	備考	
5 高齢者への対応	ア 診察の基本	a 診察時の注意	※移乗、合理的配慮	
	イ 評価	a 日常生活動作〈ADL〉		
		b 手段的日常生活動作〈IADL〉		
		c 認知機能		
		d 運動機能	※フレイル、サルコペニア	
		e 摂食嚥下障害	※Functional Oral Intake Scale〈FOIS〉、Food Intake Level Scale〈FILS〉	
		f 要介護度、介護状況	※BDR指標	
		g Quality of Life〈QOL〉	※口腔関連QOL	
		h 精神心理状態	※抑うつ	
		i 栄養状態	※BMI、GLIM基準、栄養サポートチーム〈NST〉	
6 全身疾患を有する者への対応	ア 留意すべき疾患	a 呼吸器疾患	※肺炎、慢性閉塞性肺疾患〈COPD〉、喘息	
		b 循環器疾患	※高血圧症、心疾患	
		c 消化器疾患	※肝疾患、胃・十二指腸潰瘍、肝炎	
		d 血液・造血器疾患	※貧血、白血病、出血性素因、血友病	
		e 腎・泌尿器・生殖器疾患	※慢性腎不全〈CKD〉	
		f 精神疾患	※認知症、統合失調症、双極性障害〈躁うつ病〉	
		g 神経・運動器疾患	※脳血管疾患、認知症、てんかん、脳性麻痺、Parkinson病、重症筋無力症、筋ジストロフィ、筋萎縮性側索硬化症	
		h 内分泌・代謝・栄養疾患	※糖尿病、脂質異常症	
		i 感染症	※結核、梅毒、ヒト免疫不全ウイルス〈HIV〉感染症、ウイルス性肝炎	
		j 悪性腫瘍		
		k 免疫・アレルギー疾患	※関節リウマチ、アナフィラキシー、金属アレルギー、全身性エリテマトーデス〈SLE〉、移植片対宿主病〈GVHD〉、IgA血管炎〈アレルギー性紫斑病〉	
		イ 身体的特徴への配慮		
		ウ 心理・社会的特徴への配慮		
	エ 医療情報の収集		薬剤（和漢薬を含む）情報の収集、診療情報提供	

総論VI 検査〔約14%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 口腔検査・顎口腔機能検査	ア 口腔検査	a 歯の硬組織の検査	
		b 歯髄・根管の検査	
		c 歯周組織（歯周病）検査	※口腔清掃状態の検査
		d 舌・口腔粘膜検査	※生体染色法
		e 歯列・咬合の検査	
		f 口臭検査	
	イ 顎口腔機能検査	a 下顎運動検査	
		b 顎関節・筋機能検査	※筋電図検査
		c 咀嚼機能検査	
		d 唾液・唾液腺検査	
		e 摂食嚥下機能検査	
		f 発声・構音・発語検査	
		g 鼻咽腔閉鎖機能検査	
		h 感覚（味覚、体性感覚）の検査	
2 画像検査	ア エックス線画像の原理	a 電離放射線	電磁放射線、粒子放射線、放射能、放射性同位元素
		b 放射線の単位・測定	
	イ 画像検査における医療情報	a 医療画像システム（PACS）	DICOM、デジタル画像処理
		ウ 医療放射線被曝の防護と管理	a 正当化・最適化・線量限度
	b 患者と医療従事者の放射線防護		医療被曝・職業被曝・公衆被曝
	エ エックス線単純撮影	a コントラストと分解能	
		b 口内法エックス線撮影	
		c パノラマエックス線撮影	
		d 顎顔面頭蓋部エックス線撮影	
	オ CT、歯科用コーンビームCT	a 原理、特徴、適応	※造影CT
	カ MRI	a 原理、特徴、適応	※T1強調像、T2強調像、プロトン密度強調像、脂肪抑制像、造影MRI、ダイナミックMRI、拡散強調像
	キ 核医学検査	a 原理、特徴、適応	シンチグラフィ、シングルフォトンエミッションCT（SPECT）、ポジトロンエミッション断層撮像（PET）
	ク 超音波検査	a 原理、特徴、適応	※ドプラ法、エラストグラフィ
	ケ 各画像検査の安全管理	a 磁場、電磁波、超音波の作用	
		b 造影剤と副作用	
	コ 画像の鑑別診断	a 正常画像と主要疾患画像	
		b 全身疾患の画像所見	胸部エックス線画像

大項目	中項目	小項目	備考
3 検体検査	ア 検体検査	a 一般臨床検査	※尿、糞便
		b 血液学検査	※血球検査、凝固・線溶、血液型・輸血関連検査、赤沈
		c 生化学検査	※タンパク、生体色素、酵素、含窒素成分、糖代謝関連物質、脂質代謝関連物質、電解質、推算糸球体濾過量 (eGFR)
		d 免疫血清学検査	※炎症マーカー、自己抗体、血清学的診断
		e 微生物学検査	塗抹検査 (染色法)、培養検査、薬剤感受性試験、核酸検査 (遺伝子検査)、Polymerase Chain Reaction法 (PCR法)
		f 病理学検査	
		g 染色体・遺伝子検査	
		h 薬物アレルギー検査	※リンパ球刺激試験、好塩基球活性化試験
	イ 検体の採取・保存・確認		個人情報管理
4 生体機能検査	ア 臓器機能検査	a 呼吸機能検査	パルスオキシメトリ、スパイロメトリ
		b 心機能検査	心電図、心臓超音波検査
		c 消化管機能検査	
		d 肝・胆道機能検査	色素排泄試験
		e 内分泌・代謝機能検査	
		f 腎機能検査	クレアチニンクリアランス (CCr)
	イ 電気生理学検査	a 脳波検査	
		b 筋電図・神経伝導検査	徒手筋力テスト
5 その他の検査	ア 皮膚・粘膜検査	a アレルギー検査	プリックテスト、皮内テスト、針反応テスト、パッチテスト
		b 感覚検査	二点識別検査、SWテスト
	イ 睡眠検査	a ポリソムノグラフィ	
		b 睡眠時筋電図検査	

総論Ⅶ 治療〔約19%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 治療の基礎	ア 治療計画	a 治療計画の立案・提示	※インフォームド・コンセント
		b 治療の評価	主訴の改善
	イ 治療の種類	a キュアとケア	
		b 原因療法と対症療法	
		c 保存療法と外科療法	
		d 緩和療法、支持療法	
	ウ ライフステージ別の治療	a 小児の治療	インフォームド・アセント
		b 成人の治療	
		c 高齢者の治療	
	エ 全身管理に留意すべき疾患	a 皮膚・粘膜疾患	
		b 呼吸器疾患	呼吸不全、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、肺炎
		c 循環器疾患	心筋梗塞、狭心症、不整脈、高血圧症、深部静脈血栓症、心不全、心内膜炎、弁膜症、先天性心疾患、心筋症、動脈硬化症、動脈瘤
		d 消化器疾患	消化性潰瘍、急性・慢性肝炎、肝硬変
		e 血液・造血器疾患	貧血、白血病、出血性素因、血栓傾向
		f 腎・泌尿器・生殖器疾患	慢性腎臓病（CKD）、腎不全
		g 精神疾患	統合失調症、うつ病
		h 神経・運動器疾患	脳出血（脳内出血）、脳梗塞、くも膜下出血、認知症、Parkinson病、てんかん、脳性麻痺、脊髄損傷、重症筋無力症、筋ジストロフィ
		i 内分泌・代謝・栄養疾患	糖尿病、甲状腺疾患、骨粗鬆症、脂質異常症
		j 免疫・アレルギー疾患	免疫不全症、自己免疫疾患、アレルギー疾患
		k 感染症	ウイルス感染症、細菌感染症、真菌感染症
l 小児疾患			
m その他		アルコール・薬物等依存症、妊婦、臓器移植患者、菌交代症	
オ 障害者の治療			

大項目	中項目	小項目	備考	
2 歯・歯周組織・咬合の治療	ア 基本的術式	a 歯の硬組織疾患の治療		
		b 歯内療法		
		c 歯周治療	※歯周組織再生療法 FGF-2製剤	
		d 歯の欠如・欠損の治療		
		e 不正咬合の治療		
		f 外傷歯の治療		
3 救急医療	ア 一次救命処置	a 心肺蘇生		
		b AEDの使用		
		c 気道異物への対応		
	イ 二次救命処置	a 高度な気道管理		
		b 静脈路確保と薬物療法	※循環器作用薬	
		c 電氣的治療		
ウ 誤飲・誤嚥への対応				
4 手術・周術期の管理、麻酔	ア 手術	a 手術の適応と時期		
		b 消毒と滅菌	標準予防策 (standard precautions)、感染経路別予防策	
		c 切開法		
		d 止血法、縫合法		
		e 穿刺、切開排膿、ドレナージ		
		f 顎口腔領域の手術	※偶発症	
		g 創の管理		
	イ 周術期の管理	a 口腔の評価、口腔機能管理		
		b 全身状態の評価		
		c 全身的併発症、合併症		
		d 術前・術中・術後管理	疼痛管理、感染予防、栄養管理	
		e モニタリング		
		f 外科的侵襲に対する反応		
	ウ 麻酔	a 局所麻酔	局所麻酔薬、血管収縮薬	
		b 全身麻酔	麻酔前投薬、吸入麻酔薬、静脈麻酔薬・筋弛緩薬・麻薬性鎮痛薬とその拮抗薬、日帰り全身麻酔	
		c 精神鎮静法	吸入鎮静法、静脈内鎮静法	
	5 緩和医療とターミナルケア	ア 緩和医療		癌性疼痛、麻薬性鎮痛薬
		イ ターミナルケア		アドバンス・ケア・プランニング (ACP)
6 リハビリテーション	ア リハビリテーションの概念		急性期、回復期、維持期 (生活期)、自立生活支援	
	イ リハビリテーションの技術	a 摂食嚥下障害のリハビリテーション	咀嚼障害、摂食嚥下障害	
		b 言語障害のリハビリテーション	構音障害	
		c 口腔機能管理		

大項目	中項目	小項目	備考	
7 放射線治療	ア 放射線治療の生物学的・物理学的基礎	a 放射線の作用、放射線感受性、生物学的効果、放射線治療の治療効果		
		イ 口腔領域の放射線治療	a 治療の意義と目的 b 種類、適応、特徴	
	ウ 放射線治療の有害事象と口腔管理	a 有害事象の種類と特徴		
		b 有害事象に対する口腔管理		
	8 薬物療法	ア 薬物の選択	a 薬物療法の種類と特徴	
			b 薬効	薬物の作用部位・作用機序
c 薬物動態			吸収・分布・代謝・排泄	
イ 用法・用量		a 投与経路と剤形の種類と特徴		
		b 用量と反応		
		c 服薬計画・指導		
		d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策		
		e 薬物適用の注意	薬物の連用・併用、薬物・食物・嗜好品との相互作用、薬効に影響を及ぼす身体的要因、ライフステージ ※ポリファーマシー	
ウ 疾患に応じた薬物療法		a 鎮痛薬		
		b 抗炎症薬		
		c 抗微生物薬		
		d 抗腫瘍薬		
		e 代謝調節薬、ビタミン		
		f 血液・造血器作用薬		
		g 齶蝕予防薬		
		h 和漢薬（漢方薬）		
9 その他の治療法		ア 物理療法		温熱、寒冷、電気、マッサージ、超音波治療
		イ 運動療法		口腔筋機能療法
	ウ 凍結療法			
	エ レーザー療法			
	オ 免疫療法			
	カ 酸素療法			
	キ 画像診断的介入治療〈インターベンショナルラジオロジー〉			
	ク 食事・栄養療法		経腸栄養 [経口栄養、経鼻経管栄養、胃瘻〈PEG〉、腸瘻]、経静脈栄養	
	ケ 輸液・輸血療法		※自己血輸血	
	コ 精神療法		一般心理療法、カウンセリング、自律訓練法、行動療法、認知行動療法	

総論Ⅷ 歯科材料と歯科医療機器〔約13%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 生体材料の科学	ア 材料の種類	a 有機材料	
		b 無機材料	
		c 金属材料	
		d 複合材料	
	イ 材料の性質	a 物理的性質	
		b 機械的性質	
		c 化学的性質	
		d 生物学的性質と生体安全性	
2 診療用器械・器具	ア 診療用器械	a 歯科用ユニット	
		b エアタービン	
		c マイクロモーター	
		d レーザー	
		e 口腔内スキャナー	
		f 超音波スケーラー	
		g 光照射器	
		h 歯科用実体顕微鏡	
	イ 切削・研削工具、研磨材		
	3 印象用材料	ア 非弾性印象材	a 酸化亜鉛ユージノール
b モデリングコンパウンド			
c 印象用石膏、印象用ワックス			
イ 弾性印象材		a アルジネート	
		b 寒天	
		c シリコーンゴム	
		d ポリエーテルゴム	
ウ 機能印象材			※アクリル系印象材（テ イッシュコンディショナ ー、ダイナミック印象材）
エ 印象用トレー			
オ 咬合採得用材料			
4 模型用材料、ワックス	ア 歯科用石膏	a 普通石膏、硬質石膏、超硬質石膏	
	イ 歯科用ワックス	a インレーワックス	
		b パラフィンワックス、シートワックス、レディキャストイングワックス、スティッキーワックス、ユーティリティーワックス	
5 成形修復・予防 充填塞・歯内療法 用材料	ア 成形修復用材料	a コンポジットレジン	
		b グラスアイオノマーセメント、レジン添加型グラスアイオノマーセメント	
	イ 予防充填塞用材料	a アクリルレジン、コンポジットレジン	
		b グラスアイオノマーセメント	

大項目	中項目	小項目	備考
6 歯冠修復・義歯用材料	ウ 歯内療法用材料	a 根管充填材	
		b 仮封材、裏層材、覆髄材	
	ア レジン（樹脂）系材料	a 加熱重合型アクリルレジン、常温重合型アクリルレジン	
		b ポリスルフォン、ポリカーボネート	
	イ セラミック材料	a 陶材	※金属焼付用陶材
		b ジルコニア、アルミナ、ガラスセラミックス	
	ウ 金属材料	a 金合金	※陶材焼付用金合金
		b 低融銀合金、金銀パラジウム合金	
		c 陶材焼付用合金	
		d コバルトクロム合金	
		e チタン、チタン合金	
		f ステンレス鋼、歯科用磁性合金	
	エ 複合材料	a 間接修復用コンポジットレジン	
		b 歯冠補綴用コンポジットレジン	
		c CAD/CAM用コンポジットレジン	
	オ 人工歯		
	カ 義歯床用リライン材		※硬質リライン材、軟質リライン材
	キ 支台築造材		※ファイバーポスト
	7 成形技術・機器	ア レジン（樹脂）系材料の成形技術・機器	a 加熱重合
b 常温重合（流し込み成形）			
c 光重合			
d 加熱・加圧成形			※口腔内装置
イ セラミック材料の成形技術・機器		a 陶材の築盛・焼成	
		b 陶材と金属の接合	
		c 加熱・加圧成形	
ウ 金属材料の成形技術・機器		a 鋳造工程	※鋳造機、鋳造欠陥、埋没材、鋳造精度
		b 金属の接合	※ろう付け、溶接、鋳接
		c 金属の加工	※塑性加工、焼きなまし、熱処理
エ CAD/CAM	a 切削加工	※技工用デスクトップスキャナー	
	b 積層造形（付加製造）		
8 接着処理・技術	ア 接着性モノマー		
	イ 歯質接着処理	a エナメル質被着面処理	
		b 象牙質被着面処理	
	ウ 歯科材料接着処理	a セラミックス被着面処理	
		b コンポジットレジン被着面処理	
		c 金属被着面処理	

大項目	中項目	小項目	備考
9 装着用材料	ア 合着・接着用セメント	a レジンセメント	
		b グラスアイオノマーセメント、レジン添加型グラスアイオノマーセメント	
c その他の歯科用セメント		※リン酸亜鉛セメント、ポリカルボキシレートセメント	
	イ 仮着用セメント		※酸化亜鉛ユージノールセメント、EBAセメント
10 歯科矯正用材料・器具	ア 線材料	a ステンレス鋼線	
		b コバルトクロム合金線	
		c チタン合金線	※ニッケルチタン合金、チタンモリブデン合金、チタンニオブ合金
		d その他の合金線材	※ブラスワイヤー（真鍮線）
	イ バンド、ブラケット、チューブ		
	ウ エラスティック材、コイルスプリング		
	エ 接着用材料		
	オ 矯正用プライヤー		
	カ 床用レジン、熱可塑性樹脂		
11 口腔インプラント・口腔外科・歯周治療用材料	ア 口腔インプラント用材料		
	イ 骨補填用材料		
	ウ 骨接合・顎骨再建用材料		
	エ 皮膚・粘膜欠損修復材(コラーゲン、フィブリン糊)		
	オ 細胞遮断膜		
	カ エナメルマトリックスタンパク質		

齒科医学各論

各論 I 成長・発育に関連した疾患・病態 [約 19%]

大項目	中項目	小項目	備考
1 口腔・顎顔面の発育を障害する先天異常の病態・特徴	ア 口腔・顎顔面の先天異常	a 顔面裂	
		b 口唇裂・口蓋裂	※顎裂
	イ 遺伝性疾患（主に口腔に症状がみられる）	a Beckwith-Wiedemann症候群	
		b Marfan症候群	
		c Papillon-Lefèvre症候群	
		d 骨形成不全症	
		e 先天性外胚葉形成不全〈先天性外胚葉異形成症〉	
		f 低ホスファターゼ症	
	ウ 遺伝性疾患（主に頭蓋・顎顔面に症状がみられる）	a Crouzon症候群	
		b Treacher Collins症候群	
		c 鎖骨頭蓋骨異形成症〈鎖骨頭蓋異骨症〉	
		d 第一第二鰓弓症候群	
		e 軟骨無形成症	
	エ 染色体異常	a Down症候群	
b Turner症候群			
2 歯の異常	ア 数の異常	a 過剰歯	
		b 先天欠如	
	イ 形態の異常	a 癒合歯、癒着歯、双生歯	
		b 異常結節	中心結節、切歯結節、Carabelli結節、臼傍結節、プロトスタイリッド
		c 歯内歯	
		d 矮小歯	円錐歯
		e 巨大歯	
		f Hutchinson歯、Fournier歯〈桑実状歯〉	先天性梅毒
		g タウロドント	
		h 歯根の異常	
		i 異所性エナメル質	エナメル滴、エナメル突起
	ウ 構造の異常	a 歯のフッ素症	
		b エナメル質形成不全 {症}	Turnerの歯、エナメル質減形成症、MIH〈臼歯切歯エナメル質形成不全〉
c 象牙質形成不全 {症}		※象牙質異形成症	
3 口腔・顎顔面の疾患	ア 歯の疾患	a 異所萌出	
		b 埋伏歯	
		c 低位乳歯	
		d 早期萌出乳歯	先天歯、新生児歯
		e 萌出遅延	

大項目	中項目	小項目	備考	
	イ 口腔軟組織の疾患	a 萌出嚢胞		
		b 幼児の歯肉嚢胞	上皮真珠、Epstein 真珠	
		c Bednarアフタ		
		d 小帯異常	上唇小帯異常、舌小帯異常	
		e Riga-Fede病		
	ウ ウイルス感染による疾患	a 単純疱疹	※疱疹性歯肉口内炎、口唇ヘルペス	
		b 水痘・帯状疱疹		
		c 手足口病		
		d ヘルパンギーナ		
		e 麻疹	Koplik 斑	
	エ 顎関節疾患	a 下顎頭欠損、関節突起発育不全	※進行性下顎頭吸収 (特発性下顎頭吸収)	
		b 下顎頭肥大		
		c 顎関節症		
	4 小児の歯・口腔・顎の外傷	ア 歯の外傷の病態・診断・治療	a 乳歯	※後継永久歯への影響
			b 永久歯	※幼若永久歯の処置・経過
イ 口腔粘膜外傷の病態・診断・治療			※咽頭部の刺創、異物迷入	
ウ 小児顎骨骨折の病態・診断・治療			※関節突起骨折の予後	
エ 児童虐待による歯の外傷				
オ 歯の外傷の予防		※マウスガード		
5 不正咬合の病因・病態	ア 正常咬合の概念と成立条件			
	イ 不正咬合の疫学と種類・分類			
	ウ 不正咬合の原因			
	エ 不正咬合による障害			
6 不正咬合の診断	ア 診察			
	イ 検査			
	ウ 診断		※抜歯・非抜歯の判定	
	エ 治療計画			
7 矯正力	ア 器械的矯正力			
	イ 機能的矯正力			
	ウ 顎整形力			
	エ 固定		※歯科矯正用アンカースクリュー	
8 生体反応				
9 矯正装置	ア 唇舌側弧線装置	a リンガルアーチ(舌側弧線装置)		
		b トランスパラタルアーチ		
		c Nanceのホールディングアーチ		
		d タングクリブ		

大項目	中項目	小項目	備考
	イ 顎外固定装置	a ヘッドギア	
		b チンキャップ〈オトガイ帽装置〉	
		c 上顎前方牽引装置	
	ウ マルチブラケット装置		
	エ 拡大装置	a 急速拡大装置	
		b クワドヘリックス装置	
	オ 機能的矯正装置	a アクチバトール	
		b バイオネーター	
		c Fränkel装置	
		d リップバンパー	
	カ 床矯正装置	a 咬合挙上板	
		b 咬合斜面板	
	キ 保定装置	a Hawleyタイプリテーナー	
		b Beggタイプリテーナー	
		c トゥースポジショナー	
d 犬歯間保定装置			
e スプリングリテーナー			
10 不正咬合の治療	ア 不正咬合の予防	a 予防矯正、保隙（静的咬合誘導）	保隙装置
		b 口腔習癖とその対応	※口腔筋機能療法
	イ 乳歯列期・混合歯列期の不正咬合の治療	a 動的咬合誘導	
	ウ 永久歯列期の不正咬合の治療		
	エ 先天異常を伴う不正咬合の治療		
	オ 顎変形症の治療		
	カ 保定		
	キ 治療中の管理		
ク リスクと偶発症			

各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患〔約24%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 歯の硬組織疾患	ア 歯の硬組織疾患の病因と病態	a 齲蝕の病因	※脱灰、再石灰化
		b 齲蝕のリスクファクター	
		c tooth wear (歯の損耗)	咬耗症、摩耗症、酸蝕症、アブフラクション、くさび状欠損
		d 象牙質知覚過敏症	
		e 歯の変色・着色	
		f 歯の亀裂・破折	
	イ 歯の硬組織疾患の予防・管理	a 齲蝕の予防・管理	※予防効果の評価、予防填塞
		b 初期齲蝕の診断	
		c フッ化物応用	
		d 食生活指導	
		e 口腔清掃指導	
	ウ 歯の硬組織疾患の治療	a 直接修復法	
		b 間接修復法	
		c 窩洞形成法	
		d 象牙質・歯髄保護法	裏層法 (ベース、ライニング、レジンコーティング)
		e 補修修復	
		f 象牙質知覚過敏症への対応	
		g 歯の漂白	
	エ 小児の歯の硬組織疾患	a 齲蝕	乳歯、幼若永久歯、永久歯
		b 齲蝕への対応	
c 非齲蝕性硬組織疾患		乳歯、幼若永久歯、永久歯	
d 非齲蝕性硬組織疾患への対応			
オ 高齢者の歯の硬組織疾患	a 根面齲蝕		
	b 根面齲蝕への対応	予防管理	
2 歯髄疾患・根尖性歯周疾患	ア 歯髄疾患・根尖性歯周疾患の病因と病態	a 歯髄疾患	
		b 根尖性歯周疾患	
		c 歯内-歯周疾患	
		d 歯の外傷	亀裂・破折
		e 歯根の吸収	外部吸収・内部吸収
	イ 歯髄疾患・根尖性歯周疾患の治療	a 歯髄保存療法	
		b 歯髄除去療法	
		c 根尖性歯周疾患の治療	緊急処置
		d 根管処置	髄室開拓、根管長の測定、根管形成、根管の化学的清掃、根管貼薬、仮封
		e 根管充填	
		f 根未完成歯の治療	

大項目	中項目	小項目	備考
		g 外科的歯内療法	
		h 歯根吸収歯の治療	外部吸収歯・内部吸収歯の治療
		i 外傷歯の治療	亀裂・破折の治療
		j 偶発症と安全対策	
	ウ 小児の歯髄疾患・根尖性歯周疾患	a 歯髄疾患	乳歯、幼若永久歯、永久歯
		b 歯髄疾患への対応	
		c 根尖性歯周疾患	乳歯、幼若永久歯、永久歯
	d 根尖性歯周疾患への対応		
3 歯周疾患	ア 歯周疾患の病因と病態	a 歯肉病変とそのリスクファクター	
		b 歯周炎とそのリスクファクター	
		c 壊死性歯周疾患	
		d 咬合性外傷	
		e 歯周組織の膿瘍	
		f 歯肉退縮	
		g 歯周-歯内病変	
		h 歯周疾患と健康の関わり	
	イ 歯周疾患の予防・管理	a 歯肉炎の予防・管理	予防効果の評価
		b 歯周炎の予防・管理	
		c 口腔清掃指導	
		d 禁煙支援	
		e 生活習慣指導	
	ウ 歯周疾患の治療	a 急性症状を有する歯周疾患への対応	
		b 歯周基本治療	
		c 咬合性外傷に対する治療	
		d 歯周外科治療(切除療法、組織付着療法)	
		e 歯周外科治療(歯周組織再生療法)	組織再生誘導法〈GTR法〉、エナメルマトリックスタンパク質、FGF-2製剤、骨移植術
		f 歯周外科治療(歯周形成手術)	
		g 根分岐部病変の治療	
		h 口腔機能回復治療	
		i 薬物療法	
		j メインテナンス、SPT〈supportive periodontal therapy〉	
		k 全身疾患を有する者の歯周疾患治療	
	エ 小児の歯周疾患	a 歯周疾患の特徴	
		b 歯周疾患への対応	

各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患〔約23%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療	ア 先天異常と変形を主徴とする疾患の病態・診断・治療	a 顔面裂	
		b 口唇裂・口蓋裂	※顎裂、鼻咽腔閉鎖不全、構音障害
		c 口唇・頬部の異常	※小帯の異常
		d 舌・口〔腔〕底の異常	
		e 歯肉・口蓋の異常	
	イ 軟組織の損傷の病態・診断・治療	a 口腔軟組織の損傷	
		b 顔面軟組織の損傷	
	ウ 軟組織の炎症の病態・診断・治療	a 歯冠周囲炎（智歯周囲炎）	
		b 口腔・頸部軟組織の炎症	歯肉膿瘍、歯槽膿瘍、骨膜下膿瘍、蜂窩織炎（蜂巣炎）、組織隙の炎症、歯性扁桃周囲炎、放線菌症、壊死性筋膜炎
		c 所属リンパ節（領域リンパ節）の炎症	
		d 歯性上顎洞炎	
		e 歯性全身感染症	菌血症、敗血症、歯性病巣感染、全身性炎症（性）反応症候群（SIRS）、感染性心内膜炎
		f 肉芽腫性炎	口腔結核、口腔梅毒、Hansen病、サルコイドーシス
	エ 軟組織に発生する嚢胞の病態・診断・治療		
	オ 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患	a 良性腫瘍	
		b 口腔癌	舌癌、頬粘膜癌、硬口蓋癌、口底癌、上顎・下顎歯肉癌
		c 口唇癌	
		d 上顎洞癌	
		e 軟組織の肉腫	
		f 白血病	
		g 悪性リンパ腫	
		h 悪性黒色腫	
		i 口腔潜在的悪性疾患	上皮性異形成（上皮異形成）、前癌病変、前癌状態
		j 腫瘍類似疾患	エプーリス、義歯性線維腫、薬物性歯肉増殖症
	カ 腫瘍・腫瘍類似疾患に対する診断・治療	a TNM分類、病期分類	※リンパ節転移、遠隔転移
		b 外科療法	※再建術、頸部郭清術
		c 化学療法	※分子標的薬
		d 放射線治療	

大項目	中項目	小項目	備考
		e 免疫療法	※免疫チェックポイント阻害薬
	キ 癌治療患者の管理	a 癌の告知	
		b 治療時の患者管理・生活習慣指導	
		c 社会復帰	
		d 末期癌患者の管理	
		e 緩和医療	※緩和療法、支持療法
	ク 口腔粘膜疾患の病態・診断・治療	a ウイルス性口内炎	単純疱疹、带状疱疹、手足口病、ヘルパンギーナ
		b 天疱瘡・類天疱瘡	
		c 多形{滲出性}紅斑	
		d 薬物性口内炎	粘膜・皮膚・眼症候群〈Stevens-Johnson症候群〉、中毒性表皮壊死剥離症〈TEN〉
		e 全身性エリテマトーデス〈SLE〉	
		f アフタ性口内炎	※慢性再発性アフタ
		g Behçet病	
		h 壊死性潰瘍性歯肉口内炎、壊疽性口内炎	
		i 口腔扁平苔癬	
		j 口腔カンジダ症〈鷲口瘡〉	
		k 白板症	
		l 紅板症	
		m 白色海綿状母斑	
		n 色素沈着	内因性（メラニン色素沈着症、Peutz-Jeghers症候群、Addison病、von Recklinghausen病）、外因性
		o 色素性母斑	
		p von Recklinghausen病〈神経線維腫症Ⅰ型〉	
		q 口腔乾燥症	
		r 貧血を伴う舌炎	鉄欠乏性貧血、Plummer-Vinson症候群、Hunter舌炎
		s 溝{状}舌	
		t 毛舌	黒毛舌
		u 地図状舌	
		v 正中菱形舌炎	
		w 肉芽腫性口唇炎	※Melkersson-Rosenthal症候群
		x 口角炎・口角びらん	
		y 褥瘡性潰瘍	
		z その他	※Fordyce斑〈顆粒〉、舌扁桃

大項目	中項目	小項目	備考
2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療	ア 顎顔面の変形を来す疾患・病態・診断	a 顎変形症	
		b 下顎頭欠損	
		c 顎顔面に異常を来す骨系統疾患・症候群	※茎状突起過長症、筋突起過長症
	イ 顎顔面骨の変形に対する治療	a 顎矯正手術	
		b 補綴前外科手術	
		c 骨移植術	※骨造成術、上顎洞底挙上術
		d 骨延長術	
		e 下顎頭形成術	
	ウ 歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷の病態・診断・治療	a 歯の亀裂・破折・脱臼	※歯の再植
		b 歯槽骨骨折	
		c 下顎骨骨折	※関節突起骨折
		d 上顎骨骨折	※吹き抜け骨折
		e 頬骨・頬骨弓骨折	
		f 鼻骨骨折	
		g 口腔上顎洞瘻	
	エ 歯槽骨・顎骨の炎症の病態・診断・治療	a 歯槽骨炎、顎骨炎	
		b 顎骨骨膜炎	
		c 顎骨骨髓炎	
		d 歯性上顎洞炎	
		e 放射線{性}骨壊死、放射線骨髓炎	
		f 薬剤関連顎骨疾患	※薬剤関連顎骨壊死
		g 外歯瘻、内歯瘻	
		h 顎骨周囲軟組織の炎症	歯肉膿瘍、骨膜下膿瘍、顎骨骨膜炎、顎骨周囲炎、インプラント周囲炎
	オ 顎骨に発生する嚢胞性疾患の病態・診断・治療	a 歯原性嚢胞	
		b 非歯原性嚢胞	
	カ 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患	a 歯原性良性腫瘍	
		b 歯原性悪性腫瘍	
		c 非歯原性良性腫瘍	
		d 非歯原性悪性腫瘍	※骨肉腫
		e 骨関連病変	※外骨症・骨隆起
		f 線維骨性病変	線維性{骨}異形成症、セメント質骨性異形成症、骨形成線維腫、セメント質骨形成線維腫
		g 巨細胞性病変	
キ 顎骨に発生する腫瘍・腫瘍類似疾患に対する診断と治療	a 顎骨腫瘍の外科療法		
	b 顎骨の再建		
	c 顎顔面補綴		
	d 顎顔面インプラント治療		

大項目	中項目	小項目	備考
3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療	ア 唾液腺疾患の病態・診断・治療	a 発育異常	
		b 異所性唾液腺	
		c 唾液腺損傷	※唾液瘻、Frey症候群、外来異物
		d 唾液腺炎・唾液管炎	※ウイルス性唾液腺炎
		e Sjögren症候群〈Sjögren病〉	
		f 粘液嚢胞	粘液嚢、ラヌーラ、Blandin-Nuhn{腺}嚢胞〈前舌腺嚢胞〉
		g 良性腫瘍	
		h 悪性腫瘍	
		i 腫瘍類似疾患	
		j IgG4関連疾患	
		k 唾石症	
		l 口腔乾燥症	※放射線障害、薬物副作用
		m 流涎症	
	イ 神経・運動器疾患の病態・診断・治療	a 三叉神経痛	
		b 三叉神経麻痺、三叉神経ニューロパチー	
		c 顔面神経麻痺	
		d 舌咽神経痛	
		e 舌下神経麻痺	
		f 非歯原性歯痛	
		g 外傷性神経障害	※神経障害性疼痛
		h 帯状疱疹後神経痛	
		i 顔面けいれん	
		j ジストニア	
		k ジスキネジア	
		l 口臭症	
	ウ 顎関節・咀嚼筋疾患の病態・診断・治療	a 下顎頭欠損・関節突起発育不全	
		b 下顎頭肥大	
		c 関節突起骨折	
		d 顎関節脱臼	
		e 非感染性顎関節炎	※外傷性{顎}関節炎
		f 感染性顎関節炎	急性化膿性顎関節炎
		g 顎関節リウマチ〈リウマチ性顎関節炎〉	
		h 進行性下顎頭吸収〈特発性下顎頭吸収〉	
i 痛風性顎関節炎			
j 腫瘍および腫瘍類似疾患		骨軟骨腫、滑膜{性}{骨}軟骨腫症	
k 顎関節強直症			
l 顎関節症		咀嚼筋痛障害、顎関節痛障害、顎関節円板障害、変形性顎関節症	

大項目	中項目	小項目	備考
		m 咀嚼筋腱・腱膜過形成症	
4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療	ア 口腔・顎顔面に異常をきたす骨系統疾患・症候群	a Beckwith-Wiedemann症候群	
		b Crouzon症候群	
		c Down症候群	
		d Gardner症候群〈家族性大腸ポリポーシス〉	
		e Marfan症候群	
		f McCune-Albright症候群	
		g Peutz-Jeghers症候群	
		h Ramsay Hunt症候群〈Hunt症候群〉	
		i Sturge-Weber症候群	
		j Treacher Collins症候群	
		k von Recklinghausen病〈神経線維腫症I型〉	
		l 基底細胞母斑症候群〈母斑性基底細胞癌症候群〉〈Gorlin症候群〉	
		m 骨形成不全症	
		n 鎖骨頭蓋骨異形成症〈鎖骨頭蓋異骨症〉	
		o 第一第二鰓弓症候群	
	イ 口腔症状を呈するウイルス感染症	a ヒト免疫不全ウイルス(HIV)感染症	※後天性免疫不全症候群〈AIDS〉、毛状〈様〉白板症
		b 風疹	先天性風疹症候群
		c 麻疹	
		d 水痘・帯状疱疹	※Ramsay Hunt症候群〈Hunt症候群〉
		e 単純疱疹	
		f 手足口病	
		g ヘルパンギーナ	
	ウ 口腔症状を呈する細菌感染症	a 梅毒	
		b 破傷風	
		c 結核	
	エ 口腔症状を呈するアレルギー疾患・免疫異常	a 金属アレルギー	※口腔苔癬様病変
		b IgA血管炎〈アレルギー性紫斑病〉	
		c Quincke浮腫	※遺伝性血管性浮腫〈HAE〉
		d 移植片対宿主病〈GVHD〉	
		e IgG4関連疾患	
	オ 口腔症状を呈する自己免疫疾患	a 天疱瘡・類天疱瘡	
		b 関節リウマチ	
		c 全身性エリテマトーデス〈SLE〉	
		d Sjögren症候群〈Sjögren病〉	
		e 特発性血小板減少性紫斑病〈免疫性血小板減少性紫斑病〉〈ITP〉	

大項目	中項目	小項目	備考
		f 悪性貧血	
	カ 口腔症状を呈する内分泌障害、代謝障害	a 先端巨大症〈下垂体性巨人症〉	
		b 成長ホルモン分泌不全性低身長〈下垂体性小人症〉	
		c 甲状腺機能亢進症	Basedow病〈Graves病〉
		d 甲状腺機能低下症	粘液水腫、クレチン病、慢性甲状腺炎〈橋本病〉
		e 副甲状腺機能亢進症	
		f 副甲状腺機能低下症	
		g 副腎皮質機能亢進症	Cushing病、Cushing症候群
		h 副腎皮質機能低下症	Addison病
		i 糖尿病	
		j アミロイドーシス	
		k 鉄欠乏性貧血	※Plummer-Vinson症候群
	キ 口腔症状を呈する栄養障害	a くる病	
		b 壊血病	
	ク 赤血球系疾患	a 貧血	鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血〈悪性貧血〉、再生不良性貧血、溶血性貧血
		b 赤血球増多症	
	ケ 白血球系疾患	a 白血病	※骨髓異形成症候群
		b 無顆粒球症	※発熱性好中球減少症
		c 悪性リンパ腫	
		d 多発性骨髓腫	
	コ 出血性素因	a Osler病	
		b IgA血管炎〈アレルギー性紫斑病〉	
		c 特発性血小板減少性紫斑病〈免疫性血小板減少性紫斑病〉(ITP)	
		d 血小板無力症	
		e 血友病A・B	
		f 播種性血管内凝固症候群〈DIC〉	
	サ 赤血球系疾患・白血球系疾患・出血性素因の診断と患者に対する観血的治療、歯科治療時の留意点		※抗血栓療法への留意
	シ 口腔領域に関連して現れる精神・心身医学的病態	a 気分〈感情〉障害	※うつ病、双極性障害〈躁うつ病〉
		b 不安障害	※パニック障害
		c 重度ストレス反応および適応障害	※心的外傷後ストレス障害〈PTSD〉、適応障害
		d 身体表現性障害〈身体症状症〉	
		e 心身症	

大項目	中項目	小項目	備考
		f 歯科心身症（口腔心身症）	口腔灼熱症候群（burning mouth syndrome）、口腔セネストパチー、咬合違和感症候群、歯科恐怖症
	ス 全身管理に留意すべき全身疾患・状態	a 呼吸器疾患	※慢性閉塞性肺疾患（COPD）
		b 循環器・脳血管疾患	※先天性心疾患、高血圧緊急症
		c 消化器疾患	※肝疾患
		d 血液・造血器疾患	
		e 泌尿器・生殖器疾患	
		f 精神・心身医学的疾患	
		g 神経・運動器疾患	
		h 内分泌疾患	
		i 代謝性疾患	
		j 免疫疾患	
		k 妊娠	
	セ 歯科治療時の患者管理・麻酔管理	a 術前管理	
		b 術中管理	
		c 術後管理	
	ソ 歯科における全身的偶発症とその対応	a 血管迷走神経反射	
		b 過換気症候群	
		c 局所麻酔薬中毒	
		d アナフィラキシー{ショック}	
		e 血管収縮薬による反応	
		f メトヘモグロビン血症	
		g 誤飲、誤嚥	
		h 皮下気腫	
		i 合併する全身疾患の増悪	
5 顎・口腔領域の疾患の疫学と予防	ア 有病状況とリスク要因	a 顎・口腔領域疾患の有病状況	
		b 顎・口腔領域疾患のリスク要因	
	イ 生活習慣指導	a 口腔がんの予防	※禁煙支援
		b 顎関節疾患の予防	
		c 口腔粘膜疾患の予防	
		d 損傷の予防	※マウスガード
		e 口臭の予防	
		f 栄養障害の予防	

各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害〔約24%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 病態	ア 咬合・咀嚼障害		
	イ 摂食嚥下障害		
	ウ 言語障害（言語機能障害）		※構音障害
	エ 審美障害		
	オ 心理社会的障害		
	カ 口腔機能障害・口腔顔面痛		※ジストニア・ジスキネジア
	キ ブラキシズム		
	ク 睡眠時無呼吸		
2 診察、検査、診断	ア 診察		
	イ 検査と評価	a 形態的・審美的評価	
		b 機能的評価	
		c 力学的評価	
		d 身体社会的・心理的評価	
		e 栄養評価	
		f 補綴装置の評価	※生物学的要件、機能的要件、形態的要件、力学的要件、咬合力の支持様式、咬合様式、審美的要件、材料的要件
		g 研究用模型による検査	
	h 口腔衛生状態の評価	※補綴装置の衛生状態の評価	
	i その他		
ウ 診断		※回復の到達目標	
エ 治療計画の立案		※治療法の選択	
3 クラウンブリッジによる治療	ア クラウンブリッジの設計		※補綴装置の種類と選択、診断用ワックスアップ
	イ 臨床操作	a 前処置	※補綴装置の除去
		b 支台歯形成	
		c 支台築造	
		d 印象採得	口腔内スキャナー
		e プロビジョナルレストレーション	
		f 顎間関係の記録	
		g 患者情報の記録と伝達	
		h 口腔内試適	調整方法
		i 仮着	※仮着した装置の撤去
		j 装着	装着前処理、装着材料
	ウ 技工操作	a ロストワックス法による製作	作業用模型の製作、ワックスアップ、ワックスパターン、埋没、鋳造、ろう付け、熱処理、前装方法、研磨

大項目	中項目	小項目	備考
		b CAD/CAMによる製作	※切削加工・積層造形
		c その他の方法による製作	※築盛法、耐火模型法、加圧成形法
4 部分床義歯による治療	ア 義歯の設計	a 設計の原則	※オーバードンチャー、アタッチメント
		b 義歯の構成要素	
	イ 臨床操作	a 前処置	
		b 印象採得	
		c 顎間関係の記録	
		d 試適（ろう義歯、フレームワーク）	
		e 装着	
	ウ 技工操作	a 個人トレーの製作、作業用模型の製作	
		b 咬合器装着・調節	
		c サベイング、設計線の記入	
		d 支台装置、連結子、フレームワークの製作	※積層造形
		e 人工歯の選択・排列・歯肉形成	
		f 埋没、重合、咬合器再装着	
g 咬合調整（削合）と仕上げ			
5 全部床義歯による治療	ア 義歯の設計	a 設計の原則	※オーバードンチャー、アタッチメント
		b 義歯の構成要素	
	イ 臨床操作	a 前処置	
		b 印象採得	
		c 顎間関係の記録	
		d ろう義歯の試適	※フレームワーク
		e 装着	
	ウ 技工操作	a 個人トレーの製作、作業用模型の製作	
		b 咬合器装着・調節	
		c 人工歯の選択・排列・歯肉形成	※咬合様式
		d 埋没、重合、咬合器再装着	
		e 咬合調整（削合）と仕上げ	
	6 インプラント義歯による治療	ア インプラント治療の基礎と成績	a オッセオインテグレーションの獲得
b 成功基準			
c リスクファクター			
イ インプラント義歯の設計		a 上部構造の設計	固定性・可撤性の選択
		b 埋入計画の立案	診断用セットアップ、診断用テンプレートの製作、シミュレーション診断、骨造成の要否、インプラント体の選択

大項目	中項目	小項目	備考
	ウ 臨床操作	a インプラント体埋入手術（一次手術）	一回法、二回法、コンピュータ支援手術、骨造成術
		b 二次手術	
		c 印象採得	オープントレー法、クローズドトレー法、口腔内スキャナー
		d プロビジョナルレストレーション	荷重時期の選択
		e 顎間関係の記録	
		f 患者情報の記録と伝達	
		g 装着	口腔内試適と装着、上部構造装着後の併発症
	エ 上部構造の製作	a セメント固定式上部構造の製作	既製アバットメント、カスタムアバットメント
		b スクリュー固定式上部構造の製作	アバットメント
		c インプラントオーバーデンチャーの製作	※アタッチメント
		d インプラントパーシャルデンチャーの製作	
	7 特殊な装置による治療	ア 顎顔面補綴装置	
イ 口腔内装置（オーラルアプライアンス）			顎関節症治療用、睡眠時無呼吸症治療用、ブラキシズム治療用
ウ 舌接触補助床			
エ 軟口蓋挙上装置			スピーチエイド
オ バルブ型鼻咽腔補綴装置			
8 指導と管理	ア 補綴装置に対する指導		※義歯の清掃・管理、支台歯・インプラントの清掃・管理、睡眠中の管理
	イ 口腔衛生管理		※禁煙支援、インプラント一次手術前の指導と管理
	ウ 口腔機能管理		口腔機能向上に関する指導、機能障害の予防
	エ 栄養指導	a 口腔機能に応じた栄養指導	
	オ リコールとメインテナンス	a セルフケア（ホームケア）、プロフェッショナルケア	※義歯洗浄剤、義歯安定剤
		b 残存組織の変化とその対応	※リライン（直接法と間接法）、リベース
		c 咬合の変化とその対応	
		d 機能低下とその対応	
		e 補綴装置の破損とその対応	※技工操作
f インプラントのメインテナンス		インプラント周囲粘膜炎、インプラント周囲炎	
カ 治療効果の評価			

各論V 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療〔約10%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 疾患・病態	ア 運動障害	a 脳血管疾患	
		b 関節疾患	
		c 骨折	
		d 廃用症候群	
		e 神経・筋疾患	
	イ 認知障害	a 認知症	
	ウ 摂食嚥下障害	a 先行期障害	
		b 咀嚼障害	
		c 嚥下障害	
	エ 誤嚥性肺炎	a 呼吸器系疾患	
		b 胃食道逆流症〈GERD〉	
	オ フレイル		サルコペニア、ロコモティブシンドローム
	カ その他		悪性腫瘍、腎尿路疾患
2 治療の基礎	ア 治療計画	a 治療計画の立案・提示	※インフォームド・コンセント
		b 治療の評価	主訴の改善
	イ 治療の種類	a キュアとケア	
		b 原因療法と対症療法	
		c 保存療法と外科療法	
		d 緩和療法、支持療法	
	ウ ライフステージ別の治療	a 小児の治療	※インフォームド・アセント
		b 成人の治療	
		c 高齢者の治療	
	エ 全身管理に留意すべき疾患	a 皮膚・粘膜疾患	
		b 呼吸器疾患	呼吸不全、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患〈COPD〉、肺炎
		c 循環器疾患	心筋梗塞、狭心症、不整脈、高血圧症、深部静脈血栓症、心不全、心内膜炎、弁膜症、先天性心疾患、心筋症、動脈硬化症、動脈瘤
		d 消化器疾患	消化性潰瘍、急性・慢性肝炎、肝硬変
		e 血液・造血器疾患	貧血、白血病、出血性素因、血栓傾向
		f 腎疾患	慢性腎臓病〈CKD〉、腎不全
		g 精神疾患	統合失調症、うつ病

大項目	中項目	小項目	備考
		h 神経・運動器疾患	脳出血（脳内出血）、脳梗塞、くも膜下出血、認知症、Parkinson病、てんかん、脳性麻痺、脊髄損傷、重症筋無力症、筋ジストロフィ
		i 内分泌・代謝・栄養疾患	糖尿病、甲状腺疾患、骨粗鬆症、脂質異常症
		j 免疫・アレルギー疾患	免疫不全症、自己免疫疾患、アレルギー疾患
		k 感染症	ウイルス感染症、細菌感染症、真菌感染症
		l 小児疾患	
		m その他	アルコール・薬物等依存症、妊婦、臓器移植患者、菌交代症
		オ 障害者の治療	
3 加齢による口腔・顎顔面領域の症候	ア 機能的変化	a 咀嚼機能	オーラルフレイル、口腔機能低下症
		b 摂食嚥下機能	
		c 言語機能	
		d 感覚機能	
		e 反射機能	
	イ 形態的変化	a 顔貌	
		b 歯、歯列	
		c 歯槽骨、顎骨	
		d 口腔粘膜、舌、唾液腺	口腔乾燥、萎縮
		e 顎関節、筋	
4 高齢者・有病者等に関連した臨床評価・診断・治療計画	ア 全身状態の評価	a 身体状態	日常生活動作（ADL）、手段的日常生活動作（IADL）、Barthel Index（BI）、Functional Independence Measure（FIM）
		b 認知機能	改訂長谷川式簡易知能評価スケール（HDS-R）、Mini-Mental State Examination（MMSE）
		c 心理	
		d 行動	
		e 栄養	
		f 薬物	※ポリファーマシー、和漢薬（漢方薬）
	イ 口腔機能の評価	a 口腔機能	咬合力検査、咀嚼機能検査、舌圧検査、オーラルディアドコキネシス、ブローイング検査、Saxonテスト、口腔水分計
		b 言語機能	
		c 唾液量、口腔粘膜湿潤度	
		d 筋	
		e 不随意運動	ジストニア、ジスキネジア

大項目	中項目	小項目	備考
	ウ 摂食嚥下機能の評価	a スクリーニング	反復唾液嚥下テスト〈RSST〉、改訂水飲みテスト〈MWST〉、フードテスト、嚥下スクリーニング質問紙、頸部聴診法、咳テスト
		b 精密検査	嚥下造影検査〈VF〉、嚥下内視鏡検査〈VE〉
	エ 診断		
	オ 治療計画の策定		医科歯科連携、病診連携、診診連携、多職種連携
5 高齢者等に関連した予防と管理	ア 歯の喪失予防	a 口腔保健指導	
	イ フレイル予防のための歯科保健管理	a 口腔衛生管理	
		b 口腔機能管理	
		c 栄養管理	
		d 口腔機能低下症の予防管理	
6 高齢者等に関連した歯科診療	ア 歯の硬組織疾患および歯周疾患への対応		
	イ 歯の欠損への対応		
	ウ 軟組織疾患への対応		
	エ 口腔・顎顔面の硬組織疾患への対応		
	オ 言語障害への対応		※構音障害のリハビリテーション
	カ 口腔機能低下症への対応		口腔不潔、口腔乾燥、咬合力低下、舌口唇運動機能低下、低舌圧、咀嚼機能低下、嚥下機能低下
	キ 周術期の口腔機能管理		病院歯科等の役割、病診連携
7 摂食嚥下障害への対応(摂食機能療法)	ア 治療的アプローチ	a 間接訓練	
		b 直接訓練	
	イ 代償的アプローチ		口腔衛生管理
	ウ 環境改善的アプローチ		
	エ 心理的アプローチ		
オ 栄養療法		経腸栄養〔経口栄養、経鼻経管栄養、胃瘻〈PEG〉、腸瘻〕、経静脈栄養	

大項目	中項目	小項目	備考
8 障害者の歯科治療	ア 基本的対応	a 一般的対応	潜在的適応能力（レディネス）
		b 行動調整	
	イ 歯科治療上留意すべき事項	a 環境への適応性	
		b 姿勢・異常反射	原始反射の残存
		c 全身状態の管理	
	ウ 口腔疾患の治療		
エ 口腔保健指導			
9 在宅、病院、施設における歯科診療	ア 歯科訪問診療	a 全身状態評価	
		b 歯科訪問診療器材	
		c 保健指導、口腔健康管理	
	イ 多職種協働		

主な検査項目の表記

出題に際して、主な検査項目の表記は以下に準拠する。また、略して表記することもある。出題範囲を示すものではない。

1 一般臨床検査

分類	項目
尿検査	肉眼的所見
	尿量
	比重
	浸透圧
	pH
	尿タンパク
	尿糖
	ウロビリノゲン
	ケトン体
	ビリルビン
	アミラーゼ
	尿潜血
	尿沈渣所見
	細菌検査
	尿細胞診
	白血球反応
	妊娠反応
	微量アルブミン
	レジオネラ抗原
	肺炎球菌抗原
【例】尿所見：尿タンパク 1+、糖 (-)、沈渣に赤血球10~20/1視野、白血球多数/1視野、赤血球円柱+。	
糞便検査	肉眼的所見
	顕微鏡検査（虫卵など）
	便潜血反応、免疫学的便潜血検査
	便細菌検査
喀痰検査	肉眼的所見
	細胞診
	細菌検査
脳脊髄液検査	初圧
	圧（Queckenstedt現象）
	肉眼的所見
	細胞数（種類と比率）

分類	項目
脳脊髄液検査	タンパク定量
	糖定量
	IgG%
	ミエリン塩基性タンパク
	クロール定量
	細菌検査
	細胞診
	オリゴクローナルバンド
穿刺液検査	肉眼的所見
	比重
	タンパク定量
	細胞数（種類）
	細胞診
	細菌検査

2 血液学検査

分類	項目
赤沈	赤沈
血球検査	赤血球
	ヘモグロビン（Hb）
	ヘマトクリット（Ht）
	平均赤血球容積（MCV）
	平均赤血球ヘモグロビン（MCH）
	平均赤血球ヘモグロビン濃度（MCHC）
	網赤血球
	白血球
	白血球分画
	血小板
	末梢血・骨髓血塗抹
	【例】血液所見：赤血球396万、Hb 12.9 g/dL、Ht 38%、網赤血球 1.2%、白血球7,800（桿状核好中球 12%、分葉核好中球 51%、好酸球 2%、好塩基球 1%、単球 6%、リンパ球 28%）、血小板 20万。

分類	項目
凝固・線溶・血小板機能検査	出血時間
	プロトロンビン時間〈PT〉(PT-INRを含む)
	活性化部分トロンボプラスチン時間〈APTT〉
	血漿アンチトロンビン
	トロンビン・アンチトロンビン複合体〈TAT〉
	血漿フィブリノゲン
	血清FDP
	Dダイマー
	プラスミン・プラスミンインヒビター複合体〈PIC〉
	血小板凝集能
溶血に関する検査	赤血球浸透圧抵抗試験
	Ham試験
輸血関連検査	血液型
	交差適合試験〈クロスマッチ〉

3 生化学検査

分類	項目
タンパク・タンパク分画	総タンパク〈TP〉
	タンパク分画
	アルブミン〈A1b〉
	α_1 ・ β_2 -マイクログロブリン
	IgG、IgA、IgM、IgE
	フェリチン
	心筋トロポニンT
	心筋トロポニンI
生体色素	総ビリルビン
	直接ビリルビン
酵素、アイソザイム	AST
	ALT
	LD〈LDH〉
	ALP
	γ -GT〈 γ -GTP〉
	コリンエステラーゼ〈ChE〉
	アミラーゼ

分類	項目	
酵素、アイソザイム	リパーゼ	
	CK	
	CK-MB	
	アンジオテンシン変換酵素〈ACE〉	
	ペプシノゲン	
含窒素成分	尿素窒素〈BUN〉	
	クレアチニン〈Cr〉	
	尿酸〈UA〉	
	アンモニア	
糖代謝関連	{随時}血糖	
	空腹時血糖〈FBS〉	
	ブドウ糖負荷試験〈OGTT〉	
	HbA1c	
脂質代謝関連	総コレステロール〈TC〉	
	トリグリセリド〈TG〉	
	HDLコレステロール	
	LDLコレステロール	
電解質・酸塩基平衡	Na	
	K	
	Cl	
	Ca	
	P	
	Mg	
	浸透圧	
	重金属、微量元素	Cu
		Fe
Zn		
総鉄結合能〈TIBC〉		
不飽和鉄結合能〈UIBC〉		
ビタミン	ビタミンB ₁	
	ビタミンB ₁₂	
	葉酸	
ホルモン 下垂体	甲状腺刺激ホルモン〈TSH〉	
	成長ホルモン〈GH〉	
	黄体化ホルモン〈LH〉	
	副腎皮質刺激ホルモン〈ACTH〉	
	卵胞刺激ホルモン〈FSH〉	
	プロラクチン〈PRL〉	
	抗利尿ホルモン、バソプレシン〈ADH〉	

分類	項目	
ホルモン	甲状腺	遊離トリヨードサイロニン (FT ₃)
		遊離サイロキシニン (FT ₄)
		サイログロブリン
		カルシトニン
	（上副甲状腺小体）	副甲状腺ホルモン (PTH)
	副腎	コルチゾール
		アルドステロン
		17 α -ヒドロキシprogesterone
		アドレナリン
		ノルアドレナリン
	消化管	ガストリン
	膵島	インスリン
		グルカゴン
		Cペプチド (CPR)
	腎臓	血漿レニン活性 (PRA)
		アンジオテンシン
		エリスロポエチン
	性腺・胎盤	エストラジオール (E ₂)
		エストリオール (E ₃)
		progesterone
		テストステロン
		絨毛性ゴナドトロピン (hCG)
	心臓	心房性ナトリウム利尿ペプチド (hANP)
		脳性ナトリウム利尿ペプチド (BNP)
	尿中ホルモン	5-ヒドロキシインドール酢酸 (5-HIAA)
		遊離コルチゾール
		カテコラミン
メタネフリン・ノルメタネフリン		
バニルマンデル酸 (VMA)		
腫瘍マーカー	α -フェトプロテイン (AFP)	
	CEA	
	CA19-9	
	CA125	
	SCC	
	PSA	

分類	項目
マーカー 線維化	KL-6

4 免疫血清学検査

分類	項目
マーカー 炎症	C反応性タンパク (CRP)
マーカー 感染	プロカルシトニン
感染の抗原・抗体	梅毒血清反応
	Weil-Felix反応
	ASO
	トキソプラズマ抗体
	寒冷凝集反応
	マイコプラズマ抗体
	ウイルス血清反応
	β -D-グルカン
	HTLV-1抗体
	HIV抗体
HBs抗原、HBs抗体、HBc抗体	
HCV抗体	
自己抗体	リウマトイド因子 (RF)
	抗CCP抗体
	MPO-ANCA
	PR3-ANCA
	抗核抗体
	抗ssDNA抗体
	抗dsDNA抗体
	抗セントロメア抗体
	抗アミノアシルtRNA合成酵素抗体 (抗ARS抗体)
	抗RNP抗体
	抗Sm抗体
	抗SS-A抗体
	抗SS-B抗体
抗Jo-1抗体	
抗Scl-70抗体	

分類	項目
自己抗体	抗ミトコンドリア抗体
	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体
	抗平滑筋抗体
	抗サイログロブリン抗体
	抗甲状腺ペルオキシダーゼ (TPO) 抗体
	抗TSH受容体抗体 (TRAb)
	抗GAD抗体
	抗インスリン抗体
	直接・間接Coombs試験
	抗アクアポリン4抗体
	抗アセチルコリン受容体抗体
	抗デスモグレイン1抗体、抗デスモグレイン3抗体
抗BP180抗体	
免疫タンパク	免疫電気泳動
	Bence Jones タンパク
アレルギーに関する検査	アレルギー検査
	IgE、特異的IgE、好塩基球活性化試験
	皮膚反応 (パッチテスト、プリックテスト、皮内反応)
補体	血清補体価 (CH ₅₀)、C3、C4
	免疫複合体
食菌能検査・細胞免疫検査	リンパ球表面抗原検査
	CD4/8比
	好中球機能検査
	リンパ球刺激試験
ツベルクリン反応	ツベルクリン反応
組織適合検査	HLA検査

5 微生物学検査

分類	項目
病原体検査	細菌検査 (塗抹、培養、同定、薬剤感受性試験)
	結核・抗酸菌検査 (塗抹、Gaffky号数、培養、感受性試験、核酸検査)
	スピロヘータ
	リケッチア
	クラミジア

分類	項目
病原体検査	マイコプラズマ
	ウイルス
	真菌
	原虫
	寄生虫
	核酸検査

注) 細菌の学名はイタリック体で、ウイルスはローマン体で表記。

【例】 *Staphylococcus aureus*
poliovirus

6 病理学検査

分類	項目
光顕標本	
染色法	Hematoxylin-eosin染色 (H-E染色) 【例】生検組織のH-E染色標本
	PAS染色 【例】生検組織のPAS染色標本
	PAM染色
	SudanⅢ染色
	Congo-Red染色
	Mucicarmin染色
	Gram染色 【例】喀痰のGram染色標本
	Ziehl-Neelsen染色
	Grocott染色
	May-Giemsa染色 【例】骨髓血塗抹May-Giemsa染色
	Papanicolaou染色
	免疫組織化学染色

7 生体機能検査

分類	項目
動脈血ガス分析	pH
	PaCO ₂
	PaO ₂
	HCO ₃ ⁻
	BE
	【例】動脈血ガス分析 (room air) : pH 7.41、PaCO ₂ 41 Torr、PaO ₂ 83 Torr、HCO ₃ ⁻ 25 mEq/L。

分類	項目
呼吸機能	%VC
	FEV ₁ %
	経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO ₂)
心機能	{12誘導}心電図検査
	Holter心電図検査
	運動負荷心電図検査
	心臓カテーテル検査
消化器系	唾液分泌検査
	胃液検査
	食道・胃24時間pHモニタリング検査
	食道内圧検査
	肛門内圧検査
	BT-PABA試験
内分泌・代謝機能	インスリン負荷試験
	グルカゴン負荷試験
	ブドウ糖負荷試験
	絶食試験
	TRH負荷試験
	CRH負荷試験
	GHRH負荷試験
	LHRH負荷試験
	デキサメタゾン抑制試験
	水制限試験
	高張食塩水負荷試験
	ACTH試験
	甲状腺 ¹²³ I摂取率
	フロセミド負荷試験
	PTH負荷試験 (Ellsworth-Howard試験)
	プロゲステロン負荷試験
	エストロゲン・プロゲステロン負荷試験
	ゴナドトロピン負荷試験
腎機能	クレアチニンクリアランス (CCr)
	推算糸球体濾過量 (eGFR)
	レノグラム
神経	脳波検査
	針筋電図検査
	末梢神経伝導検査

8 栄養学検査

分類	項目
身体計測	身長
	体重
	Body Mass Index (BMI)
栄養評価 包括的	SGA
	MNA

9 口腔検査

分類	項目
歯・歯髄・根管の検査	視診
	透照診
	触診
	打診
	温度診
	麻酔診
	切削診
	歯髄電気診 (電気歯髄診断)
	楔応力検査
	細菌培養検査
	レーザー蛍光強度測定
	根管長測定
	DMF
	ICDAS
	CFI
	齲蝕リスク検査
口腔清掃状態の検査	OHI
	OHI-S
	PII
	O' LearyのPCR
	PHP
歯周組織・デンタルインプラント周囲組織の検査	動揺度検査
	歯周ポケット検査 (デンタルインプラント周囲炎の検査を含む)
	GI
	BI

分類	項目
歯周組織・デンタルインプラント 周囲組織の検査	SBI
	PMA Index
	GBI
	PDI
	RussellのPI
	CPI
	PPD
	CAL
	BOP
顎間関係の記録	安静空隙利用法〈下顎安静位利用法〉
	嚙下運動利用法
	発音利用法
	最大咬合力利用法
	習慣性閉口路利用法
	ゴシックアーチ描記法
	フェイスボウトランスファー
	下顎運動記録
唾液・唾液腺 の検査	唾液分泌能検査{ガム試験、Saxonテストなどと表記}
	唾液成分検査
	唾液腺シンチグラフィ
口臭の 検査	官能検査
	ガスクロマトグラフィ検査
	ガスセンサー検査

10 画像検査

分類	検査名	画像名
エックス線撮影	口内法エックス線撮影	～画像〈写真〉
	二等分法エックス線撮影	
	平行法エックス線撮影	
	偏心投影法エックス線撮影	
	咬翼法エックス線撮影	
	咬合法エックス線撮影	
	Waters法エックス線撮影	
	頭部後前方向エックス線撮影	
頭部側方向エックス線撮影		

分類	検査名	画像名
エックス線撮影	正面・側面頭部エックス線規格撮影〈正面・側面セファロ〉	～画像〈写真〉
	顎関節エックス線撮影	
	胸部エックス線撮影	
パノラマエックス線撮影		～画像〈写真〉
エックス線造影撮影	唾液腺造影検査	～像
	血管造影検査	
CT	単純・造影CT	単純・造影CT
	歯科用コーンビームCT〈歯科用CBCT〉	歯科用コーンビームCT〈歯科用CBCT〉
MR	単純・造影MRI	単純・造影MRI
超音波検査	超音波検査	～像
核医学検査	骨シンチグラフィ	骨シンチグラム
	唾液腺シンチグラフィ	唾液腺シンチグラム
	シングルフォトンエミッションCT〈SPECT〉	シングルフォトンエミッションCT〈SPECT〉
	ポジトロンエミッション断層撮像〈PET〉	～像〈PET〉

11 顎口腔機能検査

分類	項目
咀嚼機能検査	咀嚼能力検査
	咬合力検査〈咬合圧検査〉
	咬合音検査
	筋電図検査
	舌圧検査
	下顎運動検査

分類	項目
摂食嚥下機能検査	舌圧検査
	口唇閉鎖力検査
	嚥下造影検査〈VF〉
	嚥下内視鏡検査〈VE〉
	改訂水飲み検査〈MWST〉
	反復唾液嚥下テスト〈RSST〉
	頸部聴診法
	フードテスト
発声・発語検査	呼気持続時間の測定
	発声持続時間の測定
	発語明瞭度検査
	オーラルディアドコキネシス（単音節復唱検査、交互運動能力検査）
	パラトグラム検査
鼻咽腔閉鎖機能検査	ブローイング検査
	発声言語の聴覚判定
	鼻漏出検査
	鼻咽腔内視鏡検査
味覚検査	電気味覚検査
	濾紙ディスク法
	点滴法〔滴下法、全口腔法などと表記〕
皮膚・粘膜感覚検査	痛覚検査
	触覚検査
	温度覚検査
	二点識別検査
	SWテスト
睡眠検査	ポリソムノグラフィ
	睡眠時筋電図検査

12 内視鏡検査

分類	項目
	{鼻咽腔内視鏡検査、顎関節腔内視鏡検査などと表記}

注) 検査名に下線がある場合は、下線部分を省いて画像名の欄の語を続ける。画像名の欄のないものは、波形名等として下線部分を省いて表記する。

【例】検査名… 超音波検査、心電図検査
画像名… 超音波像、心電図

索 引

索引

A

Addison 病 38, 42
ADHD..... 21
ADL..... 9, 22, 48
AED の使用 26
AIDS..... 6, 41
AMR..... 3
AMS..... 3
antimicrobial resistance.... 3
antimicrobial stewardship... 3
ASD..... 21

B

Barthel Index 〈BI〉 48
Basedow 病 〈Graves 病〉 42
BDR 指標 22
Beckwith-Wiedemann 症候群 . 32,
41
Bednar アフタ 33
Begg タイプリテーナー 34
Behçet 病 38
BI..... 48
Blandin-Nuhn{腺}嚢胞 〈前舌腺嚢胞〉 40
BLS..... 8
BMI..... 7, 17, 22
burning mouth syndrome.... 43

C

CAD/CAM による製作 45
CAD/CAM 用コンポジットレジン 29
CKD..... 22, 25, 47
COPD..... 22, 25, 43, 47
Crouzon 症候群 32, 41
CT..... 8, 23
Cushing 症候群 42
Cushing 病 42

D

DIC..... 42
DICOM..... 23
Down 症候群 32, 41

E

EBA セメント..... 30
EBM..... 8, 21
eGFR..... 24
Epstein 真珠..... 33

F

FGF-2 製剤..... 26, 36
FIM..... 48
Food Intake Level Scale 〈FILS〉
..... 22
Fordyce 斑 〈顆粒〉 38
Fournier 菌..... 32
Fränkel 装置..... 34
Frey 症候群..... 40
Functional Independence
Measure 〈FIM〉 48
Functional Oral Intake Scale
〈FOIS〉..... 22

G

Gardner 症候群 〈家族性大腸ポリ
ポーシス〉 41
GCP..... 3
GERD..... 47
GLIM 基準..... 22
Gorlin 症候群..... 41
Graves 病..... 42
GVHD..... 6, 22, 41

H

HAE..... 41
Hansen 病..... 37
Hawley タイプリテーナー..... 34
HDS-R 48
HIV..... 6, 22, 41
Hunter 舌炎..... 38
Hunt 症候群..... 41
Hutchinson 菌..... 32

I

IADL..... 9, 22, 48
ICF..... 3

ICT..... 3, 14
IgA 血管炎 〈アレルギー性紫斑
病〉 22, 41, 42
IgG4 関連疾患 40, 41
ITP..... 41, 42

J

Japan Coma Scale 〈JCS〉 21
JCS..... 21

K

Kaposi 〈カポジ〉肉腫..... 6
Kaup 指数 17
Koplik 斑 33

L

LD..... 21

M

Marfan 症候群 32, 41
McCune-Albright 症候群 41
Melkersson-Rosenthal 症候群 38
MIH 〈臼歯切歯エナメル質形成不
全〉 32
Mini-Mental State Examination
〈MMSE〉 48
MMSE..... 48
MRI..... 8, 23

N

Nance のホールディングアーチ 33
NCDs..... 14
NST..... 22

O

Osler 病 42

P

PACS..... 23
Papillon-Lefèvre 症候群 32
Parkinson 病 22, 25, 48
PET..... 23
Peutz-Jeghers 症候群 38, 41

Plummer-Vinson 症候群 . . . 38, 42
PTSD 42

Q

QOL 9, 22
Quality of Life (QOL) . . . 9, 22
Quincke 浮腫 41

R

Ramsay Hunt 症候群 (Hunt 症候群) 41
Riga-Fede 病 33
Rohrer 指数 17
RSST 49

S

Saxon テスト 48
SDGs 14
SIRS 37
Sjögren 症候群 (Sjögren 病) 40, 41
SLE 22, 38, 41
SOAP (主観的情報、客観的情報、評価、計画) 4
SPECT 23
SPT (supportive periodontal therapy) 36
SSI 14
standard precautions. 3, 9, 26
Stevens-Johnson 症候群 38
Sturge-Weber 症候群 41
supportive periodontal therapy 36
SW テスト 24

T

T1 強調像 23
T2 強調像 23
TEN 38
THP 13
TNM 分類 37
tooth wear (歯の損耗) 35
Treacher Collins 症候群 32, 41
Turner の歯 32
Turner 症候群 32

U

UHC 14

V

VE 49
VF 49
von Recklinghausen 病 38
von Recklinghausen 病 (神経線維腫症 I 型) 38, 41

あ

アウトカム 8
アウトカム指標 8
アクシデント 3
悪性黒色腫 37
悪性腫瘍 22, 40, 47
悪性貧血 42
悪性リンパ腫 37, 42
アクチバトール 34
アクリル系印象材 28
アクリルレジン 28
アタッチメント 45, 46
アドバンス・ケア・プランニング (ACP) 26
アナフィラキシー 22
アナフィラキシー {ショック} . 43
アバットメント 46
アフタ性口内炎 38
アブフラクション 35
アミロイドーシス 42
アルジネート 28
アルミナ 29
アレルギー 5, 18
アレルギー検査 25, 48
アレルギー疾患 51
アレルギー症状 8
アレルギー性紫斑病 . 22, 41, 42
安全と感染への配慮 6

い

医学・医療に関する人文・科学・芸術・時事問題などに関連する一般教養的知識や考え方 . . . 10
医学史、歯科医学史 10
医科歯科連携 3, 49
医原病 18
医事衛生法規 12

意識障害 6, 20
萎縮 18, 48
胃食道逆流症 (GERD) 47
移植片対宿主病 (GVHD) . 6, 22, 41
異所性唾液腺 40
異所萌出 32
依存症 25, 48
一次救命処置 26
一次救命処置 (BLS) 8
一般教養的事項 10
一般臨床検査 7, 24
遺伝子 4
遺伝子検査 7
遺伝性血管性浮腫 (HAE) . . . 41
医の倫理 3
医の倫理と歯科医師のプロフェッショナルリズム 3
医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 3
医薬品・医療機器による健康被害 4
医薬品の臨床試験の実施の基準 (GCP) 3
医療画像システム (PACS) . . . 23
医療計画 12
医療経済 13
医療裁判 4
医療事故調査制度 3
医療事故の防止 3
医療情報の収集 22
医療情報の収集・提供 7
医療政策 12
医療チームの構成員と役割 . . . 3
医療と介護の連携 12
医療の質の確保 3
医療廃棄物処理 3
医療被曝 23
医療費負担と給付 13
医療法 3
医療放射線被曝の防護と管理 . 23
医療保険 12
医療面接 7, 21
医療連携 12
胃瘻 (PEG) 9, 27, 49
因果関係の成立 14
インシデント 3

印象採得..... 44, 45, 46, 47
 印象用材料..... 28
 印象用材料・機器..... 10
 印象用トレー..... 28
 インターベンショナルラジオロジ
 ー..... 27
 院内感染対策..... 3, 14
 インフォームド・アセント25, 47
 インフォームド・コンセント. 3,
 25, 47
 インプラントオーバーデンチャー
 の製作..... 46
 インプラント義歯による治療. 45
 インプラント周囲炎..... 39, 46
 インプラント周囲粘膜炎..... 46
 インプラント体の選択..... 45
 インプラント体埋入手術..... 46
 インプラントのメンテナンス46
 インレーワックス..... 28

う

ウイルス感染症..... 25, 48
 ウイルス感染に伴う症候..... 6
 ウイルス感染による疾患..... 33
 ウイルス性肝炎..... 22
 ウイルス性口内炎..... 38
 ウイルス性唾液腺炎..... 40
 齶蝕..... 6, 35
 齶蝕・歯周疾患の疫学要因... 14
 齶蝕の病因..... 35
 齶蝕の予防・管理..... 35
 齶蝕への対応..... 35
 齶蝕予防薬..... 27
 うつ病..... 25, 42, 47
 運動..... 16
 運動・感覚機能..... 17
 運動器..... 20
 運動機能..... 15, 22
 運動・骨格系..... 15
 運動障害..... 6, 47
 運動療法..... 27

え

エアタービン..... 28
 永久歯..... 16, 33, 35, 36
 栄養..... 4, 48
 栄養管理..... 26, 49
 栄養サポートチーム〈NST〉.. 22

栄養障害の予防..... 43
 栄養状態..... 7, 22
 栄養素..... 15
 栄養評価..... 44
 栄養療法..... 9, 49
 疫学指標..... 14
 疫学と調査..... 14
 壊死性潰瘍性歯肉口内炎.... 38
 壊疽性口内炎..... 38
 エックス線画像の原理..... 23
 エックス線撮影..... 8
 エックス線単純撮影..... 23
 エナメル質..... 16
 エナメル質形成不全{症}... 32
 エナメル質減形成症..... 32
 エナメル質被着面処理..... 29
 エナメル滴..... 32
 エナメル突起..... 32
 エナメルマトリックスタンパク質
 30, 36
 エプーリス..... 37
 エラステック材..... 30
 エラストグラフィ..... 23
 遠隔転移..... 6, 37
 嚥下..... 17
 嚥下内視鏡検査〈VE〉..... 49
 嚥下障害..... 47
 嚥下造影検査〈VF〉..... 49
 嚥下スクリーニング質問紙... 49
 炎症..... 5, 18
 円錐歯..... 32

お

オーバーデンチャー..... 45
 オープントレー法..... 46
 オーラルディアドコキネシス. 48
 オーラルフレイル..... 48
 オッズ比..... 8, 14
 オッセオインテグレーションの獲
 得..... 45
 オトガイ帽装置..... 34

か

加圧成形法..... 45
 壊血病..... 42
 介護状況..... 22
 外骨症..... 39
 介護保険..... 12

介護保険法..... 3
 介護予防..... 12, 13
 外傷..... 3, 5
 外傷歯の治療..... 26, 36
 外傷性{顎}関節炎..... 40
 外傷性神経障害..... 40
 外歯瘻..... 39
 改訂長谷川式簡易知能評価スケ
 ール〈HDS-R〉..... 48
 改訂水飲みテスト〈MWST〉... 49
 介入研究..... 14
 外部吸収..... 35
 潰瘍..... 6
 下顎運動..... 16
 下顎運動検査..... 23
 下顎頭形成術..... 39
 化学療法..... 37
 かかりつけ歯科医..... 3
 かかりつけ歯科医機能..... 12
 過換気症候群..... 43
 核医学検査..... 23
 顎外固定装置..... 34
 各画像検査の安全管理..... 23
 顎関節..... 7, 20, 48
 顎関節強直症..... 40
 顎関節・筋機能検査..... 23
 顎関節疾患..... 5, 33
 顎関節疾患の予防..... 43
 顎関節症..... 33, 40
 顎関節・咀嚼筋疾患の病態・診
 断・治療..... 40
 顎関節脱臼..... 40
 顎関節の検査..... 8
 顎関節の症候..... 6
 顎関節リウマチ〈リウマチ性顎関
 節炎〉..... 40
 顎顔面インプラント治療..... 39
 顎顔面の変形を来す疾患・病態・
 診断..... 39
 顎顔面補綴..... 39
 顎顔面補綴装置..... 46
 顎矯正手術..... 39
 顎口腔機能検査..... 23
 顎・口腔領域疾患の有病状況. 43
 顎・口腔領域の疾患の疫学と予防
 43
 顎骨炎..... 39
 顎骨骨髓炎..... 39

顎骨骨膜炎..... 39
顎骨周囲炎..... 39
顎骨腫瘍の外科療法..... 39
拡大強調像..... 23
顎整形力..... 33
拡大装置..... 34
顎堤の状態..... 9
獲得免疫..... 15
顎反射..... 16
顎変形症..... 39
顎変形症の治療..... 34
過形成..... 18
鵞口瘡..... 38
荷重時期の選択..... 46
過剰歯..... 32
下垂体性巨人症..... 42
下垂体性小人症..... 42
カスタムアバットメント..... 46
化生..... 18
画像検査..... 8, 23
画像検査における医療情報... 23
画像診断的介入治療〈インターベ
ンショナルラジオロジー〉. 27
画像の鑑別診断..... 23
家族歴..... 7
仮着..... 44
顎間関係の記録..... 44, 45, 46
学校歯科保健と学校安全..... 13
学校保健..... 4, 13
顎骨..... 5, 7, 20, 48
顎骨壊死..... 6
顎骨・顎関節の疾患..... 18
顎骨の検査..... 8
顎骨の再建..... 39
顎骨の症候..... 6
滑膜 {性} {骨} 軟骨腫症... 40
窩洞形成法..... 35
加熱・加圧成形..... 29
加熱重合..... 29
仮封材..... 29
ガラスセラミックス..... 29
仮着用セメント..... 30
顆粒..... 38
加齢による口腔・顎顔面領域の症
候..... 48
感覚..... 16
感覚異常..... 6
感覚器系..... 4

感覚機能..... 15, 48
感覚検査..... 24
感覚障害..... 20
感覚の検査..... 8
感覚（味覚、体性感覚）の検査23
環境汚染の評価と対策..... 14
環境改善的アプローチ..... 49
環境保健..... 14
環境保健対策..... 14
観察研究..... 14
カンジダ症..... 6
患者管理..... 21
患者管理の基本..... 9
患者・障害者のもつ心理社会的問
題と背景..... 3
患者情報の記録と伝達... 44, 46
患者説明文書..... 3
患者の安全管理..... 3
患者の体位..... 6, 8
患者満足度..... 3
間接訓練..... 49
関節雑音..... 6
間接修復法..... 35
間接修復用コンポジットレジン29
関節痛..... 6
関節突起骨折..... 39, 40
関節リウマチ..... 22, 41
感染..... 3
感染経路別予防策..... 3, 9, 26
感染症... 5, 9, 18, 22, 25, 48
感染症対策..... 14
感染症対策と疫学..... 14
感染症の予防..... 14
感染症の予防及び感染症の患者に
対する医療に関する法律〈感染
症法〉..... 14
感染症法..... 14
感染制御〈対策〉チーム〈ICT〉
..... 3, 14
感染性心内膜炎..... 37
感染対策委員会..... 3, 14
感染予防..... 26
癌治療患者の管理..... 38
寒天..... 28
癌に伴う症候..... 6
顔面筋〈表情筋〉..... 16
顔面けいれん..... 40
顔面神経麻痺..... 40

顔面裂..... 32, 37
緩和医療とターミナルケア... 26
緩和療法..... 8, 25, 38, 47
緩和療法、支持療法. 8, 25, 38,
47

き

既往歴..... 7
既往歴・合併症..... 21
器械的矯正力..... 33
器械の安全な取扱法..... 8
器官系..... 4
技工操作..... 44, 45, 46
技工用デスクトップスキャナー29
義歯性線維腫..... 37
義歯床用リライン材..... 29
義歯の構成要素..... 45
義歯の清掃・管理..... 46
義歯の設計..... 45
基準値と結果の解釈..... 7
義歯安定剤..... 46
義歯洗浄剤..... 46
義歯用材料..... 10, 29
既製アバットメント..... 46
基底細胞母斑症候群〈母斑性基底
細胞癌症候群〉〈Gorlin 症候
群〉..... 41
気道異物への対応..... 26
機能印象材..... 28
機能障害..... 6
機能的矯正装置..... 34
機能的矯正力..... 33
機能的要件..... 44
気分〈感情〉障害..... 42
キュアとケア..... 25, 47
救急医療..... 26
救急患者の診察..... 8
救急・災害時等の歯科保健医療12
救急時の診察..... 21
救急処置..... 8
急性化膿性顎関節炎..... 40
急性白血病に伴う症候..... 6
急速拡大装置..... 34
胸鎖乳突筋..... 16
矯正装置..... 33
矯正用プライヤー..... 30
矯正力..... 33
頬粘膜癌..... 37

寄与危険度..... 8, 14
 局所麻酔..... 9, 26
 局所麻酔薬中毒..... 43
 巨赤芽球性貧血〈悪性貧血〉. 42
 巨大歯..... 32
 筋..... 7, 15, 20, 48
 筋萎縮性側索硬化症..... 22
 禁煙支援..... 12, 36, 43, 46
 金銀パラジウム合金..... 29
 筋系..... 4
 菌血症..... 37
 金合金..... 29
 菌交代症..... 6, 25, 48
 菌交代症に伴う症候..... 6
 筋ジストロフィ..... 22, 25, 48
 金属アレルギー..... 22, 41
 金属アレルギーに伴う症候.... 6
 金属材料..... 28, 29
 金属の接合..... 29
 金属焼付用陶材..... 29
 筋電図..... 24
 筋電図検査..... 23
 筋突起過長症..... 39
 筋の検査..... 8
 筋の症候..... 6

く

偶発症..... 26
 くさび状欠損..... 35
 苦痛への配慮..... 6
 クラウンブリッジによる治療. 44
 グラスアイオノマーセメント 28,
 30
 クリニカルパス..... 3
 くる病..... 42
 クレアチニンクリアランス
 〈CCr〉..... 24
 クレチン病..... 42
 クローズドトレー法..... 46
 クワドヘリックス装置..... 34

け

経口栄養..... 9, 27, 49
 茎状突起過長症..... 39
 経静脈栄養..... 9, 27, 49
 形成異常..... 17
 経腸栄養..... 9, 27, 49
 経鼻経管栄養..... 9, 27, 49

形態的要件..... 44
 頸部郭清術..... 37
 頸部聴診法..... 49
 けいれん..... 6, 20
 外科的歯内療法..... 36
 血液学検査..... 7, 24
 血液・血液製剤の安全性..... 4
 血液・造血器..... 20
 血液・造血器疾患9, 22, 25, 43,
 47
 結核..... 22, 41
 結核・梅毒に伴う症候..... 6
 血管系..... 15
 血管収縮薬による反応..... 43
 血管迷走神経反射..... 43
 血小板無力症..... 42
 ゲノム..... 4
 原因療法..... 8
 原因療法と対症療法..... 25, 47
 検疫法..... 14
 研究用模型による検査..... 44
 限局性学習症〔学習障害〈LD〉〕
 21
 健康格差..... 3
 健康危機管理..... 4
 健康・疾病・障害の概念..... 12
 健康・疾病の概念..... 5
 健康診断..... 12, 13
 健康増進計画..... 12
 健康増進と疾病予防..... 4
 健康増進法..... 4
 健康増進法に基づく保健事業. 13
 健康の社会的決定要因..... 3, 12
 健康の保持・増進と社会保障. 12
 言語機能..... 9, 48
 言語機能障害..... 20, 44
 言語障害..... 5
 言語障害〈言語機能障害〉20, 44
 言語障害のリハビリテーション26
 言語障害への対応..... 49
 検査..... 23
 検査・診断に伴う医原病..... 18
 検査の安全性..... 7
 検査・臨床判断の基本..... 7
 犬歯間保定装置..... 34
 検体検査..... 24
 検体検査の種類..... 7
 検定..... 14

現病歴..... 7
 腱膜過形成症..... 41
 研磨材..... 10, 28

こ

コイルスプリング..... 30
 誤飲..... 3, 8, 43
 誤飲・誤嚥への対応..... 26
 抗炎症薬..... 27
 構音..... 17
 構音器官..... 17
 構音障害..... 26, 37, 44
 口角炎・口角びらん..... 38
 抗菌薬の適正使用
 [antimicrobial stewardship
 〈AMS〉]..... 3
 口腔..... 16
 口腔インプラント・口腔外科・歯
 周治療用材料..... 10, 30
 口腔衛生管理..... 4, 46, 49
 口腔衛生状態の評価..... 44
 口腔・顎顔面に異常をきたす骨系
 統疾患・症候群..... 41
 口腔・顎顔面の加齢変化..... 17
 口腔・顎顔面の機能..... 16, 20
 口腔・顎顔面の検査..... 8
 口腔・顎顔面の硬組織疾患への対
 応..... 49
 口腔・顎顔面の疾患..... 32
 口腔・顎顔面の症候..... 20
 口腔・顎顔面の診察..... 7
 口腔・顎顔面の成長・発育..... 5
 口腔・顎顔面の発育を障害する先
 天異常の病態・特徴..... 32
 口腔・顎顔面の発生・成長・発育
 17
 口腔・顎顔面領域の疾患と障害の
 概念..... 5
 口腔・顎顔面領域の疾患の病因・
 病態..... 18
 口腔・顎顔面領域の症候..... 6
 口腔・顎の機能の発達..... 17
 口腔癌..... 37
 口腔環境の評価..... 9
 口腔カンジダ症〈鵝口瘡〉... 38
 口腔乾燥..... 6, 20, 48, 49
 口腔乾燥症..... 38, 40
 口腔がんの予防..... 43

口腔関連 QOL	22	口腔粘膜疾患の予防	43	合着・接着用セメント	30
口腔機能管理	4, 26, 27, 46, 49	口腔粘膜湿潤度	48	口底癌	37
口腔機能向上に関する指導	46	口腔粘膜の疾患	18	公的扶助	12
口腔機能障害・口腔顔面痛	44	口腔粘膜の症候	6	後天性免疫不全症候群〈AIDS〉	6, 41
口腔機能低下	20	口腔粘膜の状態	9	後天性免疫不全症候群〈AIDS〉に伴う症候	6
口腔機能低下症	48	口腔バイオフィルム	4	行動調整	21, 50
口腔機能低下症の予防管理	49	口腔梅毒	37	行動変容	4
口腔機能低下症への対応	49	口腔扁平苔癬	38	行動療法	27
口腔機能の検査	8	口腔保健指導	49, 59	口内法エックス線撮影	8, 23
口腔機能の発達	5	口腔保健における国際保健協力	14	紅板症	38
口腔機能のリハビリテーション	9	口腔領域に関連して現れる精神・心身医学的病態	42	公費医療	12
口腔機能発達不全	20	口腔領域の放射線治療	27	抗微生物薬	27
口腔筋機能療法	27, 34	広頸筋	16	咬耗症	35
口腔結核	37	高血圧緊急症	43	高齢期の生理的特徴	5
口腔健康管理	4, 50	抗原処理と抗原提示	15	高齢者歯科保健	13
口腔検査・顎口腔機能検査	23	咬合	17, 20	高齢者の口腔管理	13
口腔灼熱症候群〈burning mouth syndrome〉	43	咬合違和感症候群	43	高齢者の治療	25, 47
口腔習癖とその対応	34	硬口蓋癌	37	高齢者の日常生活支援	13
口腔症状を呈するアレルギー疾患・免疫異常	41	咬合器再装着	45	高齢者の歯の硬組織疾患	35
口腔症状を呈するウイルス感染症	41	咬合器装着・調節	45	高齢者への対応	22
口腔症状を呈する栄養障害	42	咬合挙上板	34	高齢者保健	13
口腔症状を呈する細菌感染症	41	咬合採用材料	28	高齢者・有病者等に関連した臨床評価・診断・治療計画	48
口腔症状を呈する内分泌障害	45	咬合斜面板	34	誤嚥	3, 6, 8, 43
口腔心身症	43	咬合状態	7, 9	誤嚥性肺炎	47
口腔清掃	4	咬合性外傷	36	呼吸器系	4, 15
口腔清掃指導	35, 36	咬合性外傷に対する治療	36	呼吸器系疾患	47
口腔清掃状態の検査	23	口腔清掃指導	35, 36	呼吸器疾患	9, 22, 25, 43, 47
口腔セネストパチー	43	口腔清掃状態	9	呼吸機能検査	24
口腔潜在的悪性疾患	18, 37	咬合接触、咬合様式	16	呼吸困難	6, 8, 20
口腔苔癬様病変	41	咬合・咀嚼障害	44	呼吸・循環器	20
口腔と全身の健康増進	12	咬合調整（削合）と仕上げ	45	呼吸不全	25, 47
口腔内試適	44	咬合の変化とその対応	46	国際協力	14
口腔水分計	48	咬合様式	44, 45	国際生活機能分類〈ICF〉	3
口腔内スキャナー	28, 44, 46	咬合力検査	48	国際保健	14
口腔内装置	29, 46	咬合力の支持様式	44	国民医療費	3, 13
口腔軟組織の疾患	33	公衆衛生活動	12	国民栄養の現状と対策	14
口腔粘膜	7, 16, 20, 48	口臭検査	23	国民健康づくり対策	4
口腔粘膜炎	6	口臭症	40	黒毛舌	38
口腔粘膜外傷の病態・診断・治療	33	口臭の検査	8	個人識別	13
口腔粘膜潰瘍	6	口臭の予防	43	個人情報保護	4
口腔粘膜疾患	5	抗腫瘍薬	27	個人トレーの製作	45
口腔粘膜疾患の病態・診断・治療	38	溝{状}舌	38	個人用防護具〈PPE〉	3
		甲状腺機能亢進症	42	個体の死	19
		甲状腺機能低下症	42	骨移植術	36, 39
		口唇癌	37	骨延長術	39
		口唇ヘルペス	33		
		口唇裂・口蓋裂	32, 37		

骨格系	4
骨形成線維腫	39
骨形成不全症	32, 41
骨髄異形成症候群	42
骨接合・顎骨再建用材料	30
骨造成術	39, 46
骨造成の要否	45
骨組織代謝	17
骨粗鬆症	25, 48
骨軟骨腫	40
骨肉腫	39
骨補填用材料	30
骨膜下膿瘍	37, 39
骨隆起	39
コバルトクロム合金	29
コバルトクロム合金線	30
誤薬	3
根管充填	35
根管充填材	29
根管処置	35
根拠に基づいた医療〈EBM〉	8, 21
根尖性歯周疾患	5, 35, 36
根治療法	8
根分岐部病変の治療	36
コンポジットレジン	28
根面齶蝕	35

ナ

鰓弓〈咽頭弓〉	17
再建術	37
再生不良性貧血	42
再石灰化	35
在宅医療	3, 8, 12
在宅、病院、施設における歯科診療	50
細胞間情報伝達	17
細胞・細胞小器官の構造・機能	4
細胞死	18
細胞遮断膜	30
細胞診	8
細胞性免疫	4, 15
細胞・組織・器官の構造と機能	15
細胞・組織の損傷	18
細胞・組織の損傷と修復	5
細胞・組織の適応	18
材料的要件	44
材料の種類	28
材料の性質	28

作業関連疾患	13
作業用模型の製作	44, 45
鎖骨頭蓋骨異形成症	32, 41
鎖骨頭蓋骨異形成症〈鎖骨頭蓋異骨症〉	32, 41
サベイング	45
サルコイドーシス	37
サルコペニア	22, 47
酸化亜鉛ユージノール	28
酸化亜鉛ユージノールセメント	30
産業歯科保健	13
産業保健	4, 13
三叉神経痛	40
三叉神経ニューロパチー	40
三叉神経麻痺	40
三歯徴〈三表徴〉	16
酸蝕症	35
残存歯の状態	9
三表徴	16

シ

シートワックス	28
死因の究明	13
歯科医師と患者・家族との関係	3
歯科医師法	3
歯科衛生士法	3
歯科技工指示書	4
歯科技工士法	3
歯科矯正用アンカースクリュー	33
歯科矯正用材料	10, 30
歯科恐怖症	43
歯科口腔保健の推進に関する法律	4
歯科材料・機器	10
歯科材料接着処理	29
歯科疾患のリスク評価	12
歯科心身症〈口腔心身症〉	43
歯科治療時の患者管理・麻酔管理	43
歯科治療上留意すべき事項	21, 50
歯科法医学	13
歯科訪問診療	8, 12, 50
歯科訪問診療器材	50
歯科用コンビームCT	8, 23
歯科用磁性合金	29
歯科用実体顕微鏡	28
歯科用石膏	28
歯科用ユニット	8, 28

歯科用ワックス	28
歯冠周囲炎〈智歯周囲炎〉	37
歯冠修復・義歯用材料	10, 29
歯冠修復物	7
歯冠補綴用コンポジットレジン	29
色素性母斑	38
色素沈着	20, 38
歯原性悪性腫瘍	39
歯原性嚢胞	39
歯原性良性腫瘍	39
自己免疫疾患	18, 25, 48
歯根形成	17
歯根の異常	32
歯式	16
歯質接着処理	29
歯周炎とそのリスクファクター	36
歯周基本治療	36
歯周形成手術	36
歯周外科治療	36
歯周疾患	5, 6, 36
歯周疾患の疫学要因	14
歯周組織	7, 16, 20
歯周組織形成	17
歯周組織再生療法	26, 36
歯周組織〈歯周病〉検査	23
歯周組織の検査	8
歯周組織の疾患	18
歯周組織の症候	6
歯周治療	9, 26
支持療法	8, 25, 38, 47
視診	6
歯髄	16, 17
歯髄・根管の検査	23
歯髄・根尖歯周組織	7, 20
歯髄・根尖歯周組織の症候	6
歯髄除去療法	35
歯髄保存療法	35
ジスキネジア	40, 44, 48
システムティックレビュー	8
ジストニア	40, 44, 48
歯性感染症	5
歯性上顎洞炎	37, 39
自然免疫	4, 15
歯槽骨炎	39
歯槽膿瘍	37
持続可能な開発目標〈SDGs〉	14
支台歯・インプラントの清掃・管理	46

支台歯形成.....	44	主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療.....	39	上皮異形成.....	37
支台装置.....	45	主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療.....	41	上皮真珠.....	33
支台築造.....	44	主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療.....	37	上皮性異形成〈上皮異形成〉.....	37
支台築造材.....	29	ジュネーブ宣言.....	3	上部構造の製作.....	46
舌の症候.....	6	腫瘍.....	5, 18	上部構造の設計.....	45
疾患に応じた薬物療法.....	27	腫瘍および腫瘍類似疾患.....	40	初期救急.....	8
失神.....	6, 8, 20	腫瘍・腫瘍類似疾患に対する診断・治療.....	37	食育基本法.....	14
疾病の概念.....	5	主要症候.....	6	職業性歯科疾患.....	13
疾病予防の3相5段階.....	12	主要な疾患と障害の病因・病態.....	5	食事摂取基準.....	14
歯堤.....	17	循環器系.....	4, 15	食事バランスガイド.....	14
児童虐待による歯の外傷.....	33	循環器疾患.....	9, 22, 25, 47	触診.....	6
児童虐待への対応.....	13	循環器・脳血管疾患.....	43	食生活指針.....	14
児童福祉制度.....	13	循環障害.....	5, 18	食生活指導.....	35
歯内-歯周疾患.....	35	常温重合(流し込み成形).....	29	食生活と健康.....	14
歯内療法.....	9, 26	障害児・障害者の歯科保健医療.....	13	褥瘡性潰瘍.....	38
歯内療法用材料.....	10, 29	障害児・障害者の保健・福祉.....	13	食品衛生法.....	14
歯肉癌.....	37	障害児・障害者保健.....	4	食品表示法.....	14
歯肉形成.....	45	障害者の歯科治療.....	50	食品保健と食事指導.....	14
歯肉出血.....	6	障害者の治療.....	25, 48	所属リンパ節〈領域リンパ節〉.....	7
歯肉増殖.....	6	障害者への対応.....	21	ショック.....	6, 8, 20
歯肉退縮.....	36	消化器.....	20	処方箋.....	4
歯肉膿瘍.....	37, 39	消化器系.....	4, 15	徐脈.....	6, 20
歯肉肥大〈歯肉増殖〉.....	6	消化器疾患.....	9, 22, 25, 43, 47	シリコーンゴム.....	28
歯肉病変とそのリスクファクター.....	36	上顎前方牽引装置.....	34	自立支援.....	13
歯胚.....	17	上顎洞癌.....	37	ジルコニア.....	29
自閉スペクトラム症〔自閉症スペクトラム障害〈ASD〉〕.....	21	上顎洞底挙上術.....	39	歯列.....	5, 17, 20, 48
脂肪抑制像.....	23	症候.....	6, 7, 20	歯列弓.....	7
歯磨剤.....	4	常在微生物叢.....	4, 15	歯列・咬合の検査.....	23
シミュレーション診断.....	45	小帯異常.....	33	歯列・咬合の症候.....	6
社会と歯科医療.....	3	小帯の異常.....	37	歯列・咬合の診察.....	7
社会保障制度.....	12	消毒と滅菌.....	26	心筋梗塞.....	25, 47
社会保障費.....	13	消毒・滅菌と感染対策.....	9	シングルフォトンエミッションCT〈SPECT〉.....	23
重合.....	45	小児・高齢者・妊産婦・障害者・要介護者の治療.....	8	神経・運動器疾患.....	9, 22, 25, 43, 48
周術期の管理.....	26	小児疾患.....	9, 25, 48	神経・運動器疾患の病態・診断・治療.....	40
周術期の口腔機能管理.....	49	小児の機能.....	17	神経・筋疾患.....	47
修復と再生.....	18	小児の歯髄疾患・根尖性歯周疾患.....	36	神経・筋疾患に伴う症候.....	6
手術・周術期の管理、麻酔.....	26	小児の生理的特徴.....	5	神経系.....	4, 15, 20
手術部位感染〈SSI〉.....	14	小児の治療.....	25, 47	神経疾患.....	5
主訴.....	7, 25, 47	小児の歯・口腔・顎の外傷.....	33	神経線維腫症I型.....	38, 41
手段的日常生活動作〈IADL〉.....	9, 22, 48	小児の歯の硬組織疾患.....	35	神経組織.....	4
出血性素因.....	22, 25, 42, 47	小児への対応.....	21	人工歯.....	29
出血性素因に伴う症候.....	6			人工歯の選択.....	45
術者の姿勢・位置.....	6			進行性下顎頭吸収〈特発性下顎頭吸収〉.....	33, 40
主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療.....	40			人口統計.....	14

診察総論	21
診察の基本	6, 21, 22
心疾患	22
腎疾患	47
心身症	42
診診連携	49
新生児歯	32
唇舌側弧線装置	33
身体障害	13, 21
身体症状症	42
身体的特徴	21
人体の加齢変化	5
人体の正常構造・機能	4
人体の成長・発達・加齢変化	17
人体の発生・成長・発達・加齢変化	5
身体表現性障害〈身体症状症〉	42
診断参考レベル	23
診断用セットアップ	45
診断用テンプレートの製作	45
診断用ワックスアップ	44
シンチグラフィ	23
心停止	8
心的外傷後ストレス障害〈PTSD〉	42
心内膜炎	25, 47
心肺蘇生	26
審美障害	44
審美的要件	44
腎・泌尿器・生殖器	20
腎・泌尿器・生殖器疾患	9, 22, 25
心不全	20, 25, 47
心理	20, 48
心理社会的障害	44
心理・社会的特徴	21
心理的アプローチ	49
診療ガイドライン	8, 21
診療情報提供	22
診療情報の開示	4
診療用器械	28
診療用器械・器具	10, 28
診療録、診療情報の記録と管理	4
情報倫理およびデータ保護に関する原則	4

す

推算糸球体濾過量 (eGFR)	24
-----------------	----

水痘	33, 41
水疱	6, 20
睡眠検査	24
睡眠時筋電図検査	24
睡眠時無呼吸	20, 44
スクリーニング	7, 49
スクリーニング検査	14
スクリー固定式上部構造の製作	46
健やか親子	21
スティッキーワックス	28
ステンレス鋼	29
ステンレス鋼線	30
スパイロメトリ	24
スピーチエイド	46
スプリングリテーナー	34

せ

生化学検査	7, 24
生活習慣指導	36, 43
成形技術・機器	10, 29
成形修復	10
成形修復・予防填塞・歯内療法用材料	10, 28
性差	7
正常咬合の概念と成立条件	33
精神機能	20
成人・高齢者保健	4
成人歯科保健	13
精神疾患	9, 22, 25, 47
精神障害	13, 21
精神・心身医学的疾患	5, 43
精神心理状態	22
精神鎮静法	9, 26
精神年齢	17
精神保健	4
成人保健	13
生体機能検査	24
生体材料の科学	28
生体染色法	23
生体反応	33
正中菱形舌炎	38
成長ホルモン分泌不全性低身長〈下垂体性小人症〉	42
生物学的要件	44
生理的年齢	17
喘鳴	6, 20
セカンドオピニオン	3

積層造形	45
積層造形 (付加製造)	29
咳テスト	49
舌	7, 9, 16, 17, 20, 48
舌圧検査	48
舌咽神経痛	40
舌炎	6, 38
切開	9
石灰化機構	17
切開排膿	26
舌下神経麻痺	40
舌癌	37
設計線の記入	45
赤血球系疾患	42
赤血球増多症	42
舌・口 (腔) 底の異常	37
舌・口腔粘膜検査	23
切削加工	29
切削・研削工具	10, 28
切削・研削工具・研磨材	10
摂食嚥下機能	9, 17, 48
摂食嚥下機能検査	23
摂食嚥下障害	5, 6, 20, 22, 26, 44, 47
摂食嚥下障害のリハビリテーション	26
摂食嚥下障害への対応 (摂食機能療法)	49
摂食嚥下の5期	17
切除療法	36
舌接触補助床	46
接着処理	10
接着処理・技術	29
接着性モノマー	29
接着用材料	30
舌扁桃	38
セメント固定式上部構造の製作	46
セメント質骨形成線維腫	39
セメント質骨性異形成症	39
セラミック材料	29
セルフケア (ホームケア)	46
線維性 (骨) 異形成症	39
前癌病変	18, 37
先行期障害	47
潜在的適応能力 (レディネス)	50
線材料	30
穿刺	9, 26
染色体	4

染色体・遺伝子検査..... 24
 前処置..... 44, 45
 全身管理に留意すべき疾患25, 47
 全身管理に留意すべき疾患・対象
 9
 全身管理に留意すべき全身疾患・
 状態..... 43
 全身・口腔の構造と機能..... 4
 全身・口腔の生態系..... 4, 15
 全身疾患..... 5, 18
 全身疾患の画像所見..... 23
 全身疾患を有する者の歯周疾患治
 療..... 36
 全身疾患を有する者への対応..... 22
 全身状態の評価..... 8, 26, 48
 全身状態評価..... 50
 全身性エリテマトーデス (SLE)
 22, 38, 41
 全身性炎症(性)反応症候群
 (SIRS) 37
 全身的偶発症とその対応..... 43
 全身的疾患に関連する口腔・顎顔
 面領域の症候..... 6
 全身の症候..... 6, 20
 全身の診察..... 7, 21
 全身麻酔..... 9, 26
 前舌腺嚢胞..... 40
 栓塞子(オブチュレータ) ... 46
 先端巨大症(下垂体性巨人症) 42
 先天異常..... 5, 18
 先天異常と変形を主徴とする疾患
 の病態・診断・治療..... 37
 先天異常を伴う不正咬合の治療34
 先天欠如..... 32
 先天歯..... 32
 先天性外胚葉異形成症..... 32
 先天性外胚葉形成不全..... 32
 先天性心疾患..... 25, 43, 47
 先天性風疹症候群..... 41
 全部床義歯による治療..... 45
 線量限度..... 23

そ

躁うつ病..... 42
 双極性障害(躁うつ病) 22
 造影CT..... 23
 造影MRI 23
 造影剤と副作用..... 23

臓器機能検査..... 24
 早期萌出乳歯..... 32
 双極性障害(躁うつ病) . 22, 42
 象牙質..... 16
 象牙質異形成症..... 32
 象牙質形成不全(症) 32
 象牙質・歯髄保護法..... 35
 象牙質知覚過敏症..... 35
 象牙質被着面処理..... 29
 造血器系..... 4, 15
 創傷治癒..... 18
 創傷の処置..... 9
 双生歯..... 32
 相対危険度..... 8, 14
 装着..... 44, 45, 46
 装着材料..... 44
 装着前処理..... 44
 装着用材料..... 10, 30
 組織..... 4, 15
 組織学的構造..... 18
 組織再生誘導法(GTR法) ... 36
 組織診..... 8
 組織と性状..... 16
 組織付着療法..... 36
 咀嚼..... 16
 咀嚼機能..... 9, 48
 咀嚼機能検査..... 23, 48
 咀嚼筋腱..... 41
 咀嚼障害..... 5, 20, 26, 47
 塑性加工..... 29
 尊厳..... 6
 損傷の予防..... 43

た

ダイナミックMRI..... 23
 ダイナミック印象材..... 28
 ターミナルケア..... 26
 第一第二鰓弓症候群..... 32, 41
 体液性免疫..... 4, 15
 体格指数(BMI) 7
 耐火模型法..... 45
 代謝系..... 4, 15
 代謝障害..... 44
 代謝障害(変性) 18
 代謝性疾患..... 43
 代償的アプローチ..... 49
 帯状疱疹..... 33, 38, 41
 帯状疱疹後神経痛..... 40

対症療法..... 8
 代表値..... 14
 タウロドント..... 32
 唾液..... 9
 唾液腺..... 7, 16, 17, 20, 48
 唾液腺疾患..... 5
 唾液腺疾患の病態・診断・治療40
 唾液腺の検査..... 8
 唾液腺の疾患..... 18
 唾液腺の症候..... 6
 唾液・唾液腺検査..... 23
 唾液分泌..... 17
 唾液分泌機能..... 17
 唾液分泌量減少・増加..... 6
 唾液瘻..... 40
 多形(滲出性)紅斑..... 6, 38
 多職種協働..... 50
 多職種連携..... 3, 49
 唾石症..... 40
 脱灰..... 35
 多発性骨髄腫..... 42
 タングクリブ..... 33
 単純疱疹..... 33, 38, 41

ち

地域診断..... 12
 地域の保健・医療..... 12
 地域包括ケアシステム..... 3, 12
 地域包括支援センター..... 12
 地域保健活動..... 12
 地域保健にかかる法規と制度.. 4
 地域保健法..... 4
 チーム医療..... 3, 12
 築盛法..... 45
 智歯周囲炎..... 37
 地図状舌..... 38
 チタン..... 29
 チタン合金..... 29
 チタン合金線..... 30
 チタンモリブデン合金..... 30
 知的障害..... 13, 21
 注意欠如・多動症[注意欠陥多動
 性障害(ADHD)] 21
 注射法の種類..... 9
 中心結節..... 32
 鋳接..... 29
 鋳造..... 44
 鋳造機..... 29

鑄造欠陥.....	29
鑄造工程.....	29
中毒.....	18
中毒性表皮壊死剝離症〈TEN〉	38
チューブ.....	30
超音波検査.....	8, 23
超音波スケーラー.....	28
腸瘻.....	9, 27, 49
直接訓練.....	49
直接修復法.....	35
治療計画.....	25, 33, 47
治療的アプローチ.....	49
治療に伴う医原病.....	18
治療に用いる基本的器材.....	8
治療の基礎.....	25, 47
治療の基礎・基本手技.....	8
チンキャップ〈オトガイ帽装置〉	34
鎮痛薬.....	27

つ

痛風性顎関節炎.....	40
--------------	----

て

手足口病.....	33, 38, 41
低位乳歯.....	32
ティッシュコンディショナー.....	28
低ホスファターゼ症.....	32
低融銀合金.....	29
適応障害.....	42
鉄欠乏性貧血.....	38, 42
てんかん.....	22, 25, 48
電気生理学検査.....	24
天疱瘡.....	38, 41
電離放射線.....	23

と

同意書.....	3
トゥースポジショナー.....	34
頭蓋.....	17
頭蓋骨.....	16
頭蓋骨(顔面骨を含む)の成長の 特徴.....	5
統計解析.....	14
頭頸部の形成.....	17
頭頸部の構造.....	16
陶材.....	29

陶材の築盛・焼成.....	29
陶材焼付用金合金.....	29
疼痛.....	18
動的咬合誘導.....	34
糖尿病.....	22, 25, 42, 48
糖尿病に伴う症候.....	6
頭部の成長・発育.....	17
投薬上の注意.....	21
トータルヘルスプロモーションプ ラン〈THP〉.....	13
特定健康診査.....	13
特定保健指導.....	13
床矯正装置.....	34
床用レジン.....	30
特発性血小板減少性紫斑病〈免疫 性血小板減少性紫斑病〉〈ITP〉	41, 42
ドプラ法.....	23
トランスパラタルアーチ.....	33
ドレナージ.....	9, 26

な

内因・外因.....	18
内歯瘻.....	39
内部吸収.....	35
内分泌系.....	4, 15
内分泌疾患.....	43
内分泌・代謝・栄養.....	20
内分泌・代謝・栄養疾患.....	9, 22, 25, 48
軟口蓋挙上装置.....	46
軟骨内骨化.....	17
軟骨無形成症.....	32
軟組織疾患への対応.....	49
軟組織の疾患.....	18
軟組織の損傷の病態・診断・治療	37

に

肉芽腫性口唇炎.....	38
二次救命処置.....	26
日常生活動作〈ADL〉.....	9, 22, 48
ニッケルチタン合金.....	30
二点識別検査.....	24
乳歯.....	16, 33, 35, 36
乳幼児の歯科保健と健康診査.....	13
ニュルンベルグ綱領.....	3
妊産婦の歯科保健.....	13

妊娠.....	43
認知機能.....	7, 22, 48
認知・言語機能.....	17
認知行動療法.....	27
認知症.....	22, 47, 48
認知障害.....	47
認知症患者、要介護高齢者にみら れる症候.....	6
認知症対策.....	13
認知症施策推進大綱.....	13
妊婦.....	25, 48
妊婦・授乳婦への対応.....	21

ね

熱可塑性樹脂.....	30
熱処理.....	29, 44
粘液水腫.....	42
粘液嚢胞.....	40
粘液瘤.....	40
粘膜斑.....	6
粘膜・皮膚・眼症候群〈Stevens- Johnson 症候群〉.....	38
年齢差.....	7
年齢に応じた対応.....	21

の

脳梗塞.....	25, 48
脳出血〈脳内出血〉.....	25, 48
嚢胞.....	18
嚢胞.....	5
膿疱.....	20
膿瘍の処置.....	9
ノーマライゼーション.....	12
ノーマライゼーションの理念.....	3

は

バイアス.....	14
バイオネーター.....	34
廃棄物処理.....	14
敗血症.....	37
バイタルサイン.....	7, 21
梅毒.....	22, 41
廃用症候群.....	47
排列.....	45
白色海綿状母斑.....	38
白板症.....	38
歯・歯周組織・咬合の治療.....	26

歯・歯周組織に対する基本的処置
..... 9

歯・歯周組織の形成と歯の萌出17

歯・歯周組織の診察..... 7

歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷
の病態・診断・治療..... 39

橋本病..... 42

播種性血管内凝固症候群〈DIC〉
..... 42

破傷風..... 41

歯髄疾患..... 5, 35, 36

歯髄疾患・根尖性歯周疾患... 35

発育異常..... 5, 18, 40

発育区分における成長・発達の評
価..... 17

白血球系疾患..... 42

白血病.... 22, 25, 37, 42, 47

抜歯..... 9

抜歯後出血..... 6

発声..... 17

発声器官..... 17

発声・構音・発語検査..... 23

発達障害..... 13, 21

発達障害のある小児への対応... 21

発達スクリーニング検査..... 17

パッチテスト..... 24

発熱性好中球減少症..... 42

歯と歯周組織の構造..... 16

歯内歯..... 32

パニック障害..... 42

歯の異常..... 32

歯の外傷..... 35

歯の外傷の病態・診断・治療... 33

歯の外傷の予防..... 33

歯の亀裂・破折..... 35

歯の亀裂・破折・脱臼..... 39

歯の形成不全..... 6

歯の形態..... 16

歯の欠如・欠損の治療.... 9, 26

歯の欠損への対応..... 49

歯の検査..... 8

歯の硬組織形成..... 17

歯の硬組織疾患..... 5, 35

歯の硬組織疾患および歯周疾患へ
の対応..... 49

歯の硬組織疾患の治療 9, 26, 35

歯の硬組織の検査..... 23

歯の再植..... 39

歯の疾患..... 32

歯の喪失に伴う変化・障害... 19

歯の喪失予防..... 44

歯の損耗..... 6

歯の脱落・交換時期..... 5

歯の漂白..... 35

歯のフッ素症..... 32

歯の変色..... 6

歯の変色・着色..... 35

歯の萌出..... 17

歯の萌出・数..... 7

パノラマエックス線撮影... 8, 23

ばらつき..... 14

パラフィンワックス..... 28

バリアフリー..... 12

針反応テスト..... 24

パルスオキシメトリ..... 24

パンデミック..... 14

バンド..... 30

反復唾液嚥下テスト〈RSST〉... 49

ひ

鼻咽腔閉鎖機能検査..... 23

鼻咽腔閉鎖不全..... 37

非齶蝕性硬組織疾患..... 35

皮下気腫..... 43

光照射器..... 28

光重合..... 29

非感染性疾患〈NCDs〉..... 14

非歯原性悪性腫瘍..... 39

非歯原性歯痛..... 40

非歯原性嚢胞..... 39

非歯原性良性腫瘍..... 39

微生物..... 15, 18

微生物学検査..... 7, 24

微生物の構造・一般性状..... 4

肥大..... 18

ヒト免疫不全ウイルス〈HIV〉感
染症..... 6, 22, 41

人を対象とする生命科学・医学系
研究に関する倫理指針..... 3

皮内テスト..... 24

泌尿器・生殖器系..... 4, 15

被曝..... 3

被曝低減三原則..... 23

皮膚・粘膜..... 20

皮膚・粘膜系..... 15

皮膚・粘膜欠損修復..... 30

皮膚・粘膜検査..... 24

皮膚・粘膜疾患..... 9, 25, 47

ヒヤリハット..... 3

病因・病態..... 18

標準予防策〈standard
precautions〉..... 3, 9, 26

表情筋..... 16

病診連携..... 3, 49

費用対効果..... 8

病理学検査..... 8, 24

病歴..... 7

病院歯科の役割..... 12, 49

貧血..... 20, 22, 25, 42

貧血に伴う症候..... 6

頻脈..... 6, 20

ふ

ファイバーポスト..... 29

不安障害..... 42

風疹..... 41

フードテスト..... 49

吹き抜け骨折..... 39

複合材料..... 28, 29

副甲状腺機能亢進症..... 42

副甲状腺機能低下症..... 42

副作用..... 4, 9

福祉..... 3, 12, 13

副腎皮質機能亢進症..... 42

副腎皮質機能低下症..... 42

不随意運動..... 20, 48

不正咬合..... 5, 6, 20

不正咬合の診断..... 33

不正咬合の治療..... 9, 26, 34

不正咬合の病因・病態..... 33

不正咬合の予防..... 34

フッ化物応用..... 4, 35

部分床義歯による治療..... 45

プラーク〈口腔バイオフィルム〉
..... 4, 15

プライバシー..... 6

プライマリヘルスケア.... 4, 12

ブラキシズム..... 44

ブラケット..... 30

プラスチックワイヤー〈真鍮線〉... 30

ブリックテスト..... 24

フレイル..... 22, 47

フレイル対策..... 13

フレイル予防のための歯科保健管理..... 49
 フレームワーク..... 45
 フレームワークの製作..... 45
 ブローイング検査..... 48
 プロセスモデル..... 17
 プロトン密度強調像..... 23
 プロビジョナルレストレーション..... 44, 46
 プロフェSSIONナルケア..... 46

へ

平滑舌..... 6
 ベース..... 35
 へき地医療..... 12
 ヘッドギア..... 34
 ヘルスプロモーション..... 4, 12
 ヘルパンギーナ..... 33, 38, 41

ほ

蜂窩織炎（蜂巣炎）..... 37
 放射線..... 14
 放射線骨髄炎..... 39
 放射線障害..... 18, 40
 放射線（性）骨壊死..... 39
 放射線治療..... 27, 37
 放射線治療の有害事象と口腔管理..... 27
 放射線による有害事象..... 5
 放射線の影響..... 18
 放射線の性質と作用..... 8
 放射線の単位・測定..... 23
 放射線の防護・管理..... 8
 放射線防護..... 23
 萌出時期・順序..... 5
 萌出遅延..... 32
 萌出嚢胞..... 33
 疱疹性歯肉口内炎..... 33
 放線菌症..... 37
 保隙（静的咬合誘導）..... 34
 保健医療統計調査..... 14
 保健・医療・福祉・介護の制度と医療経済..... 3
 保健・医療・福祉・介護の法規と仕組み..... 12
 保健衛生法規..... 12
 保健指導..... 4, 12, 50
 母子健康手帳..... 13

母子歯科保健と児童福祉..... 13
 ポジトロンエミッション断層撮像（PET）..... 23
 母子保健..... 4, 13
 補修修復..... 35
 保存療法..... 8
 保存療法と外科療法..... 25, 47
 保定..... 34
 保定装置..... 34
 補綴装置に対する指導..... 46
 補綴装置の清掃状態..... 9
 補綴装置の適合状態..... 9
 補綴装置の破損とその対応..... 46
 補綴装置の評価..... 44
 補綴前外科手術..... 39
 母斑性基底細胞癌症候群..... 41
 ポリエーテルゴム..... 28
 ポリカーボネート..... 29
 ポリカルボキシレートセメント30
 ポリスルフォン..... 29
 ポリソムノグラフィ..... 24
 ポリファーマシー..... 27, 48

ま

埋入計画の立案..... 45
 埋伏歯..... 32
 埋没..... 44, 45
 埋没材..... 29
 マウスガード..... 33, 43
 膜内（膜性）骨化..... 17
 麻疹..... 33, 41
 麻酔..... 26
 麻酔法..... 9
 摩耗症..... 35
 マルチブラケット装置..... 34
 慢性甲状腺炎（橋本病）..... 42
 慢性再発性アフタ..... 38
 慢性腎臓病（CKD）.. 22, 25, 47
 慢性閉塞性肺疾患（COPD）.. 22, 25, 43, 47

み

味覚..... 9, 16, 17
 身元確認..... 13
 脈管系..... 4

む

無顆粒球症..... 42

め

メタアナリシス..... 8
 メタ分析（メタアナリシス）.. 8
 メタボリックシンドローム対策 4
 血友病A・B..... 42
 メトヘモグロビン血症..... 43
 メラニン色素沈着症..... 38
 免疫..... 15, 20
 免疫・アレルギー疾患22, 25, 48
 免疫・アレルギー性疾患..... 9
 免疫異常..... 5
 免疫系..... 4
 免疫系臓器..... 15
 免疫血清学検査..... 7, 24
 免疫疾患..... 43
 免疫性血小板減少性紫斑病41, 42
 免疫担当細胞..... 15
 免疫チェックポイント阻害薬. 38
 免疫不全..... 18
 免疫不全症..... 25, 48
 免疫療法..... 27, 38
 メンタルヘルス対策..... 13

も

毛状（様）白板症..... 6, 41
 毛舌..... 38
 模型用材料..... 10, 28
 モデリングコンパウンド..... 28
 モニタリング..... 26

や

焼きなまし..... 29
 薬剤関連顎骨壊死..... 39
 薬剤情報の収集..... 22
 薬剤耐性 [antimicrobial resistance (AMR)] 3
 薬事衛生法規..... 12
 薬物..... 7, 48
 薬物アレルギー検査..... 24
 薬物性口内炎..... 38
 薬物性歯肉増殖症..... 37
 薬物適用の注意..... 27
 薬物動態..... 9, 27

薬物に関連する口腔・顎顔面領域
の症候..... 6
薬物の副作用・有害事象の種類・
機序・対策..... 27
薬物副作用..... 40
薬物・放射線の影響..... 5
薬物療法..... 9, 27, 36
薬理作用..... 9

ゆ

ユーティリティーワックス... 28
有病率..... 14
癒合歯..... 32
癒着歯..... 32
ユニバーサル・ヘルス・カバレッ
ジ〈UHC〉..... 14
ユニバーサルデザイン..... 12

よ

要介護度..... 22
溶血性貧血..... 42
幼児の歯肉嚢胞..... 33
溶接..... 29
予防衛生法規..... 12
予防矯正..... 34
予防手段..... 4
予防接種法..... 14
予防填塞..... 10, 35
予防填塞用材料..... 28
予防と健康管理・増進..... 4
歯齢..... 5

ら

ライニング..... 35
ライフステージ別にみた保健・福
祉..... 13
ラヌーラ..... 40

り

リウマチ性顎関節炎..... 40
罹患率..... 14
力学的要件..... 44
リコールとメンテナンス... 46
裏層法..... 35
裏層材..... 29
リップバンパー..... 34
リハビリテーション..... 26

リハビリテーションの理念..... 3
リベース..... 46
リモデリング..... 17
留意すべき疾患..... 22
領域リンパ節..... 7, 37
リライン..... 46
リライン材..... 29
リングアルアーチ〈舌側弧線装置〉
..... 33
リン酸亜鉛セメント..... 30
臨床疫学..... 14
臨床疫学的指標..... 8
臨床試験・治験と倫理..... 3
リンパ管系..... 15
リンパ系..... 16
リンパ節..... 20
リンパ節転移..... 37
リンパ節の症候..... 6

る

類天疱瘡..... 38, 41

れ

レーザー療法..... 27
暦年齢..... 17
レジンコーティング..... 35
レジン（樹脂）系材料..... 29
レジンセメント..... 30
レジン添加型ガラスアイオノマー
セメント..... 28, 30
レディキャストリングワックス28
連結子..... 45

ろ

老化..... 5, 17
ろう義歯..... 45
ろう付け..... 29, 44
労働衛生の3管理..... 13
ロコモティブシンドローム... 47
ロストワックス法による製作... 44

わ

矮小歯..... 32
和漢薬..... 22
和漢薬（漢方薬）..... 27, 48
ワックス..... 10, 28
ワックスアップ..... 44

ワックスパターン..... 44

齒科医師国家試験制度改善検討部会報告書

令和7年3月31日

目 次

I	はじめに	1
II	歯科医師国家試験について	1
III	歯科医師国家試験受験資格認定について	5
IV	多数回受験者への対応について	6
V	コンピュータ制やプール制の導入等について	6
VI	視覚素材の公募について	8
VII	その他	8
VIII	おわりに	8

I はじめに

歯科医師国家試験は、歯科医師法（昭和23年法律第202号）第9条に基づき、「临床上必要な歯科医学及び口くう衛生に関して、歯科医師として具有すべき知識及び技能」について行われている。日本の歯科医療の質を担保するうえで重要な試験であり、歯科保健医療や歯学教育、社会情勢の変化に合わせて改善を行い質の向上に努めてきた。直近では、「歯科医師国家試験制度改善検討部会報告書（令和3年3月）」を踏まえ、第116回歯科医師国家試験（令和5年）から出題内容や合格基準の改善等が行われた。

歯学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）が令和4年11月に公表され、医師及び歯科医師に求められる基本的な資質・能力が共通化され、「情報・科学技術を活かす能力」や「総合的に患者・生活者をみる姿勢」が新設された。

令和3年5月には歯科医師法が改正され、厚生労働省令で定める共用試験に合格した歯学生は、臨床実習において歯科医業をすることができることとされ（令和6年4月施行）、今後、同試験への合格が歯科医師国家試験の受験資格要件となる（令和8年4月施行）予定である。

歯科医師臨床研修は平成18年度の必修化以降、概ね5年毎に見直しが行われており、現在、歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂や歯科医療提供体制に関する近年の検討状況等を踏まえて令和8年度の制度改正に向けて検討が行われている。

これら歯科医師養成の過程における改正や検討状況を踏まえつつ、シームレスな歯科医師養成を考慮した歯科医師国家試験のあり方等について、令和6年8月に設置された医道審議会歯科医師分科会歯科医師国家試験制度改善検討部会において、ワーキンググループを含め8回にわたり議論を重ねた。

今般、歯科医師国家試験の改善に関する基本的な方向性等についての意見を取りまとめたので、ここに報告する。

II 歯科医師国家試験について

1. 共用試験との関係について

平成17年に、診療参加型臨床実習開始前に備えるべき知識と、技能・態度を評価する共用試験がトライアルを経て正式に実施を開始し、歯学教育モデル・コア・カリキュラムにおける卒業までに到達すべき学修目標のうち、診療参加型臨床実習開始前までに到達すべきレベルを考慮して実施されている。

令和2年に公表された医道審議会歯科医師分科会報告書「～シームレスな歯科医師養成に向けた共用試験の公的化といわゆる Student Dentist の法的位置づけについて～」を踏まえて歯科医師法が改正され、令和6年4月から共用試験に合格した歯学生が臨床実習として歯科医業を行うことができる旨が歯科医師法に明記され、同試験への合格が歯科医師国家試験の受験資格要件になることについて令和8年4月から施行予定であることを以て、共用試験が公的化された。

一般的に共用試験で出題される臨床実習前に到達すべきレベルの内容について、歯科医師国家試験で改めて出題することの必要性の有無が論点とされた。これについて本部会で検討した結果、臨床実習前に修得すべき単純な知識を問う問題は歯科医師国家試験においては出題する必要がないという意見があった一方で、共用試験と歯科医師国家試験の出題範囲については一部重複する場合があります、出題範囲による明確な差別化は困難であるという意見があった。

診療参加型臨床実習に参加するために合格しなければならない試験として共用試験が位置づけられたことから、臨床実習開始前に修得すべき知識については共用試験で出題し、将来的に歯科医師国家試験では、診療参加型臨床実習で培った能力を評価できる出題を行うことについて、それぞれの試験のあり方や実施状況を踏まえ、共用試験の実施機関である公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構と連携の下、引き続き議論を行う必要がある。

2. 問題数について

現行の歯科医師国家試験の問題数は、必修問題 80 題、一般問題（総論）100 題、一般問題（各論）80 題、臨床実地問題 100 題の計 360 題である。

この現行の問題数については、必修問題や一般問題で出題される内容の一部は既に共用試験で出題されているため一般問題を中心として削減するべきとする意見がある一方で、共用試験で出題された内容のうち、重要な事項や正解率の低い事項については歯科医師国家試験でも問うべきという意見もあることから、共用試験の実施状況を踏まえて引き続き議論を行う必要がある。

3. 合格基準について

現行の合格基準は、

- ・ 必修問題の得点
- ・ 一般問題及び臨床実地問題のうち、
- ・ 総論の得点
- ・ 各論の得点

という複数の領域において、領域毎に基準点を設けて全領域で基準点に達することを求めている。

必修問題は、歯科医師として必ず具有すべき基本的な最低限度の知識及び技能を有する者を識別する目的で出題されており、絶対基準で評価している。一般問題及び臨床実地問題は、問題の難易度による合格率の乱高下を防ぐ観点から相対基準で評価している。

一般問題及び臨床実地問題のうち、各論は「各論ⅠとⅡ」、「各論Ⅲ～Ⅴ」の2領域に基準点を設けていたが、前回の本部会報告書の提言において、臨床に即した問題の出題推進に伴う領域横断的な出題の増加と偶発的な要因で不合格となるリスクの観点から、領域を細分化する意義は薄いとされたことを踏まえ、各論は1領域として基準点を設けることにより、第116回歯科医師国家試験（令和5年）から新しい合格基準が適用されている。合格基準の変更による影響について、本部会において、評価の統計的信頼性等の観点から分析・検討を行ったが、評価の質の著しい低下は認められなかったため、現行の合格基準を引き続き採用する。

なお、合格基準については、現行の合格基準の適切性を検証しつつ、引き続き議論と検討を行う必要がある。

4. 出題形式について

現行の出題形式として、Aタイプ（5つの選択肢から1つの正解を選ぶ形式）、X2タイプ（5つの選択肢から2つの正解を選ぶ形式）、X3タイプ（5つの選択肢から3つの正解を選ぶ形式）、X4タイプ（5つの選択肢から4つの正解を選ぶ形式）、XXタイプ（5つの選択肢から正解数を指定せずに全ての正解を選ぶ形式）、LAタイプ（6つ以上の選択肢から1つの正解を選ぶ形式）、計算問題（数値を解答させる非選択形式）及び順序問題（治療手順等を解答させる非選択形式）が採用されている。

必修問題はAタイプのみ採用されていたが、前回の本部会報告書において、問題に多様性を持たせ、出題内容に即した形式を柔軟に選択できるよう、Aタイプに加えてX2タイプを採用することについて提言があり、第116回歯科医師国家試験（令和5年）から採用されている。

実施状況の分析結果等を踏まえ、引き続き必修問題にX2タイプを採用することとするが、出題に際して必修問題としての適切性については十分に留意する必要がある。

一般問題と臨床実地問題の出題形式のうち、XXタイプは、受験者の知識・臨床能力をより適切に評価していく観点から、平成19年の本部会報告書にて導入すべきであると提言され、第102回歯科医師国家試験（平成21年）から導入されたが、受験生への心理的負担が強いという意見があり、また、実施状況の分析結果から、他の出題形式と比較して、受験者の能力をより適切に評価する出題方法であるとは言えないものと考えられたため、第119回歯科医師国家試験（令和8年）から廃止する。その他の出題形式については引き続き採用するが、X3タイプ、

X4タイプ、LAタイプ、計算問題及び順序問題については、引き続き問題の質を十分に考慮する必要がある。

5. 出題内容等について

(1) 出題基準について

< 1 > 出題基準の改定について

シームレスな歯科医師養成の観点から、共用試験及び歯科医師国家試験を受験する歯学生が受ける歯学教育の一貫性の担保を図ることは重要であり、歯学教育モデル・コア・カリキュラムと歯科医師国家試験出題基準の整合性を保つ必要がある。

現在、歯科医師国家試験出題基準は、本部会報告書の内容を踏まえ、概ね4年に一度改定が行われている。しかし、歯学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に準拠した出題が行われる共用試験が公的化されたことを踏まえ、今後は歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂状況や、共用試験の実施状況を踏まえて出題基準の改定時期について決定することとする。

具体的には、歯学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）による歯学教育を受けた歯学生が初めて歯科医師国家試験を受験する第123回歯科医師国家試験（令和12年）に、公的化後の共用試験の実施状況等を踏まえた出題基準を適用することとする。一方で、令和5年版歯科医師国家試験出題基準は令和3年3月に公表されたことから、用語や社会情勢の変化などを踏まえた必要最小限の改定を行い、令和9年版歯科医師国家試験出題基準を第120回歯科医師国家試験（令和9年）から第122回歯科医師国家試験（令和11年）まで適用することとする。

< 2 > 令和9年版歯科医師国家試験出題基準で充実させる事項について

歯科医師臨床研修の制度改正に関する議論や、近年の社会情勢、歯科保健医療をめぐる状況を踏まえ、次の項目の充実を図る。

- ・ 情報倫理及びデータ保護に関する原則に関する内容

マイナンバーカードの健康保険証利用（マイナ保険証）やオンライン資格確認、診療録の電子化等、臨床現場で健康・医療・介護に関する情報の電子化が進んでおり、情報倫理及び個人情報を含むデータ保護のあり方について理解することが望ましい。

- ・ 病院歯科等の役割に関する内容

令和6年5月に公表された「歯科医療提供体制等に関する検討会」中間とりまとめにおいて、病院歯科と歯科診療所等との連携^{*1}を推進することの重要性や、病院歯科の規模・機能等により専門性の高い歯科医療の提供や地域の歯科医療機

関の後方支援機能等、歯科医療提供体制を検討するにあたりその果たす役割は大きいことから、地域の拠点となる病院歯科の役割について理解することが望ましい。

< 3 > 出題基準における歯科医学各論について

歯科医師国家試験合格後、診療に従事しようとする歯科医師は臨床研修を行うこととなっており、歯科医師として臨床研修において指導歯科医の下で診療に従事するのに必要な知識及び技能を有することが求められる。シームレスな歯科医師養成の観点から、特に出題基準の歯科医学各論の領域の事項については、臨床研修で必要とされる水準の知識及び技能について問う内容とするよう、出題基準の項目について引き続き検討することとする。

(2) 英語問題について

平成19年の本部会報告書において、歯科保健・医療分野におけるグローバル化を考慮した試験のあり方について検討していくことが望ましいとされ、第107回歯科医師国家試験(平成26年)から必修問題において英語問題が出題されている。

しかし、近年出題された問題について正答率の変動が大きく、歯学生にとっても学習が困難な領域となっている。歯科医師として具有すべき英語能力について問う出題については、外国人患者への診察を行う際に必要な基礎的な英語の能力を中心とすることが望ましい。

III 歯科医師国家試験受験資格認定について

外国の歯科大学(歯学部)を卒業した者または歯科医師免許を取得した者が、我が国で歯科医師国家試験の受験資格を得るには、厚生労働大臣による認定が必要であり、書類審査によって、「予備試験受験資格認定」、「本試験受験資格認定見込み」、または「不認定」のいずれかとなる。

「予備試験受験資格認定」を受けた者は、筆記と実技試験による「歯科医師国家試験予備試験」に合格後、1年以上の実地修練を終了してから歯科医師国家試験の受験が可能となる。「本試験受験資格認定見込み」を受けた者は、「日本語診療能力調査」に合格したのちに「本試験受験資格認定」を受けることで、歯科医師国家試験を受験することが可能となる。

「日本語診療能力調査」は、日本語を用いて診療するために十分な能力を有しているか否かを調査するものである。前回の本部会報告書において、我が国の卒前教育の充実や現状の「本試験受験資格認定」を受けた者の歯科医師国家試験の受験結果を踏まえ、「日本語診療能力調査」の合格基準を見直すこととされ、新しい合格基準(以下「新基準」という。)が令和3年から適用されている。本部会で

新基準の妥当性を検討したが、新基準適用後の「日本語診療能力調査」を受けた者が少なく、結論を得ることはできなかった。そのため、新基準を引き続き採用するが、その妥当性については受験資格認定のあり方も含めて引き続き検討することとする。

また、「歯科医師国家試験予備試験」への共用試験の活用、「日本語診療能力調査」への診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験 Post-Clinical Clerkship Performance Examination (以下「Post-CC PX」という。)の活用は、今後共用試験や、Post-CC PXの実施状況を踏まえて引き続き検討することとする。

IV 多数回受験者への対応について

歯科医師国家試験の受験可能回数制限について、前回の本部会報告書では、「国家試験合格後、臨床研修歯科医師として歯科医業に従事するうえで、多数回受験者が新卒者と比べて問題があるといった事実が確認できないことから、導入は行わないこと」とした。

一方で、前回の本部会報告書において、「臨床実習を終えて長期間経過した後に歯科医師国家試験に合格した者」へ、「共用試験臨床実習前 OSCE や Post-CC PX を課す等の仕組みについて検討する必要がある」とされたが、卒前の能力評価に用いる試験を、卒後歯科医師国家試験に合格した者へ課すことについての妥当性について十分検討する必要があるとの意見があり、シームレスな歯科医師養成の観点から、効果的な臨床研修が実施出来るような卒後教育の仕組みについて検討する必要がある。

V コンピュータ制やプール制の導入等について

1. 歯科医師国家試験にコンピュータを活用すること (以下「コンピュータ制」という。) と、動画を用いた出題について

コンピュータ制を歯科医師国家試験に導入する場合、各試験会場で一定以上の性能が担保された機器 (モニタ、サーバー等) を準備し、試験実施時にコンピュータやネットワークの不具合に対応できる体制を準備する必要がある。

歯科医師国家試験にコンピュータ制を導入し、視覚素材として動画を用いることで、臨床に即した出題が可能になるが、動画を用いた出題を行う場合は、現行の出題と比べて情報量が増え難易度が上がる可能性があり、受験生の負担が増加する可能性がある。

また、作問時に動画の編集技術が求められること、動画の撮影時に複数人の協力が必要な場合があることから、作問時の負担が増加する可能性がある。

さらに、口腔内の歯科臨床現場を撮影する場合、術野が狭く動画に高い解像度が求められることから、動画を再生するために用いる全てのコンピュータやモニタに一定の性能が要求される。

これらの点から、歯科医師国家試験にコンピュータ制を導入することと、動画を用いた出題を行うことは、利点があるもののクリアすべき課題が多く、段階を踏んだ導入の検討を行うことが望ましい。

2. 試験問題のプール制について

(1) 既出問題をプール問題とすることについて

良質な試験問題を一定数プールする目的で、平成 14 年(第 95 回)の国家試験から問題冊子の回収が行われ、回収された試験問題はブラッシュアップ(収集した問題の修正)プロセスを経て定期的に問題の内容を見直し、プール制へ移行を図ることについて平成 12 年の本部会報告書で提言された。しかし、平成 17 年度の「行政機関の保有する情報の公開に関する法律」に基づく異議申し立てに対する、内閣府情報公開・個人情報保護審査会の答申を受けて、問題冊子の持ち帰りが認められたことから、事実上プール制への移行は困難となり、試験委員会が毎年作成する新規問題が歯科医師国家試験の主体をなしている。

(2) 公募問題をプール問題とすることについて

プール制への移行を図るためには、適切な問題を数多くプールする必要があることから、平成 14 年度より全国の歯科大学・歯学部に対し試験問題の公募を開始した。しかし、公募問題は、試験委員会での推敲に要する負担が大きいことから、現在は新規問題の作問に必要な視覚素材を確保する観点において、視覚素材のみを公募している。

(3) 今後の試験問題のプール制について

前回の本部会報告書において、「歯科医師国家試験のコンピュータ化によって、災害時等現行の体制では試験の実施が困難な状況においても、複数回の試験の実施等、柔軟な対応が可能となる意見がある」とされた。これは、試験へのコンピュータの活用と試験問題のプール制を前提とした、共用試験 CBT と同様の方法^{*2}での試験実施を意味するが、(1)と(2)で述べたとおり事実上プール制に必要な一定の問題数を確保することは困難である。

なお、災害時等試験の実施が困難な状況について、ブラッシュアップされた既出問題や、出題範囲が重複する等の理由で試験問題として採用されなかった新規問題を緊急時の試験問題として使用できるように備える等、柔軟な対応が行えるように準備をしておくことが望ましい。

3. AI の活用の可能性について

一定の問題数を確保するために、作問に際しての AI（人工知能）の活用の可能性が挙げられた。

AI の活用に関しては、一般的な内容を問う問題の作成に有効なのではないかという意見があったほか、問題文のみならず視覚素材の生成にも役立つのではないかという意見があった。その一方で、試験委員会において問題の内容や視覚素材の適切性の確認を行う必要があり、その結果、修正作業が必要となる可能性も考慮しなければならないため、AI を作問ツールとして活用することが可能であるか否かについては、情報機密性の担保の観点も含め、今後の AI の成熟状況も注視しながら検討する必要がある。

VI 視覚素材の公募について

視覚素材は、その質の問題や、同一症例について作問に必要な画像が揃っていないこと等の課題はあるものの、試験委員会での公募による視覚素材の取扱いについて運用の改善を図った結果、活用される機会が増えつつある。

応募する際の留意事項について、撮影条件や画像品質、作問に必要な画像等についてより詳細な記載をする等の改善を行い、公募による視覚素材をより活用しやすくする必要がある。

VII その他

歯科医師国家試験で採用している多肢選択式問題は、知識の評価には適しているものの、技能の評価としては必ずしも適切とは言えないという意見がある。

歯科医師国家試験としての技能の評価について、共用試験 OSCE や今後の Post-CC PX の成熟状況を踏まえつつ、より適切な評価方法について検討を行うことが望ましい。

VIII おわりに

歯科医師国家試験と、共用試験及び歯科医師臨床研修のあり方については引き続き議論が必要である。令和 8 年度を目処にそれぞれの関係性について整理し、その結果を踏まえ、問題数及び合格基準、出題内容について改善が必要な場合は令和 9 年度を目処に検討を開始し、その後の歯科医師国家試験に適用できるよう努める。

※1 病院歯科と歯科診療所等との連携

歯科医師国家試験において、病院歯科と連携する歯科診療所等とは、具体的には歯科診療所（訪問歯科診療を行う歯科診療所を含む）、いわゆる口腔保健センター、介護施設、地域包括支援センター等を示す。

※2 共用試験 CBT と同様の方法

個々の受験者に対して難易度と識別力を同程度に揃えた異なる問題が出題され、異なる日時で受験が可能である。

医道審議会 歯科医師分科会
歯科医師国家試験制度改善検討部会委員

栗野 秀慈 九州歯科大学 理事長・学長

◎ 一戸 達也 東京歯科大学 学長

興地 隆史 東京科学大学 教授

栗田 浩 信州大学 教授

斎藤 隆史 北海道医療大学 教授

櫻井 孝 神奈川歯科大学 学長

瀬古口 精良 公益社団法人日本歯科医師会 専務理事

高橋 邦彦 東京科学大学 教授

田口 則宏 鹿児島大学 教授

仲野 道代 岡山大学 教授

野上 康子 教育測定研究所研究開発本部教育測定評価室 副室長

林 孝文 新潟大学 教授

○ 三浦 宏子 北海道医療大学 教授

山口 育子 NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長

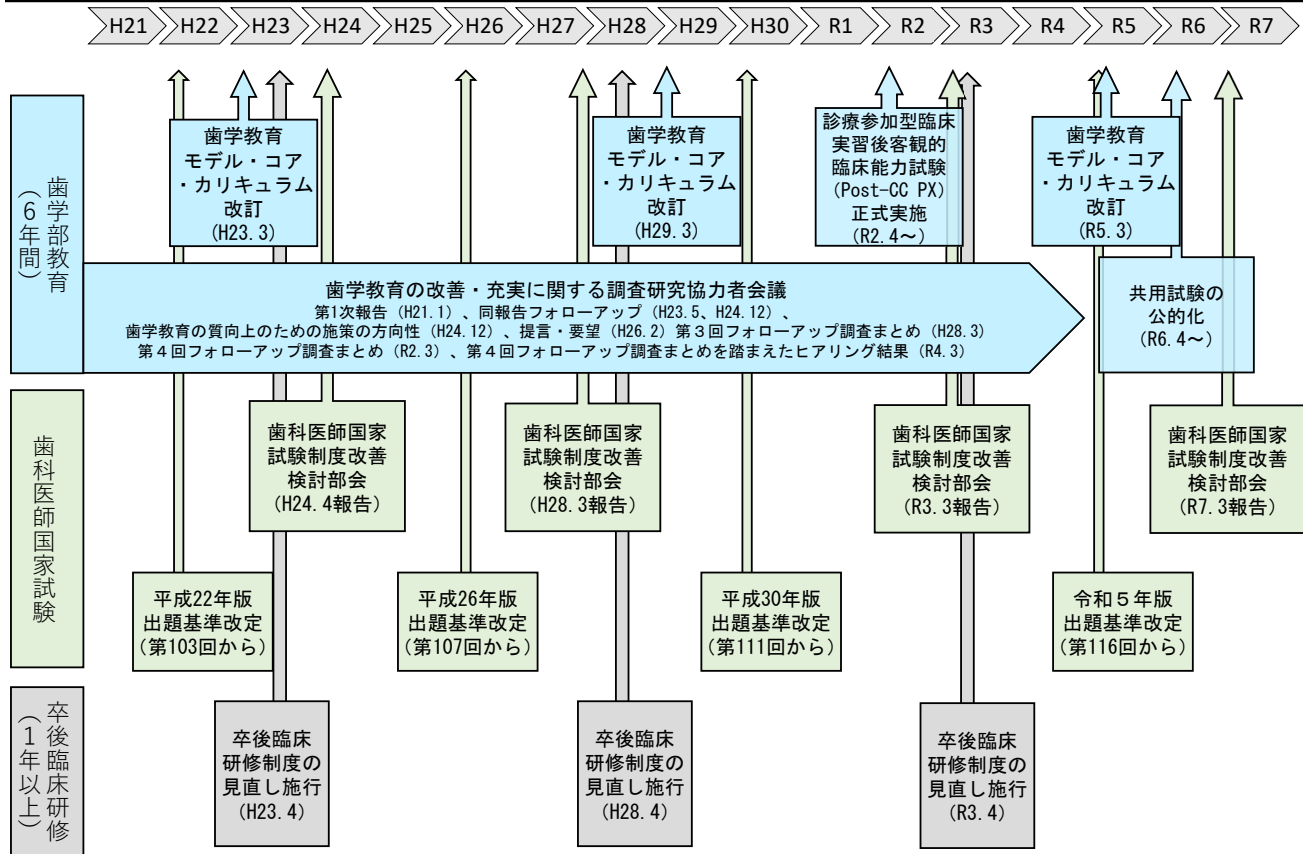
山本 龍生 神奈川歯科大学 副学長

(オブザーバー)

俵 幸嗣 文部科学省高等教育局医学教育課長

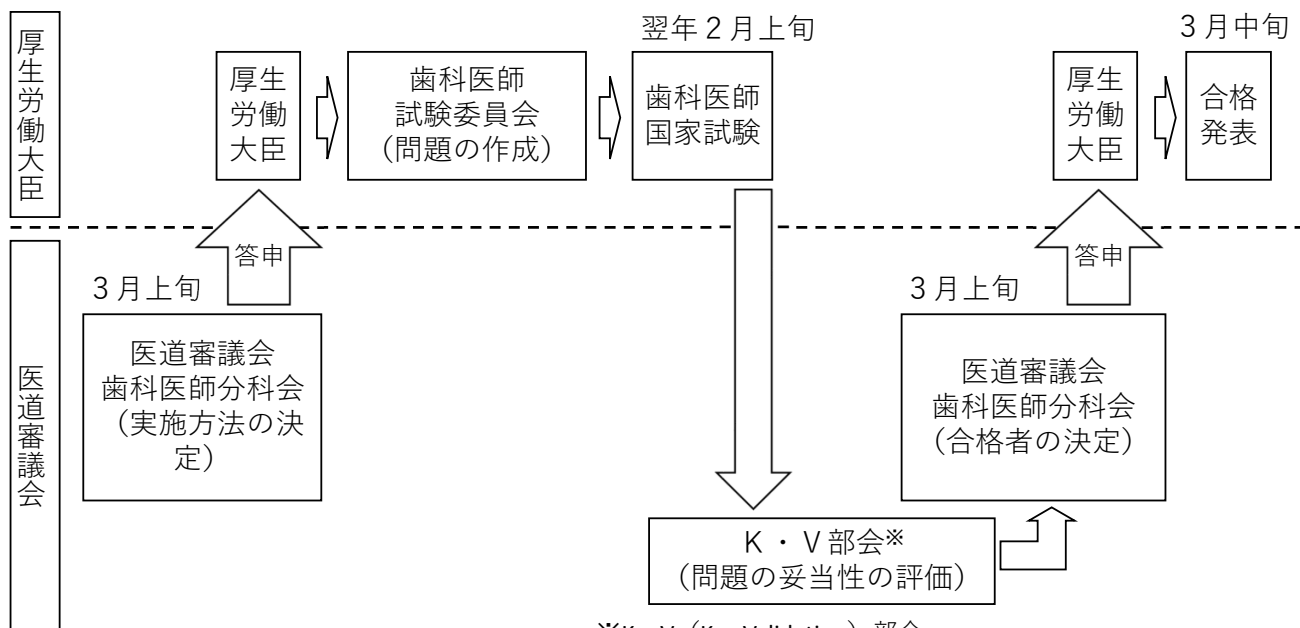
※◎は部会長、○は部会長代理。敬称略、50音順。

卒前・卒後の歯科医学教育を巡る近年の動き



1

歯科医師国家試験の実施・見直しに関する大まかな流れ



※K・V (Key Validation) 部会
医道審議会歯科医師分科会の下に設置されており、試験の実施結果を踏まえ、問題の妥当性を検討している。

2

令和5年版歯科医師国家試験出題基準（概要）

歯科医師国家試験は、歯科医師法第9条に基づいて、「臨床上必要な歯科医学及び口くう衛生に関して、歯科医師として具有すべき知識及び技能について」行われる。第9条にいう「知識と技能」とは、臨床研修歯科医師として歯科医療に第一歩を踏み出し、指導歯科医の下でその任務を果たすのに必要な基本的知識及び技能であると考えられる。

その内容を具体的な項目によって示したのが、歯科医師国家試験出題基準（ガイドライン）である。歯科医師国家試験の妥当な内容、範囲及びレベルを確保するため、歯科医師試験委員は、この基準を踏まえて出題する。ただし、出題内容に関する最終的な判断は、試験委員会が行うものとする。

出題基準は、ブループリント（歯科医師国家試験設計表）で出題割合を示し、合格基準にもその領域を採用している。

ブループリント（歯科医師国家試験設計表）

（出題割合は概数なので必ずしも合計が100%にならない場合がある。）

「必修の基本的事項」（約22%）	
1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム	約2%
2 社会と歯科医療	約13%
3 予防と健康管理・増進	約5%
4 人体の正常構造・機能	約15%
5 人体の発生・成長・発達・加齢	約5%
6 主要な疾患と障害の病因・病態	約12%
7 主要症候	約10%
8 診察の基本	約7%
9 検査・臨床判断の基本	約11%
10 初期救急	約4%
11 治療の基礎・基本手技	約14%
12 一般教養的事項	約3%

「歯科医学総論」（約28%）	
総論Ⅰ 保健・医療と健康増進	約19%
総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢	約15%
総論Ⅲ 病因、病態	約8%
総論Ⅳ 主要症候	約4%
総論Ⅴ 診察	約8%
総論Ⅵ 検査	約14%
総論Ⅶ 治療	約19%
総論Ⅷ 歯科材料と歯科医療機器	約13%

「歯科医学各論」（約50%）	
各論Ⅰ 成長・発育に関連した疾患・病態	約19%
各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患	約24%
各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患	約23%
各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害	約24%
各論Ⅴ 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療	約10%

※ 歯科医学各論において、出題割合の約6%を歯科疾患の予防・管理に関する項目から出題する。

3

歯科医師国家試験制度改善の概要（出題数・出題内容・合格基準）

制度改善の項目		平成28年3月 （平成30年（第111回））	令和3年3月 （令和5年（第116回））	令和7年3月 （令和9年（第120回）、令和12年（第123回））	
出題数 （必修問題）		360題 （80題に増加）	360題 （80題）	360題 （80題）	
出題内容 （全体）		将来を見据え、社会情勢の変化に合わせて、次の項目の充実を図る。 ・高齢化等による疾病構造の変化に伴う歯科治療の変化に関する内容 ・地域包括ケアシステムの推進や多職種連携等に関する内容 ・口腔機能の維持向上や摂食機能障害への歯科治療に関する内容 ・医療安全やショック時の対応、職業倫理等に関する内容	近年の歯科医療を巡る状況や歯学教育の教授内容を踏まえ、前部会報告書で充実を図るとした内容に加え、次の項目も出題を行う。 ・歯科医師として必要な、和漢薬を服用する高齢者や全身疾患を持つ者等への対応に関する内容 ・医療のグローバル化に伴い、歯科医師による国際貢献がこれまで以上に求められている現状を踏まえた国際保健に関する内容	令和9年（第120回）	令和12年（第123回）
合格基準	必修問題	絶対基準での評価を継続	絶対基準での評価を継続 出題内容に即した形式を柔軟に選択できるようAタイプに加えてX2タイプを採用	絶対基準での評価を継続 英語問題は、診療を行う際に必要な基礎的な英語の能力を中心とする。	
	一般問題 臨床実地問題	受験者の質の変動に左右されず、歯科医師として具有すべき知識及び技能を有している者を適切に評価するために採用している現在の方法を継続。	現行の出題数と形式を引き続き採用し、タクソミーの高い出題を一層推進していく。 現在の3領域別の合格基準を見直し、総論と各論の2領域別に合格基準を設定する。	XXタイプでの出題は 令和8年（第119回）から廃止 する。 現在の2領域別の合格基準を引き続き採用する。	公的化した共用試験の実施状況を踏まえ、出題内容とともに今後検討を行う。

4

試験の時間割と解答時間

・幅の広い出題を可能にするため、午前の冊子、午後の冊子ともに必修問題・一般問題・臨床実地問題を均等に出題させる。

	現在
	出題数
必修問題	80問
一般問題	180問
臨床実地問題	100問
合計	360問

試験日	出題区分と試験時間		合計時間
1日目	A (135分)	B (135分)	4時間30分
2日目	C (135分)	D (135分)	4時間30分
出題内容 問題数	必修問題・一般問題：合計65問 (1問当たり約65秒) 臨床実地問題：25問 (1問当たり約2分40秒)		

5

歯科医師国家試験における問題の形式

<Aタイプ>

5つの選択肢の中から1つの正解を選ぶ形式

<X2、X3、X4タイプ>

5つの選択肢の中から2～4つの正解を選ぶ形式

<LAタイプ>

6～10の選択肢から1つの正解肢を選ぶ形式

<計算問題>

医薬品の処方（用法・用量等）や検査値等、数値を計算により解答させる形式

<順序問題>

治療手順等を正しい順に解答させる形式

6

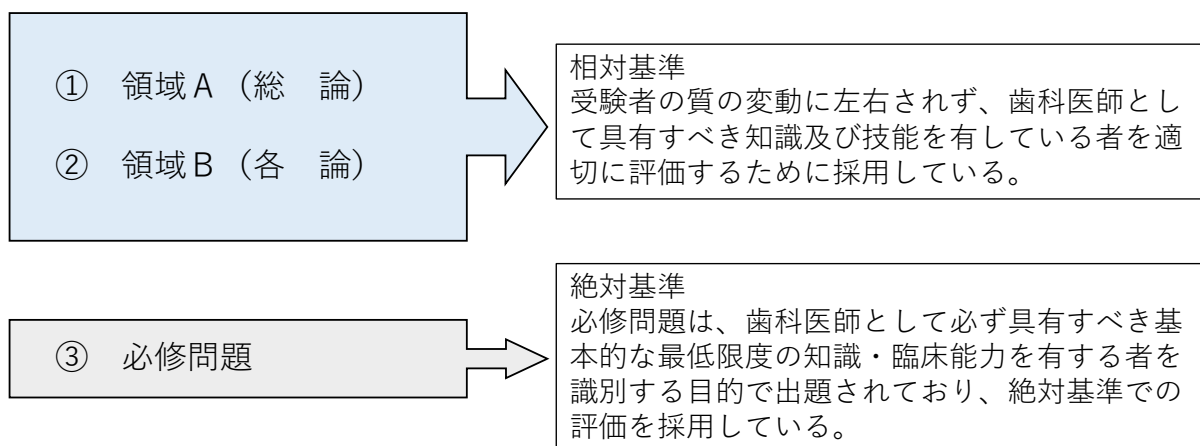
歯科医師国家試験の変遷

回数		83～86	87～90	91～94	95～98	99～102	103～106	107～110	111～115	116～		
年		H 2～5	6～9	10～13	14～17	18～21	22～25	26～29	30～R 4	5～		
年間試験実施回数		1回										
筆記試験の実施日数		1.5日			2日							
試験内容	試験科目	基礎		(総論に含まれる)								
		臨床	学説	8科目(口腔外科、保存、補綴、矯正、口腔衛生、小児歯科、歯科放射線、歯科医学・医療総論)	歯科医学・歯科保健医療総論、 歯科医学・歯科保健医療各論 (科目別出題の廃止)			歯科医学総論、歯科医学各論				
			実技(実地)	昭和57年に廃止、昭和58年以降は臨床実地								
		臨床実地		60問	80問	100問	105問			100問		
		必修					30問	50問	70問	80問		
		計	科目	8			平成9年に科目別出題が廃止、平成10年以降は領域別出題					
			設問数	280問	280問	330問	365問	365問		360問		
	試験方法	解答形式		昭和51年以降は客観的多肢選択形式を採用、 102回以降はXXタイプを追加、105回以降は計算問題とLAタイプを追加						X3、X4、 順序問題を追加	必修にX2 を追加	
		実技(実地)試験	口腔外科	昭和50年に廃止、昭和58年以降は臨床実地問題を採用								
			保存	昭和57年に廃止、昭和58年以降は臨床実地問題を採用								
補綴			昭和57年に廃止、昭和58年以降は臨床実地問題を採用									
禁忌肢					平成14年に導入、平成30年以降は廃止							

7

歯科医師国家試験の合格基準

一般問題(必修問題を含む)を1問1点、臨床実地問題を1問3点とし、以下の全てを満たすことが必要。



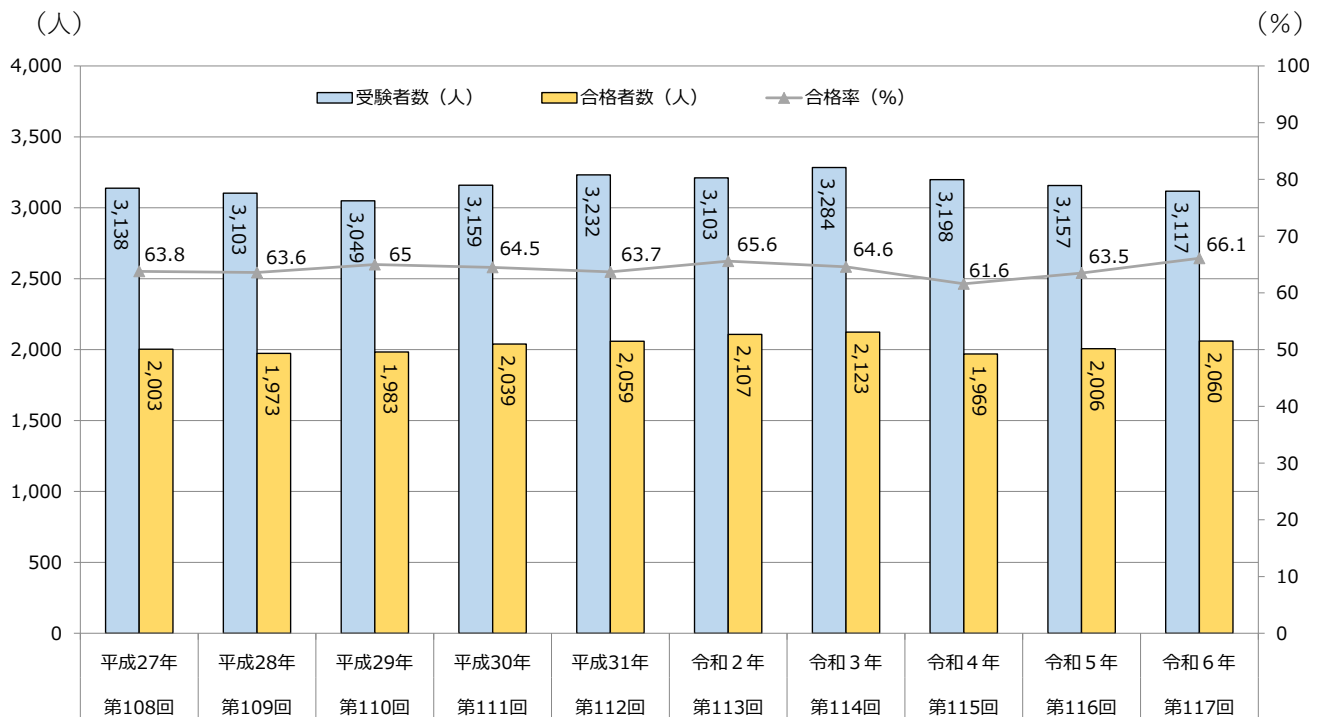
8

歯科医師国家試験 合格者数等の推移

回数	施行年月日	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)
第108回	平成27年1月31～2月1日	3,138 (1,995)	2,003 (1,457)	63.8 (73.0)
第109回	平成28年1月30～31日	3,103 (1,969)	1,973 (1,436)	63.6 (72.9)
第110回	平成29年2月4～5日	3,049 (1,855)	1,983 (1,426)	65.0 (76.9)
第111回	平成30年2月3～4日	3,159 (1,932)	2,039 (1,505)	64.5 (77.9)
第112回	平成31年2月2～3日	3,232 (2,000)	2,059 (1,587)	63.7 (79.4)
第113回	令和2年2月1～2日	3,211 (1,995)	2,107 (1,583)	65.6 (79.3)
第114回	令和3年1月30～31日	3,284 (2,103)	2,123 (1,687)	64.6 (80.2)
第115回	令和4年1月29～30日	3,198 (1,999)	1,969 (1,542)	61.6 (77.1)
第116回	令和5年1月28～29日	3,157 (1,919)	2,006 (1,483)	63.5 (77.3)
第117回	令和6年1月27～28日	3,117 (1,962)	2,060 (1,600)	66.1 (81.5)

※ () 内は新卒者を示す 9

歯科医師国家試験の合格率等の推移



歯科医師国家試験 男女別合格者等の推移

回数		総数	男性	女性	男女別合格率 (%)	
					男性	女性
第113回 (令和2年)	受験者数(人) [男女比(%)]	3,211	1,949 [60.7]	1,262 [39.3]	62.3	70.7
	合格者数(人) [男女比(%)]					
第114回 (令和3年)	受験者数(人) [男女比(%)]	3,284	1,928 [58.7]	1,356 [41.3]	61.1	69.7
	合格者数(人) [男女比(%)]					
第115回 (令和4年)	受験者数(人) [男女比(%)]	3,198	1,856 [58.0]	1,342 [42.0]	57.4	67.4
	合格者数(人) [男女比(%)]					
第116回 (令和5年)	受験者数(人) [男女比(%)]	3,157	1,829 [57.9]	1,328 [42.1]	59.2	69.5
	合格者数(人) [男女比(%)]					
第117回 (令和6年)	受験者数(人) [男女比(%)]	3,117	1,837 [58.9]	1,280 [41.1]	62.0	72.0
	合格者数(人) [男女比(%)]					

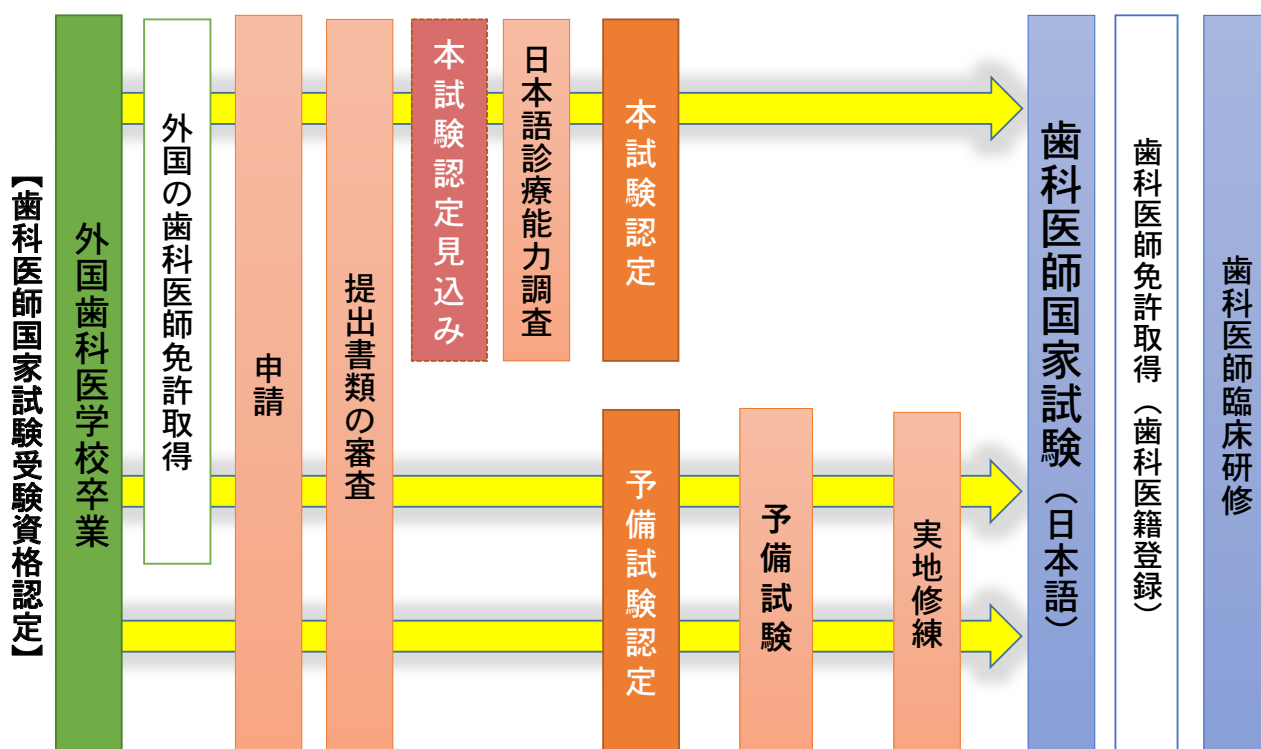
11

第117回歯科医師国家試験 卒業年次別受験者数・合格者数・合格率

卒業年次		受験可能回数	受験者数(人)	構成比(%)	合格者数(人)	合格率(%)
新卒	令和5年4月～ 令和6年3月	1回	1,962	62.9	1,600	81.5
既卒	令和4年4月～ 令和5年3月	2回	496	15.9	290	58.5
	令和3年4月～ 令和4年3月	3回	184	5.9	76	41.3
	令和2年4月～ 令和3年3月	4回	121	3.9	40	33.1
	平成31年4月～ 令和2年3月	5回	80	2.6	19	23.8
	平成30年4月～ 平成31年3月	6回	52	1.7	12	23.1
	平成29年4月～ 平成30年3月	7回	53	1.7	7	13.2
	平成28年4月～ 平成29年3月	8回	47	1.5	8	17.0
	平成27年4月～ 平成28年3月	9回	38	1.2	4	10.5
	平成27年3月 以前	10回以上	84	2.7	4	4.8
計			1,155	37.1	460	39.8
総計			3,117	100	2,060	66.1

12

外国歯科医師による日本の歯科医師免許取得の流れ



13

歯科医師国家試験受験資格認定の基準について

		歯科医師国家試験受験資格認定	歯科医師国家試験 予備試験受験資格認定
外国 歯科 医学校 の 修業 年数	歯科医学校の 入学資格	高等学校卒業以上（修業年数12年以上）	
	歯科医学校の教育 年限及び履修時間 (大学院の修士課程、 博士課程等は 算入しない)	6年以上（進学課程；2年以上、専門課程；4年以上）の一貫した専門教育（4500時間以上）を受けていること。ただし、5年であっても、5500時間以上の一貫した専門教育を受けている場合には、基準を満たすものとする。	5年以上（専門課程；4年以上）であり、専門科目の履修時間が3500時間以上で、かつ一貫した専門教育を受けていること。
	歯科医学校卒業までの修業年限	18年以上 (教育年限が5年以上の場合は17年以上)	17年以上
歯科医学校卒業からの年数		10年以内（但し、歯科医学教育又は歯科医業に従事している期間は除く）	
専門科目の成績		良好であること	
教育環境		大学付属病院の状況、教員数等が日本の大学とほぼ等しいと認められること	大学付属病院の状況、教員数等が日本の大学より劣っているものでないこと
歯科医学校卒業後、当該国の歯科医師免許取得の有無		取得していること	取得していなくてもよい
日本語能力		日本の中学校及び高等学校を卒業していない者については、日本語能力試験N1（平成21年12月までの認定区分である日本語能力試験1級を含む。）の認定を受けていること	

14

歯科医師国家試験予備試験について

○ 試験科目

(1) 学説試験第一部試験

解剖学（組織学を含む。）、生理学、生化学（免疫学を含む。）、薬理学、病理学、微生物学および衛生学

(2) 学説試験第二部試験

口腔外科学、保存学、補綴学、矯正学および小児歯科学

(3) 実地試験

口腔外科学、保存学、補綴学および矯正学

○ 試験内容

(1) 学説試験

各科目につき、多肢選択式問題と用語の組合せや穴埋め等の問題となっている。

(2) 実地試験

人工歯を用いた根管口明示や総義歯の人工歯排列、エックス線写真・口腔内写真や歯列模型等を用いた診断や治療方針等を問う問題となっている。

15

歯科医師国家試験受験資格認定等の状況

年度	受験資格認定の状況		予備試験の実施状況								
	本試験 認定者数 (名)	予備試験 認定者数 (名)	学説試験第一部試験			学説試験第二部試験			実地試験		
			受験者数 (名)	合格者数 (名)	合格率 (%)	受験者数 (名)	合格者数 (名)	合格率 (%)	受験者数 (名)	合格者数 (名)	合格率 (%)
平成27	3	4	3	2	66.7	2	2	100.0	2	2	100.0
平成28	5	3	3	0	0.0	0	0	-	0	0	-
平成29	4	4	3	1	33.3	1	1	100.0	1	0	0.0
平成30	5	5	4	3	75.0	3	3	100.0	4	4	100.0
令和元	7	6	5	1	20.0	1	1	100.0	1	1	100.0
令和2	6	0	5	1	20.0	1	1	100.0	1	1	100.0
令和3	2	2	4	2	50.0	2	2	100.0	2	2	100.0
令和4	2	5	4	2	50.0	2	2	100.0	2	2	100.0
令和5	9	3	5	3	60.0	3	3	100.0	3	3	100.0
令和6	5	4	3	1	33.3	1	1	100.0	1	1	100.0

16